

平成4年度埋蔵文化財発掘調査報告 1

古林第4遺跡I(石器編)

1999. 3

大泉村教育委員会

平成4年度埋蔵文化財発掘調査報告 I

古林第4遺跡I(石器編)

1999. 3

大泉村教育委員会



磨製品



石斧

序

雄大な八ヶ岳の麓に位置する大泉村は、多くの湧水に恵まれ、多くの動植物を育んできました。また、それを利用して多くの人間が古来より活動を展開し、そのため大泉村には縄文時代から中世に至る多くの遺跡が残されています。

現在の大泉村の基幹産業は豊かな湧水を利用した水稻耕作で、その近代化を図るために圃場整備事業が推進されました。その圃場整備事業に伴い、村内では数多くの遺跡が発掘調査され、私たちは往古の生活のようすを垣間見ることができます。

しかし、この発掘調査によって史跡金生遺跡のように後世に残されたものもありますが、多くの遺跡は記録だけが保存され、ほとんどの部分が破壊されたということも忘れてはなりません。大泉村での圃場整備事業は平成7年度で完了しましたが、調査に追われ未整理の遺跡も数多くあり、かけがえのない遺跡の姿を後世に伝えるためにも今後も順次整理作業に取り組んでまいります。

今回ここに報告するのは平成4年度県営圃場整備事業に伴い発掘調査された古林第4遺跡出土の石器に関する報告です。今後出土土器、遺構についても報告予定ですが、この報告が広く教育や研究の場で活用されることを希望します。

最後に地域住民の皆様のご理解、ご協力のもとに発掘調査が完了しましたことを深く感謝するとともに、調査、あるいは整理作業についてご指導、ご協力をいただいた関係者、関係諸機関の皆様に深く感謝申し上げます。

平成11年3月

大泉村教育委員会

教育長 藤原 昭

例　　言

1. 本書は平成4年度県営圃場整備事業に伴う古林第4遺跡発掘調査報告書石器編である。
2. 古林第4遺跡は山梨県北巨摩郡大泉村西井出2466番地外に所在する。調査面積は4,458m²を測る。
3. 本調査は狭北土地改良事務所との負担協定により、狭北土地改良事務所から負担金を、文化庁、山梨県より補助金を受けて大泉村教育委員会が実施した。
4. 本報告書の執筆はI～III章を伊藤が、IV章を角張が執筆し、伊藤が編集した。
5. 石器に係わる洗浄、注記以外の全ての作業は鶴東京航業研究所に委託した。
6. 発掘調査および報告書作成に当たっては次の諸氏、諸機関にご助言、ご指導を賜った。記して謝意を表したい。

今福利恵　間間俊明　小野正文　梅原功一　長沢宏昌　新津　健　保坂康夫　山本茂樹

(以上五十音順、敬称略)

狭北土地改良事務所　山梨県教育委員会学術文化財課　山梨県埋蔵文化財センター

7. 本報告書使用地図は国土地理院発行1/50,000八ヶ岳、韮崎、1/25,000谷戸及び狭北土地改良事務所作成の工事計画図1/1,000である。
8. 本調査の出土品、諸記録は全て大泉村歴史民俗資料館に保管している。

目　　次

序

例言

目次

I 調査の経過	1
1 調査の経緯と経過	1
遺跡の発見と現地の調査	1
整理作業	1
2 調査の方法	2
3 調査組織	2
II 周辺の環境	3
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	3
III 発見された遺構と遺物	7
1 概要	7
2 遺構の時期細別	7

IV 古林第4遺跡の石器について	12
1はじめに	12
整理の方法	12
石器の記述方法	12
石器の技術	12
剝離具（ハンマー）の種類	13
加撃のタイプ	13
力の方向	13
加撃の種類	14
剥離技術の定義	15
石器の製作技法	15
用語の整理	15
2 石器の大分類と図版の組み方	16
図版の組み方	16
石器群の概要とその特徴	16
小形右器類について	17
打製石斧類について	17
磨石・凹石・石皿類	19
3 古林第4遺跡出土の石器について	19
図の説明	19
小形石器の特徴	19
旧石器	19
縄文石器	20
4 まとめ	40

I 調査の経過

1 調査の経緯と経過

遺跡の発見と現地の調査

平成4年度県営圃場整備事業に伴い大泉村内では西井出下第6工区5.6haが開発されることとなった。この地域内では西井出8566-95番地を中心として古林第2遺跡が、西井出8699番地を中心に古林第3遺跡が所在している。のことから文化財国庫補助事業計画を古林第2遺跡へ発掘調査として平成4年1月8日付けで山梨県教育委員会宛に提出した。

その後村教育委員会では当該遺跡の範囲確認と他の遺跡の所在の有無の確認を目的とした試掘調査を開発予定地全域を対象として平成4年2月10日～28日にかけて実施した。その結果、古林第2遺跡からは極く少量の縄文時代中期の遺物が、古林第3遺跡からは極く少量の中世の陶磁器片が出土したに止まった。しかし、西井出2466番地を中心として縄文時代中期中葉の上器が土坑に伴って検出されたり、住居跡状、あるいは土坑状の落ち込みが数か所から検出されたことから当該期の聚落が埋没しているのが確定となり、古林第4遺跡として大教委第2-61号文書で文化庁長官宛に遺跡の発見通知を提出した。

以上の結果より山梨県教育庁学術文化課、岐北土地改良事務所と協議し、本調査を実施することとなった。また、古林第2遺跡については尾根上の立地であることから、試掘による遺構の検出もなく、遺物の検出についても上記のとおりではあるが、未だ若干の遺構の所在の可能性が考慮され、トレンチによる調査を計画した。調査対象面積は古林第2遺跡が100m²、古林第4遺跡が約5,000m²で、調査主体は村教育委員会が当たることとなった。

その後、平成4年6月3日付で国庫補助金交付内定を受け、6月16日付で補助金交付申請を提出した。また、平成4年6月8日付で岐北土地改良事務所と大泉村との間で県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の負担協定を取り交わし、埋蔵文化財発掘調査実施計画書を提出した。

また、古林第4遺跡から当初予測した以上に遺構、遺物が検出されたため工期及び金額の変更が余儀なくされ、平成4年11月10日付で文化庁長官宛に計画変更承認申請書を提出、また岐北土地改良事務所長宛に埋蔵文化財発掘調査変更実施計画書を平成4年10月5日付で提出した。

調査は平成4年7月1日より古林第4遺跡の表土除去に着手、古林第2遺跡は7月2日、3日にトレンチ調査を実施し、遺構、遺物とともに検出されずに終了した。古林第4遺跡は平成4年9月27日に現地の作業を終了して撤収した。

整理作業

室内における整理作業は翌平成5年1月11日に着手し、平成5年3月31日に当該年度分を終了した。その後、平成6、8、9年度に文化庁の国庫補助金、岐北土地改良事務所の負担金を受けて整理作業を実施し、平成10年度に大泉村単独事業として報告書編集作業に着手している。

作業内容は平成4年度中に遺物洗浄、注記を実施し、平成6年度事業で遺物復元、遺物実測用の写真撮影業務委託を実施している。平成8年度は石器実測、原稿作成業務委託を実施すると共に、出土土器の実測を進め、平成9年度も引き続き出土土器の実測を進めている。

2 調査の方法

現地での調査は遺跡の抜がりが想定される範囲の全面表土除去後、手作業で遺構を確認し、以下作業を進めた。測量については業者委託により基準点測量を実施し、公共系の座標に沿った10mピッチのグリッドを設定した。その名前は西～東にA～H、北～南に1～9とし、主に平板を用いて1/20、1/100の縮尺の平面図を作成した。また、必要に応じて簡易造り方で微細図を作成した。ベンチマークは園場整備工事のものを移動して用いた。

3 調査組織

平成3年度（確認調査）

教育長 三井尚秀 教育課長 浅川昌夫 教育係長 斎藤正一 調査担当 伊藤公明

平成4年度（現地調査）

教育長 三井高秀（～平成4年9月30日）藤森勇夫（平成4年10月1日～） 教育課長 浅川昌夫

教育係長 斎藤正一 調査担当 伊藤公明

平成6年度（整理作業）

教育長 藤森勇夫 社会教育係長 斎藤正一 調査担当 伊藤公明

平成8年度（整理作業）

教育長 藤森勇夫 教育課長 小池光和 教育係長 新藤 恵 調査担当 伊藤公明

平成9年度（整理作業）

教育長 藤森勇夫 教育係長 新藤 恵 調査担当 伊藤公明

平成10年度（整理作業）

教育長 藤森勇夫（～平成10年9月30日）藤原 昭（平成10年10月1日～）

教育課長 藤原 宝 教育係長 新藤 恵 調査担当 伊藤公明 調査補助 渡邊泰彦

調査参加者

相吉よしあ 浅川達子 浅川ちづ子 浅川日出子 浅川久代 浅川房子 浅川洋子 斎藤かずみ（故）

進藤キクエ 平井仁志（故） 藤森かねよ 藤森佐喜子 藤森さち子 藤森里美 藤森秀子 藤森ます子

藤森八千代 細田紹代 三井種子 三井光恵（以上一般）

中入地純一郎 松浦史浩（東京大学）

整理從事者

阿部恵子 浅川達子 浅川洋子 石渡節子 細田紹代 三井明美（以上一般）

山下大輔（信州大学） 大石亮子 笠田朋幸 遠沢美穂子 田野裕之 深町知宏（東京大学）

協力機関

岐北土地改良事務所

山梨県教育委員会学術文化課（平成8年度より機構改革に伴い学術文化財課）

山梨県埋蔵文化財センター

II 周辺の環境

1 地理的環境

大泉村は八ヶ岳の南麓の中央に位置し、八ヶ岳の主峰赤岳の山頂で長野県と接する。この八ヶ岳は南北21kmにわたり、赤岳をはじめ2,000m級の火山が列をなす複式火山であり、天狗岳以南の南八ヶ岳火山群と以北の北八ヶ岳火山群とに二分される。また、八ヶ岳西南麓～東麓は緩斜面の火山麓扇状地で、中期～後期更新世初頭にかけての礫層で形成されている。この八ヶ岳南麓台地の東西を大地溝帯が走り、「七里ヶ岩」と呼ばれる比高100mに及ぶ急崖を形成している。この断層に沿って西を釜無川が、東を塩川の支流の須玉川が流下し、甲府盆地に突き出た半島状に伸びる台地となっている。この台地は地形的には八ヶ岳の山体部と、それから続く山麓緩斜面部とに大別され、この変換点（標高1,000～1,500m付近）に位置する多数の湧水により開拓された南北方向に伸びる尾根地形が緩斜面部に発達している。この緩斜面部の尾根上には縄文時代以降多数の遺跡が立地している。今回報告する古林第4遺跡もその典型である。

古林第4遺跡は標高867～870mを測る小高い瘦せ尾根の尖端に立地した集落遺跡で、西接して甲川が流下し、その比高は5m程度を測る。東側はなだらかに冲積面に達し、これを挟んで古林第1遺跡が立地している。南北は山林のため今回の圃場整備施工地から外れているが、未だ若干の遺跡の抜がりが想定される。現況の土地利用は主に水田となっており、揚水の水源は甲川を利用している。

2 歴史的環境

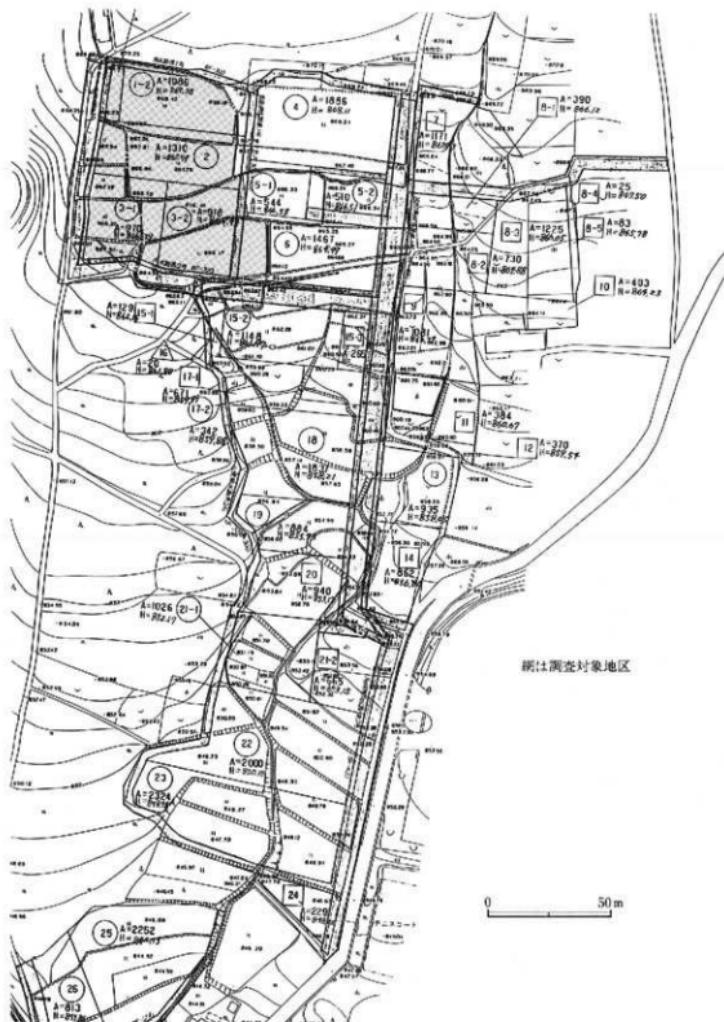
八ヶ岳の西南～南麓は長野県富士見町の井戸尻遺跡群をはじめとして縄文時代の遺跡の多數立地する地域として著名であるが、大泉村にも多数の縄文時代の遺跡が残されている。今回報告する古林第4遺跡以外にも大泉村では前期では天神遺跡、御所遺跡、山崎第4遺跡、中期では大和田遺跡、方城第1遺跡、姫神遺跡、寺所第2遺跡、甲ヶ原遺跡、後・晩期では後に史跡指定された金生遺跡等が圃場整備事業等に伴い調査されている。近隣でも圃場整備事業をはじめ各種開発事業に伴い柳坪遺跡、頭無遺跡、酒呑場遺跡、長坂上条遺跡（長坂町）、中原遺跡（小瀬沢町）、石堂B遺跡、青木遺跡、社口遺跡、宮の前遺跡、次郎橋遺跡（高根町）等の学史的に著名、あるいは集落研究上、欠くことのできない大規模な遺跡が多く調査されている。

また、この地域には平安時代～中世の遺跡も数多く立地しており、官牧との関係、甲斐源氏武田氏との関係が考慮される。

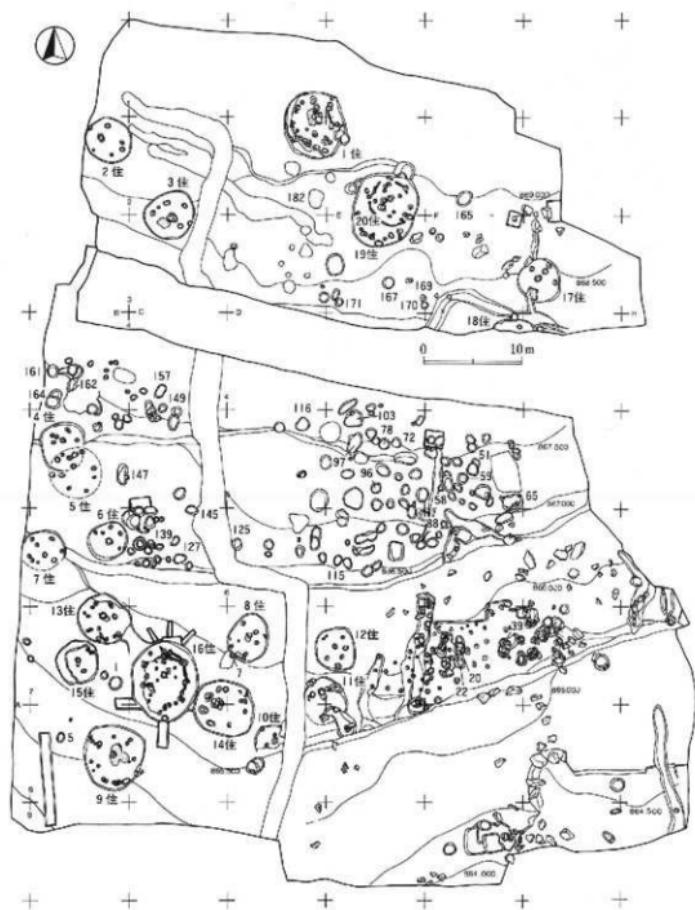


1 古林第4道跡 2 甲ヶ原遺跡 3 桃山道跡 4 天神道跡 5 今所第2道跡 6 金生道跡 7 石堂B道跡 8 伊所道跡
9 村口道跡 10 宮の前道跡 11 次郎橋道跡 12 梶坪道跡 13 須所道跡 14 酒谷場道跡 15 中原道跡 16 井戸尻道跡 17
上小用道跡 18 東堀神道跡 19 宮地第2道跡 20 宮地第3道跡 21 山崎第4道跡 22 大和田道跡 23 方城第1道跡 24 城山
道跡 25 朝所道跡 26 谷ノ氏道跡 27 別当道跡

第1図 周辺の地形と道跡の分布



第2図 調査対象地区と施工計画図 ($S = 1/2,000$)



測点 No 1 B - C - 3 - 4 X = -15790.000 Y = -8870.000
 No 2 E - F - 2 - 3 X = -15790.000 Y = -8849.000
 No 3 A - B - 7 - 8 X = -15800.000 Y = -8889.000
 No 4 G - H - 7 - 8 X = -15800.000 Y = -8829.000

数字のみのものは石器出土土坑番号である

第3図 調査全体図 (S = 1/500)

III 発見された遺構と遺物

1 概 要

古林第4遺跡からは縄文時代中期中葉の、いわゆる馬蹄形集落がほぼ完全な形で検出され、発見された住居跡の数は20軒に及ぶ。岐北地域では從来中期中葉の集落が調査された例が意外に少なく、このように集落の全体像を知り得るものはほとんど無かっただけにその成果は注目に値する。また、土坑については200基近くが検出されているが約半数は中～近世のものと考えられる。これらの中には穴開き鉢やキセルの出土から近世の墓坑と考えられるものも含まれる他、近世のものと考えられる石組井戸1基、溝状遺構14条、小ピット数十基が調査されている。

遺物については住居跡から出土した多量の土器の中に吊手土器や双口土器など特殊なものも含まれているほか八ヶ岳南麓では出土例の少ない縄文時代中期の土製耳飾りが2点、玉髓製の垂れ飾りが1点出土している。また、ヒスイ製の石笛（？）が大量の土器に伴って住居跡中から出土している。

2 遺構の時期細別

出土土器の整理は未だ途上ではあるが、今回の石器編刊行に際し、遺構毎に資料提示し、時間的に位置付ける必要から現在までに作成できたものから大まかな変遷観を示すものである。ここでは主に住居跡内の一括資料を指標としてその変遷を捉えることとするが、そこには一定の時間幅が存在することは明らかである。極端な場合は複数の時期にまたがる場合もあるが、その場合は新しい傾向の時期、あるいは主体となる時期でその遺構の帰属する時期を確定する。また、複数の遺構間で接合関係が認められ、且つ、近接し、同時に存在し得ない住居間でもこの現象が認められることから、必ずしもこれだけでは集落の変遷は明らかにできないと考えられる。これらの課題については今後刊行される遺構編、出土土器編の中で更なる検討を加えたい。なお、ここに提示する土器実測図についても未だ最終チェックが済んでいないことから今後の修正も有り得るものであることを付記しておく。

また、古林第4遺跡は住居跡20軒で構成された馬蹄形集落であるが、遺構数の割には出土遺物が豊富で、土器の変遷を追うには恵まれた遺跡ではあるがこの遺跡出土土器だけでは未整理の部分もあり、資料の欠落が生じている。この不足をなるべく地域差を含まない範囲で補うこととし、八ヶ岳南麓の東半（塩川水系）の遺跡の出土土器をこれに当てることとする。

なお、集落全体の出土土器を見たとき住居跡出土土器の前後の形式のものも確認されているが、ここでは実測、横剖面図の遅れもあり、住居跡出土の藤内～井戸尻式期の土器を便宜的にI～VI期に細分するものである。また、近年の資料の増加に伴いこの前後の様子も次第に明らかになってきている。ここではそれについても概略に触れておく。

新道式段階

新道式の新しい様相を示すものを提示した。口縁部文様帶は重三角区画のものが主体を占める。文様帶は隆起貼り付けによる横帯区画が主体を占め、この隆帶に沿ってキャタピラ文、三角押文が見られる。ここに

提示したものは二角押文の間延びしたもの、刺突ではなく連續押捺となったもの、欠落したもの、一部沈線化したもの等が含まれている。また、繩文地文のもので沈線により横帶区画し、円形、三叉状の陰刻を施したものも見られる。技法的には後続する巣内式の古い段階と識別できないが、新道式の最も新しい段階と認識したい。

この段階の標識的な資料として谷戸氏館跡5号住居跡、甲ッ原遺跡第5地点1号住居跡山口例(何れも1993年大泉村教育委員会調査、未発表。)を提示した。

古林I期

藤内I式期の古い段階を想定している。抽象文の卓越する段階で、12号住居跡等に見られるが未閑化。口縁部文様帶は良好な資料が少ないが重三角区画、これから派生した波状隆帯のものが見られる。隆帯脇の二角押文も少ないので見られる。また、隆帶上を連續爪形文等で加飾されたものがある。半裁竹管を用いた半隆帶によりパネル文を構成する描出手法も残存する。また、パネル文の見られる土器に特徴的に見られる頸部の断面三角形の鉗状の隆帶は当地域の大きな特徴であり、以後継続してみられる。

この段階は資料の蓄積によっては細分の可能性を残すものの、現段階ではその細分については躊躇している。標識的な資料として甲ッ原遺跡B区1号住居跡例^注があげられるが、これはこの段階の新しい様相を示すものであろう。

古林II期

藤内I式期の新しい段階を想定している。古林第4遺跡では最も資料的に恵まれた時期である。口縁部文様帶は重三角区画、波状隆帯のものが認められる。この段階から上器内面に向いたミミズク状の大把手が見られる。体部文様はパネル文が卓越し、頸部の鉗状の隆帶から垂下するJ字状の隆帶と直線的に垂下する隆帶問を縱方向に区画したものが多い。一部のものではパネル文下端を区画した中帶文化したものも見られる。また、この区画内に半裁竹管状工具を連續刺突して蓮華文を付したものや、交が沈線により複雑な文様を描出したものが見られ、対向J字状に隆帶を貼付たものや、撲糸文が地文のものも存在する。底部は若干張り出したものも見られる。

標識資料として9号住居跡、16号住居跡(接合関係)の一括出土土器を提示した。明らかに時間差の有るとの判断されたものは除外したが、まだ火雜物も多いと考えられる。

古林III期

藤内II式期段階を想定している。前段階よりも口縁部重三角区画は崩れて、波状隆帯が見られる。また、口縁部文様帶には主ねぎ状のものも出現する。パネル文は緩慢な区画となり、条線の充填も散漫になる。また、三叉文、交叉沈線等で充填されるものも見られる。頸部の横帶横円区画が出現する。網文を地文とするものが多出し、底部は突出気味のものが多くなる。

標識的な資料として4号住居跡出土資料を提示しておいたが、他に遺構単位で隕ったものではなく、前後の時期の住居跡からの遺物に混じって出土しているものが多い。形式学的な変化は認められるものの独立した時間幅としての形式の設定については検討されねばならない。

古林IV期

井戸尻式前半段階を想定している。モチーフの描出は半肉彫り的になる。口縁部文様帶は重三角文、これの崩れた主ねぎ状のものが見られる他、横円区画のものが崩れて縦区画だけのものも見られる。体部文様帶は横円横帯文、波状文が見られる他、梅形文が出現する。

標識的な資料として1、2、19号住居跡(接合関係)の資料を提示した。

古林V期

升戸尻式後半段階を想定している。捲糸文を地文とするものが卓越する他、省略化、簡素化の傾向が見られる。器形的には口径に対し底径の小さなバランスの悪いものが多い。塔状把手のものも出現する。大型の器種が目立つ。体部文様はパネル文のものも僅かながら残存し、鉢状の降帯は残存するもののJ字状の降帯は消滅し対向U字状のモチーフへと変換する。

標識的な資料として3号住居跡の資料を提示した。

古林VI期

曾利I式の古い段階と共に伴するものである。地文は簡素化、省略化が進む。共伴する曾利I式の影響で条線を地文とするものも出現する。

標識的な資料として17号住居跡の資料があるが個体数としては少ない。他の資料としては甲ヶ原遺跡A区10号住居跡¹⁴、宮地第2遺跡3号住居跡¹⁵出土七器等があげられる。

石器の出土した遺構の時期細別を第1表の右端に示した。

上記のような変遷・細分を考えているが、全般に指標とする文様要素、施文技法、描出手法の設定が困難であり、その変化は漸移的に捉えられる。そのため個体単位での時期の判断が困難であり、時間差を含むことを前提としながらも遺構単位での遺物群として評価する必要がある。今回は人まかた変遷の把握に止まつたが、系統的整理、設定の上で組列を確立し、地域のタイムスケールとしての編年網の整備に臨むべきと考えている。

なお、ここに示した変遷に関しては特に今福利恵、閉間俊明、小野正文の各氏にご教示をいただいた。記して謝意を表す。

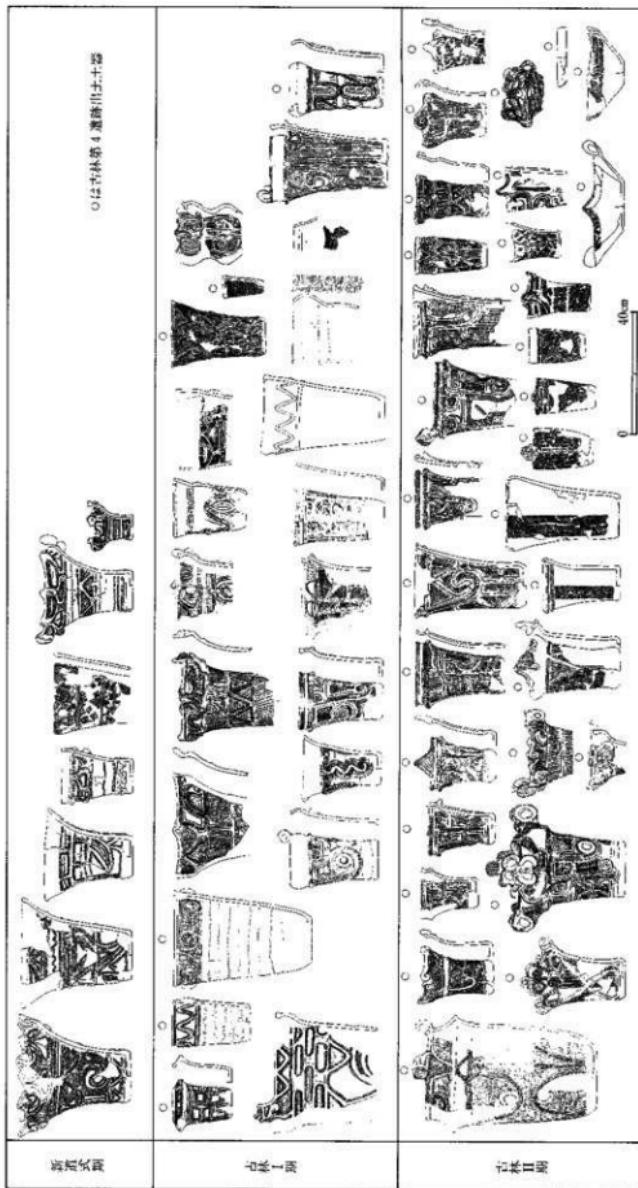
- (1) 山梨県教育委員会 1997 「甲ヶ原遺跡Ⅱ（第2次・第3次調査）」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第144集
- (2) 山梨県教育委員会 1992 「甲ヶ原遺跡概報」山梨県埋蔵文化財センター調査報告第71集
- (3) 大泉村教育委員会 1991 「宮地第2遺跡・宮地第3遺跡」大泉村埋蔵文化財調査報告書第9集

以上の他に図版使用土器の出典は以下のとおりである。

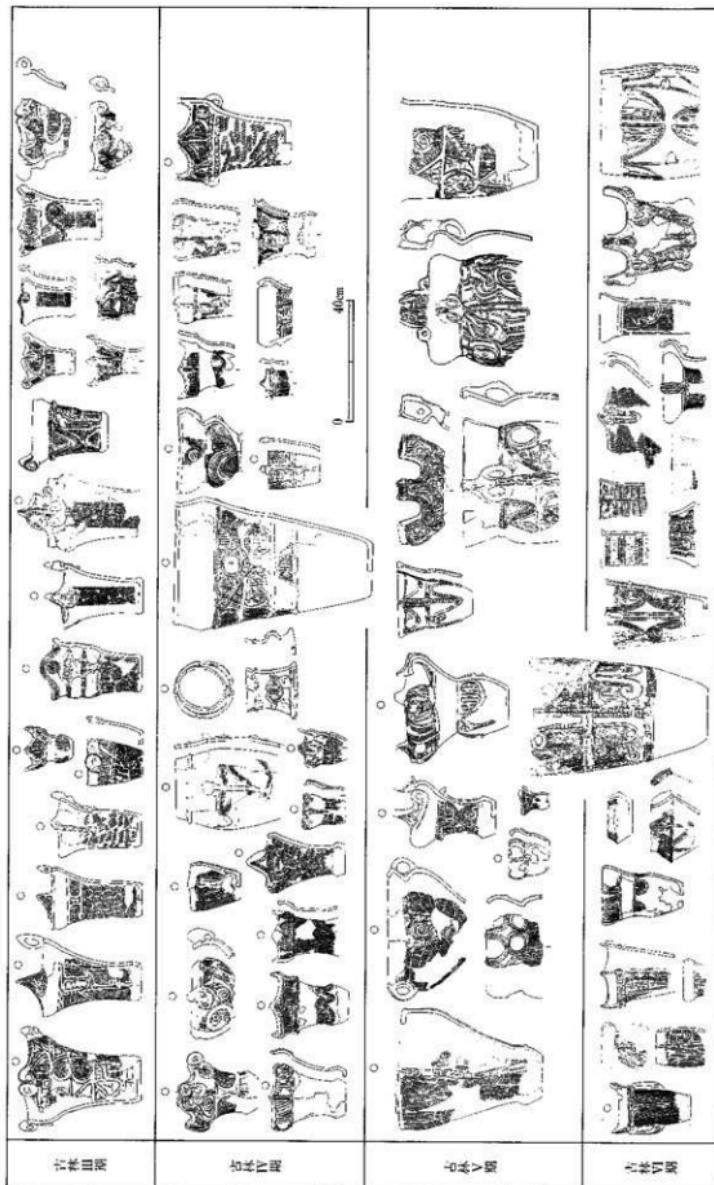
- 山梨県教育委員会 1996 「甲ヶ原遺跡Ⅱ（第3次・第4次調査）」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第114集
山梨県教育委員会 1995 「日影田遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第100集

また、これ以外に甲ヶ原遺跡第3地点出土土器(1992年大泉村遺跡調査会調査、未発表)も用いた。

第4図 古林第4遺跡を中心とする縄文中期土器文選図(1) ($S = 1/6$)



第5図 古林器4酒器を中心とする縄文中期土器変遷図(2) (S = 1/16)



IV 古林第4遺跡の石器について

1 はじめに

整理の方法

古林遺跡の整理をすすめるにあたって、最初に図化すべき遺物を選択し、その後に遺物をカウントした。カウントした際に図化必要の遺物を追加選択した。この結果、古林遺跡の石器群様相を記述する充分な量を図化・記述できたと思われる。遺物組成表を観察してわかるように、特に打製石斧類の量が卓越している。このため打製石斧類の図化と記述には大きくページをきいた。

記述にあたっては、縄文時代の石器の理解をすすめる目的で、一般的な石器の記述方法を最初に記した。この石器の記述方法は「石器研究法」(竹岡俊樹著、吉震社、1989)に準じている。

次に石器群の概要を整理し、さらに個別の石器の記述を章立てて行った。それぞれの章では小形石器・中形石器・小形磨石類・大形磨石類の順番に記述した。実測図と写真図版も同じ順序で掲載した。

また石器の図化はすべて写真から起こしてある。写真実測は、ともすれば写真をなぞりがちである。写真から考古学的圖を起こすには、先ず石器を観察し、その石器の重要属性を記述するのがるべき姿である。写真のような図が評価されるならば、わざわざ図化の必要はない。「正確な図」と言った場合、考古学的に正確な図は、石器の製作技法をよりよく説明できる図という認識が必要である。石器の図の縮尺もその目的を達成するために設定される必要がある。石器研究の基本をふまえた上で写真を利用するならば、以前の手実測よりも効果が大きいと思われる。

石器の記述方法

石器の記述の目的とその方法

石器研究の目的の第一は、石器の分類である。石器研究には大きく2つの分類がある。ひとつは私たちが石器を見たときになされる(便宜的)分類であり、もうひとつは石器を製作した当事者の分類である。このうち、後者の「当事者の分類」を明らかにすることが、石器分類研究の第一義の研究目標である。

というのも当事者の分類は、その文化の独特的分類体系をもつので、その分類を明らかにすることで、私たちはその文化の内容を知ることができるのである。

ところで私たちの側でなされる便宜的分類には「器種」という石器の名称が付けられる。「器種」は私たちが特定の石器を他の石器と区別するためにつけた名前であるが、特徴的な属性によって名付けられるために、器種として分類された石器は、ある一定のまとまりをもっている。従って私たちは、最初に器種分類をして、その後に器種の中で製作者によって作り分けられた石器の種類を明らかにするという手順が必要である。

石器の技術

石器をつくるためには、石を剥離する手法を習得する必要がある。この手法を「剥離技術」と呼ぼう。剥離技術の内容を変えることで、剥離面の様相は変わることになるので、剥離の原理を押さえておくことが剥離技術を理解するためには必要である。

さて、剥離はなぜ起こるのかは物理的に説明ができるものの、大切なことは物理的な属性が考古学の石器

の研究とどのように関わるのかが明らかにならねばならない。それを前提して以下に「石器の技術」について説明を行うこととしよう。

剝離具（ハンマー）の種類

石器の技術の一端はハンマーになっている。ハンマーの種類によっては特徴的な剥離面が形成できる。このことより、ハンマーの性質をおさえよう。ハンマーの属性で必ず必要なことは、その硬さの程度の把握である。ハンマーには硬質ハンマーと軟質ハンマーの2種類があるが、以下にその区別について原理的な説明を加えよう。

剥離の対象物に対して加撃するとき、加撃の反作用によって剥離具側が硬くて変形しないものを硬質ハンマーと呼ぶ。それとは別に加撃の反作用でハンマーが変形するものを軟質ハンマーと呼ぶ。両者の違いは剥離面様相に顕著に現れる。硬質ハンマーで加撃されると、石核側に残される剥離面の稜線はゴツゴツした切り立ったものになる。軟質ハンマーで加撃されると、石核側に残される剥離面の稜線の特徴は平らな柔らかな線となる。また、軟質ハンマーのほうが、剥離面がより広かり、石核の奥にまで伸びる傾向がある。尖頭器を作成するときに、石器の表面がきれいなレンズ状の両面加工の尖頭器が製作されやすいのは軟質ハンマーを使用するからである。

このようにハンマーの種類で剥離面様相は著しく違うものができることがある。そして硬質ハンマーを選択するのか、軟質ハンマーを選択するのかは、その石器文化の特徴なので、剥離面の様相とハンマーの種類を明らかにすることが考古学的には大事なことになる。

加撃のタイプ

次に加撃の仕方によっても剥離面様相は異なる。一般的な剥離の理解は、割れ円錐の発達する「コーンタイプ」と呼ばれる剥離面である。打点の直下から円錐が発達し、さらに円錐は次第にハンマーの押し出す力に吸収されながら剥離が起こる。この場合の剥離面は、打点が発達し、バルブが生じる剥離面となる。

次にはハンマーを垂直にたたきつけるときにできる剥離面がある。主に複形石器にみられる剥離面で、打点は明瞭なもののみ、ハンマーによる圧縮の力が優勢のため、円錐が発達しないで、物体を引き裂くように剥離が起こる。これを「ウェッジタイプ」の剥離面と呼称する。

次には、ハンマーの当たる場所以外の点に既に亀裂があり、そこの亀裂から剥離が生じる剥離面がある。この剥離面には打点がなく、バルブも生じない。これを「ペントタイプ」の剥離面と呼称する。

このように3種類の剥離面があるが、主にハンマーストーンの加撃によって形成される剥離面は「コーンタイプ」の剥離面である。鋭い縁辺に剥離痕が観察できるときに、ウェッジタイプやペントタイプの剥離面が不規則に並んでいれば、それは使用痕か事故剥離という理解になる。

石器の研究では人工の剥離面なのか、偶発剥離（事故剥離）なのかを理解することが第一歩であるので、これらの剥離面のタイプを見分けることは重要なことである。

力の方向

石器研究で剥離面の方向がよく問題にされる。剥離面の方向というのはハンマーの加撃による力の抜ける主たる方向であるので、現実には3次元のベクトルとなる。しかしここれまでの実測図を利用しての研究では二次元の方向が主に必要と理解されている。このあたりは、誤解が多いようなので以下に少し詳しく解説す

ることにする。

人間が素材の石を叩撃するときには、その石を叩き壊そうとするのか、薄い剥片を剥がそうとするのか、いずれにしろ意識的に加撃はなされている。例をあげれば、古林遺跡の打製石斧の側面には多くの階段状剥離がみられるが、この階段状剥離は打製石斧から剥片を剥がそうとした剥離痕ではない。石器の周辺をハンマーで叩いて、石器の側面を整形することが目的の剥離である。では何故そのようなことが言えるのであるか。

それはハンマーの振り下ろされる方向が、石器の奥に向かって進行しているので、剥片を剥離する方向ではないからなのである。このようにハンマーを振り下ろすときに、何を目的とした剥離なのかを理解する手立てとして、剥離面の方向は分析の対象とされるのである。しばしば言われるように一枚一枚の剥離面の剥離軸の方向を詳細に絵にすれば何かがわかる、というのは石器研究に対する誤解中の誤解である。

そこで、剥離面の方向について、剥離の末端形状から読む場合を解説しよう。まず「フェザーエッジ」と呼ばれる通常の親い末端形状がある。これはハンマーが剥離をなそうとする意識のもとに現れる末端形状である。次に階段状剥離や縁番剥離は、ハンマーの力が剥離を最後までできないときに起こる剥離で、階段状剥離は石核の中で剥離面が途中で折れてしまったもの、縁番剥離は剥離が中途収束して背面側に剥離が回り込んだものである。階段状剥離や縁番剥離はこのようにして起こるので、力が石核の奥に向かって進行するときや、剥離の力が最後まで及ばなかったときに現れる。意図的に石核の奥に力を及ぼす剥離は、薄い剥片を剥がすのが目的ではない剥離である。

最後は石核の末端を剥離が巻き込んで、剥片の末端が分厚くなる場合がある。これをアーチ状末端と呼ぶ。アーチ状末端は、石核の底面にまで剥離が進行した結果、石核の角をそのまま切り取るように剥片が剥がれてしまうときにできる末端形状である。物理的には、石核の角は力の真空地帯となるために、角まできた力はそのまま石核の底面にまで抜けきってしまうことになるのである。丁度天井の梁の部分が三角形で、そこで屋根を支えているのは、角が力を分散させる力の真空地帯の原理によるものである。これと同じことが石器の剥離でも起こっており、石核の角にきた力はそのまま角に沿って力が抜けきってしまうことになる。

このアーチ状末端を意図的に実現したのが旧石器時代の瀬戸内技法による翼状剥片の剥離である。一方石刃の剥離でアーチ状末端は事故剥離と判断できよう。縄文時代の剥片石器では旧石器のような観察が行われる研究は少ないので、今後日安になる分析指標である。

以上のように、力の方向は二次元だけでなく、三次元の方向で考えることで剥離の末端形状が異なる様相を表すことになり、そしてこれを手がかりにして、剥離がどのような意識のもとでなされたのかを理解していくのである。

補足になるが、実際にハンマーの方向を制御するのは、ハンマーをもつ右手の動きだけではなく、素材を傾ける左手首の動きも重要である。左手首の回転によって素材は回転し、その回転した面がハンマーの当たる面になるので、素材の傾きでもハンマーの力の方向が決まると言ってよい。従ってハンマーの振り方の身振りとは、右手と左手の両方の動きの組み合わせということになる。

加撃の種類

ハンマーの使い方の本質は、対象（石核）に直接ハンマーをたたきつける直接打撃とハンマーを石核に押しつけて押し剥がす押圧剥離の2種類がある。ともにハンマーの使い方が異なるので、剥離面様相も異なる。

直接打撃の場合は、打点は明瞭でバルブは比較的発達し、稜線はゴツゴツする。押圧剥離の場合は打点は

明瞭なもののバルブが発達せず、後線は平らになる。なお、小さな剥離面ながら規則正しく剥離がなされ、しかも直接打撃に近似する剥離面については間接打撃と理解しておこう。ハンマーを振るうときに、小さな面に規則正しい剥離をするには、パンチをつかう剥離が想定できるからである。

剥離技術の定義

以上に若干の補足を交えて剥離技術の定義を行おう。剥離技術とは石を割る手法のことであるが、その実質的な内容は剥離具の種類（硬質か、軟質か）と、ハンマーの使い方の身振りのことである。ハンマーの種類で剥離面の棱線の様相が変わるので、ハンマーの選択は剥離技術の重要な要素である。また石核に対しての加撃の種類と加撃の方向では、実際に人間の手によって何を実現されようとしているのかを判断することになるのである。従って剥離技術とは「ハンマーの種類とハンマーの使い方の両者の組み合わせ」と定義できるのである。

石器の製作技法

石器を製作するにあたって、剥離技術だけでは石器製作はできない。そこにつくろうとする道具の設計図がなければ、剥離技術だけでは石器にならないのである。仮に現代人に剥離技術だけを教えて、石器を製作することを要請しても彼の生きている時代の文化に石器が存在しなければ石器は製作できないのである。また考古学を勉強する者が石錐や石槍、ナイフ形石器などの異なる時期の石器を作り分けられるのは、彼が過去の文化の石器の作り方を熟知しているからなのである。

このように石器をつくるということは、右の剥離技術の習得と文化の中に埋め込まれた石器形態の理解が必要になる。従って、石器をつくるということは、その文化の中で習得する剥離技術（ハンマーの種類とその使い方の身振り）と、その文化の中にある道具の形態に習熟することであり、実はそれを明らかにして現代の背景で記述することが石器研究の使命である。

さて、さらに具体的に石器の成り立ちをみてみよう。石器形態を分析するとは、石器の形を辺に分解することである。そして、分解した辺にどのような剥離技術でどのような剥離面が形成されているかを理解し、特定の辺が特定の剥離技術によって形成されて、特定の形態がつくれられているのが石器の姿であるといえる。たとえば、菱形の形態の石器があり、その3辺が刃済し加工で整形され、残りの1辺が素材の鋭い辺となる石器があるとする。これは茂呂型ナイフ形石器と呼ばれる石器である。また同じように菱形の石器があり、そこに何も加工されていなければ、それは剥片である。さらに菱形の石器で両面ともに平坦な剥離で覆われている石器は槍先形尖頭器と呼称される。このように、石器形態は特定の辺を特定の剥離技術で形成することで成り立っている。辺と剥離技術の規則的な関係、及びその関係を全体の形態に置き換えると、特定の石器文化には特定の石器製作の基本的な約束ごとがあることがわかる。この石器製作の約束ごとを「石器の製作技法」と呼ぼう。

用語の整理

石器を製作技法を理解するためには石器を記述する「記述の用語」が必要である。物理学では数学という言語があるために、自然現象を誰にでも説明できる。数学は自然科学の言語である。同様に石器研究にも、各辺の剥離技術を記述するための用語や形態を記述する用語が必要になる。そこで占林遺跡に必要な基礎的な用語の定義を以下にまとめて、用語の整理とする。この用語は一般的な用語の理解とともに、石材は加工

の種類などで古林遺跡の遺物の特徴にもとづいて記述してある。そのためこの用語を一覧すれば、古林遺跡の石器の概要については理解可能である。また用語は組成表にも対応している。

石器（広義）：人間の手が加えられている石。

石器（狭義）：人間がつくる石の道具。

二次加工：素材を成形・整形したり、刃をつける加工のこと。

成形加工：素材を思うとおりの形態にするため、素材を大きく変形させる二次加工のこと。

整形加工：素材の線辺の形状を変形するための二次加工のこと。

器種：考古学者が付けた石器の名前。特定の石器を他の石器と区別するために必要なコミュニケーションを目的とする分類。剥片、石核、打製石斧、石匙など馴染み深い名称は器種名である。

剥片：石から人工的に削がれた石片。打痕が残る、もしくは推定されるものに限る。

石核：剥片を剥がす母体の石。

石錐：ガラス質の剥片を素材に、周縁を押圧剝離で成形加工し、「矢尻」のような形態にしあげた石器。

ドリル：主にガラス質の石材で、間接打撃の深く小さな剝離で断面三角形、断面菱形の刃部を形成する石器。摘みの顕著なものとそうでないものがある。古林遺跡では摘みのないものが顕著である。

小形削器：黒曜石やチャートの剥片を素材にして、二次加工で刃部を形成する石器。二次加工は直接打撃、間接打撃、押圧剝離の変異がある。

打製石斧：素材の長辺に成形・整形加工をし、短辺に刃部をつくる石器。古林遺跡の場合は主に硬質砂岩や安山岩などのボソボソした石材で製作される。

中形削器：素材の長辺に刃部をつくる石器。中形の削器は打製石斧と製作技法の一一部が重複する。

石匙：抉りによって側部と摘みをわけてつくられた石器。側部は削器や尖頭器の形態をもつ。本遺跡の特徴は削器と同じように、中形と小形で製作技法が違うのが特徴である。

横形石匙：石匙の一形態。素材の側辺に飛び出た「摘み」をつくる石匙。

縱形石匙：石匙の一形態。素材に沿って抉りをいれ、その抉りから摘みになる石匙。

2 石器の大分類と図版の組み方

図版の組み方

古林第4遺跡の石器は大きく4種類に分かれる。そして、それらは各々が特徴的な石材に対応している。ひとつは、黒曜石や珪岩などの緻密な石質で作られる小形の石器で、石錐や石錐が代表的である。次には砂岩や安山岩など、ボソボソした石質で作られる大形や、やや中形の石器で打製石斧や磨製石斧に代表される石器である。次には自然円錐を敲打によって加工したり、使用による磨滅痕で分類される石錐や磨石などの石器である。最後に、壘れ飾りなどの特殊石製品がある。

図版はおおむねこの分類に従って組んである。そして、その分類にしたがって特に量的に多い打製石斧や磨石などは住居ごとに図版を配列した。

石器群の概要とその特徴

古林第4遺跡の石器は、総数860点、その内訳は以下の表になる。この点数は小形石器・打製石斧についてほぼ9割をカバーしている。今回の整理にあたって住居の形ある石器のはば90%は図化した。従って表にあ

る数量が古林第4遺跡の石器数量の概数である。

小形石器類について

古林第4遺跡の小形石器類は総計259点出土している。小形石器の石材は黒曜石が圧倒的に多い。器種は楔形石器が多く、石鎌、石錐(ドリル)、削器などがある。この器種分類は、主に加工をその分類基準にしたものなので、現象に忠実な分類となっている。しかし後述する個別の石器の記述を背景にして、加工ばかりではなく、加工・素材・形態の3者を総合すると、石器の製作技法は石錐と石錐にその大部分が取扱ってしまう。そこで完成した石錐と石錐からその製作技法を復元してみよう。

石錐は図示したものがほぼ全ての出土で26点しかない。石錐の成形加工は間接打撃を想定させる深い剝離のものと、縁辺に沿って剝離具を押しつけて平らな押圧剝離のものの2者がいる。前者の石錐は大きく厚みがあり、その縁辺は鋸歯状になる。後者の石錐は小さく薄く、縁辺も直線状になる。剝離具も両者は異なるようである。また両者の特徴を兼ねる石錐も出土しているのが興味深い。両者の違いが何に起因するのか、現時点では明らかにできないものの、両者の技術的折衷形式の石錐が出土することから、両者は同じ集落の異なる集団による石器製作の可能性もあるだろう。

石錐(ドリル)は、分厚い剥片や両極石核を素材にしている。素材の選択性は専ら刃部形成に必要なエッジの厚みと相応の器体の大きさを日安にされてるらしい。古林第4遺跡には摘みのある定型的な石錐は存在していない。

石錐の刃部の加工は、間接打撃による小さいが深い貝殻状の剝離である。刃部形成のために、背面側、裏面側、それに背面から裏面方向へ向かう横上反方向の剝離でなされる。この3方向の剝離によって刃部は鋭く背の高い三角形の断面を形成することになる。

数量的にごくわずかであるが削器類と搔器類がある。両者とも平坦な打面をもつバルブの発達する剥片を素材にしている。また石材はチャートや頁岩に偏るものも特徴である。

削器は剥片の鋭い側面の裏面に丁寧な押圧剝離で鋭い刃部を形成する。典型例は図62である。一方の搔器はやや厚い凸レンズ状の側面に、やはり丁寧な押圧剝離で厚みのある刃部を形成している。搔器の典型例は図の63と64である。搔器も削器も丁寧な押圧剝離で整形加工をするものの、素材の選択で刃部をつくりかけている。

数量的に最も多いのは両極石核と両極剥片である。両極剥片はもっぱら小形の刃器として用いられ、使用痕のある剥片となって遺跡に残されている他、石錐の素材剥片になっている可能性も多い。とくに薄い石錐は両極剥片を素材にしていると考えて差し支えないだろう。

打製石斧類について

組成表をみると、打製石斧類が圧倒的な量をしめることがわかる。したがって古林第4遺跡の石器文化の特徴を示すのは、これら打製石斧類の分析にかかっている。

古林第4遺跡の打製石斧類の石材は近隣から採取される安山岩やホルンフェルスである。

打製右斧類は、素材の形状を大きく変形させる成形加工と縁辺の仕上げの整形加工がある。ときとして成形加工のまま整形加工がなされない場合もある。また素材の形状をそのまま生かして、整形加工だけの石器もみられる。

古林第4遺跡の成形加工・整形加工は以下の剝離の種類がみられる。このうち、剝離1から剝離3までは

成形加工に用いられる。また剝離2はときには薄い刃部の形成に用いられ、石匙・削器の刃部形成には主に剝離3が用いられる。整形加工に主に用いられるのが刃溝し加工である。整形加工はすべての器体になされるわけではない。

加工の種類を剝離面で具体的に説明すると以下になる。

剝離1：ハンマーの当た方が素材の器体の中心部に向かう剝離。剝離の目的は、器体の厚みを薄くするために、はぎ取るような剝離。この場合は圧縮の力が優勢で剝離が起こり、バルブの発達しない平らな剝離となり、力の逆行は器体の奥に向かうため剝離の末端は階段状末端となる。

剝離2：ハンマーの当た方が素材の器体表面に平行にむかう剝離。いわゆる平坦剝離。剝離の目的は器体を薄く剝がす加工。この場合は引っ張る力が優勢で剝離が起こり、打点が広がり、バルブがゆるやかに広がり、器体の表面から薄く剥片が剥がれ落ちる。末端はフェザーが一般的だが、石質が粗質な場合は階段状末端にもなる。

剝離3：ハンマーを腕の振りにしたがって素材にあてた場合にできる剝離。打点が明瞭でバルブが発達する。いわゆる通常の剝離。

刃溝し加工：ハンマーを鋭い刃に垂直にあてて、その鋭い刃を溝す加工。刃溝し加工はその程度の差によって大きく2種類にわかれる。丁寧な刃溝し加工は、表面が滑らかになる。いわば磨製石斧の製作途上の滑らかさである。またそれほど丁寧でない刃溝し加工は、一部切り立った棱線を残しながら刃溝しが行われる。特に縁辺の薄い箇所に、さほど丁寧でない刃溝し加工がされると、刃溝し状態ではなく鋸歯状に剝離が整列することがある。これらの違いは観察によって区別して記述することにする。以上が古林遺跡の事実記載をする上で必要な剝離の種類と剝離面様相である。

ところで、これらの剝離はどのように形成されるのか、今度はハンマーとその使い方の身振り、及び素材の位置関係に従って再度説明を試みよう。

1類は、ハンマーを持つ腕の振りは、ハンマーを真上から振り下ろすような動作になる。丁度剝離の面のような振りである。この動作で剥片を剥がし打製石斧類の側辺を成形しようとするならば、ハンマーの振りに対して素材をやや傾け、器体の奥にむけて剥片を剥がすようにハンマーを振るう。このときその剝離面はゴツゴツとして、剝離面末端は階段状になる。また、素材を垂直に向けると整形加工の刃溝し加工となる。そして刃溝し加工にも2種類あり、磨製石斧を製作するような丁寧な敲打を試みる場合と、ハンマーを素材の縁辺にたたきつけるだけの粗い整形加工がある。丁寧な敲打は打製石斧の側辺を滑らかにし、粗い刃溝し加工は不規則なギザギザを側辺に付けることになる。

このように1類のハンマーの振りと刃溝し加工は同じ右手の動作で、素材の傾きを替えることによって実現できるのである。1類の剝離と刃溝し加工は同じハンマーの動作で、別の剝離面を形成する身振りといえる。

一方2類の剝離は、ハンマーを斜めに振り下ろす動作によって形成される。打製石斧類の成形加工の場合、素材は平らに置かれ、その側辺に斜めにたたきつけるような動作で剥片は剥がれる。このとき加工される石器の側辺はほぼ直線状になり、その剝離面は棱線があまりたたず、剥片の末端形状はフェザーエッジとなる。これは東北地方の真岩製の石器にみられる平坦剝離とほぼ同じ剝離技術である。

ところで、これら2種類の剝離は明瞭に区別できるものがある一方、両者の中間のような剝離もしばしばみかける。両者のハンマーの使い方はまったく異なるが、ときとしてハンマーの振りい方は同じでも、素材の傾け方によつて両者の中間の剝離が形成されるのである。1類を形成するようなハンマーの振りに2類の案

材の置き方をした場合、3類と呼ばれるバルブの発達する通常の剥離面が形成される。また2類のハンマーの振りに1類の素材の置き方をしたとき幅広でバルブの発達する剥離となる。

以上のように古林第4遺跡の石器の剥離技術は1類・2類・3類となっている。今後はこの剥離技術と石器形態の関連を追求する必要があるだろう。ちなみに縄文石器の文化系統論はハンマーの身振りと石器形態からのアプローチが有効であると考えられる。

磨石・凹石・石皿類

磨石・石皿は主に多孔質安山岩で作られている。磨りと敲打による単純な石器なので、本報告では個別の事実記載は省く。図は研磨部分は白抜き、自然面には点描を用いて表現してある。

小形品について：本遺跡の資料にはもっぱら凹石が多く、磨石は少ない。凹石には敲打と回転穿孔の2種類があり、回転穿孔には孔の部分に回転の印を表記してある。

出土の傾向としては、特定の住居に出土量が偏るようである。特にSB2には人珠と穿孔ドリルが出土しており、凹石や砥石(4)、磨石がまんべんなく揃っている。剥片石器類がきわめて多いにも関わらず、SB9やSB16はこの種の石器の量は少ない。SB19のように全くない住居もある。

中形品について：大形品は石柱や大形石皿が目立つ。石柱は83のように加工痕をもつものもある。77のように大形の石棒もあるが、古林遺跡では石柱のほうが一般的であるらしい。また71や80、81、88などは82にみられる石皿の未製品であり、本遺跡では大形の石皿が製作されていたことがわかった。この大形石皿は古林遺跡内だけの消費なのか、別の遺跡への搬入品としてなのか、今後の課題であろう。

3 古林第4遺跡出土の石器について

図の説明

今回の報告にあたって、小形石器と打製石斧は個別の記述を行った。磨石・石皿類は文章に記載する有効な属性を発見できなかったので、実測図と出土位置、及び組成表で整理した。

小形石器の特徴

旧石器と思われる資料2点のはかは、残りは縄文時代の石器である。小形石器の総数は261であるが、その数量は加工のあるものである。表に数量を記載されていないものは加工のない剥片・細片類である。小形の黒曜石原石も4点出土しているのは注意される。石材は圧倒的に黒曜石が多く、次にチャート、頁岩となる。黒曜石以外の石材については図面に石材を付した。

旧石器

1：ナイフ形石器。黒曜石。縦長剥片を素材に、その打面部を欠損している。左側面から打面部にかけて加工が連続しており、尖頭部を形成している可能性が高い。基部に刃溝し加工をなし、基部の底辺には加工を施さない。この加工技術と加工の領域から基部加工のナイフ形石器の可能性がある。SB16の出土であるが、今後この地域に旧石器時代の遺跡があることは注意されるべき資料である。

2：使用痕のある剥片。黒曜石。打面は欠損しているが、きちんとしたフリーエイギングで製作されている。本遺跡の黒曜石の縄文石器が多くは打面無しをした石核もしくは向撃打撃からの資料である。このこと

より背面に連続する縦長剥離の痕跡をもつこの資料は1と同様に叩き器の可能性ももつ。しかし1よりは資料的に弱い。

縄文石器

(I) 小形石器

① 1~26: 石器

- 1: 石器。水を受けてパティナが白く変色している。漆黒の黒曜石。薄い剥片を素材に大きな押圧剥離で成形されているSB1出土。
- 2: 石器(尖頭器)。薄い剥片を素材に尖頭部をつくっている。漆黒の黒曜石。成形加工は押圧剥離よりも間接打撃の可能性がある。尖頭部をもち、側辺の加工が石器と同じなので石器に器種分類したが、尖頭器として器種分類も可能である。SB1出土。
- 3: 石器。透明度の高い黒曜石。薄い素材に丁寧な押圧剥離で成形されている石器。SB2出土。
- 4: 石器。黒色の縞のはいる透明度の高い黒曜石。丁寧な押圧剥離で成形。SB3出土。
- 5: 石器。透明度の高い黒曜石。分厚く大きな石器で、側辺は間接打撃を想定させるような粗い鋸歯状である。SB3出土。
- 6: 石器。透明度の高い石器。分厚い石器で、側辺は5と同じ加工がなされている。SB3出土。
- 7: 石器。漆黒の黒曜石。やや厚い素材。側辺は4と同じ丁寧な押圧剥離。SB3出土。
- 8: 石器。透明度の高い黒曜石。薄い素材に間接打撃を想定させるやや粗い鋸歯状の側辺。素材が薄いので、鋸歯のエッジが潰れている。SB4出土。
- 9: 石器。黒色の縞のはいる黒曜石。側辺は鋸歯状。SB9出土。
- 10: 石器未製品。やや粗悪なチャート。小形の剥片の側辺から押圧剥離がなされている。加工は規則的ではなく、側辺の加工のしやすい薄い部分にのみなされる。これより石器の未製品と推定できる。SB12出土。
- 11: 石器。透明度の高い黒曜石。丁寧な押圧剥離による成形加工。SB13出土。
- 12: 石器。良質チャート。丁寧な押圧剥離による成形加工。SB14, PIT23出土。
- 13: 石器。良質頁岩。丁寧な押圧剥離による成形加工。脚部が大きく聞く特徴的な形態。SB14出土。
- 14: 石器。漆黒の黒曜石。丁寧な押圧剥離で成形加工。扁平な石器。13と同じ形態。SB14出土。
- 15: 石器。透明な黒曜石。丁寧な押圧剥離で成形加工。SB16出土。
- 16: 石器未製品。透明な黒曜石。丁寧な押圧剥離で成形加工の途中。裏面に大きく主要剥離面を残す。SB16出土。
- 17: 石器。漆黒の黒曜石。厚い素材に間接打撃を想定させる粗い鋸歯状の側辺。SB16出土。
- 18: 石器。透明な黒曜石。分厚い素材に間接打撃を想定させる粗い鋸歯状の側辺。SB16出土。
- 19: 石器。透明な黒曜石。分厚い素材に間接打撃を想定させる粗い鋸歯状の側辺。SB16出土。
- 20: 石器。被熱資料。透明で黒色の縞のはいる黒曜石。間接打撃を想定させる側辺。SB19出土。
- 21: 石器。透明な黒曜石。分厚い素材。間接打撃を想定させる剥離だが、剥離方向は器体に平行にむける丁寧な押圧剥離と同じ剥離具の用い方がなされている。今までの鋸歯状の側辺をもつ石器と丁寧な押圧剥離の石器の折衷技術をもつ。SB19出土。
- 22: 石器。透明な黒曜石。薄い素材に直径の広い剥離具で押圧剥離をしている。そのため、縁辺が鋸歯状になっている。

- 23：石錐：透明な黒曜石。やや厚い素材に間接打撃を想定させる剝離で、側辺が鋸歯状になっている。
- 24：石錐：透明な黒曜石。分厚い素材に間接打撃を想定させる剝離。側辺は鋸歯状。
- 25：石錐：透明な黒曜石。薄い素材に直径の大きな剝離具で押圧剝離。22と同じ石錐。
- 26：石錐：漆黒の黒曜石。分厚い素材に直径の大きな剝離具で押圧剝離。25と素材の選択が異なる石錐。

② 27~33：石錐

- 27：石錐。透明黒色の黒曜石。小形の原石に粗く深い剝離で成形加工をして、素材末端に丁寧な加工で尖頭部をつくっている。尖頭部を刃部を想定して石錐に分類した。SB 7出土。
- 28：石錐。無色の黒曜石。厚い縦長剝片の末端に、深く小さな剝離で刃部を形成している。刃部は正方向の剝離、反方向の剝離、稜上反方向の剝離の3方向から整形され、断面が三角形の刃部が形成されている。SB 8出土。
- 29：石錐。漆黒の黒曜石。横長剝片の側辺に粗く小さな間接打撃の剝離で尖頭部をつくっている。SB12出土。
- 30：石錐。透明な黒曜石。分厚い剝片の末端に、正方向の剝離、反方向の剝離、稜上反方向の剝離で断面三角形の刃部を形成している石錐。28と同じ石錐。
- 31：石錐。透明黒色の黒曜石。両極石核を素材にしている。加工は28や30と同じで素材が異なる。
- 32：石錐？。透明な黒曜石。やや厚めの素材に丁寧な押圧剝離で断面が凸レンズ状。尖頭部をもつて石錐に分類したが、加工は石錐と同じである。
- 33：石錐？。漆黒の黒曜石。右側辺に間接打撃の深い剝離。素材の厚さと加工の続く器体から石錐と推定した。

③ 34~60：その他の石器

- 34：削器？。透明な黒曜石。分厚い剝片を素材に、間接打撃で剝片末端を加工。石錐未製品の可能性もある。
- 35：尖頭器断片。透明で黒色の縄の入る黒曜石。直径の大きな剝離具で丁寧な押圧剝離で加工。断面はきれいな凸レンズ状になる。
- 36：削器？。透明な黒曜石。分厚い剝片を素材に、間接打撃で両面に加工。石錐の未製品の可能性がある。
- 37：両極石核。赤チャート。
- 38：両極石核。黒色の縄のはいる黒曜石。
- 39：削器？。安山岩。均質な剝片の側辺に間接打撃による器体に平行な剝離をなす。石錐未製品の可能性もある。
- 40：削器？。透明な黒曜石。底面まで抜けるやや厚い剝片を素材にしている。加工は間接打撃による鋸歯状の剝離。石錐の未製品の可能性も高い。
- 41：使用痕のある剝片。打面は無打面なので素材はおそらく両極剝片。右側辺に不規則な微細剝離がある。
- 42：搔器。黒色の縄のある黒曜石。素材の起源は両極石核。矩形の厚い素材の端部に間接打撃で急角度の剝離で加工。そこが刃部と思われる。この石器は上面にその加工面を図化している。
- 43：搔器。42と石材・素材・加工・形態同じ石器。右側辺に急角度の刃部を形成している。
- 44：削器？。分厚い素材の両側辺に間接打撃による深く小さな剝離で刃部を形成している。石錐の未製品の可能性も多い。
- 45：石器断片。被熱資料。加工は深い押圧剝離で石錐の加工。石錐の未製品の可能性が高い。
- 46：削器？。両極剝片が素材。右側辺の加工は石錐の加工。石錐の未製品の可能性が高い。

- 47：削器？。素材は厚い横長剥片。右側辺に丁寧な押圧剝離。石錐の未製品の可能性が高い。
- 48：削器？。素材は薄い両極剥片。剥片末端に丁寧な押圧剝離。石錐の未製品の可能性が高い。
- 49：削器？。素材は扁平な剥片。打面は折り取り。手前の辺に丁寧な押圧剝離。石錐の未製品の可能性が高い。
- 50：搔器。透明な黒曜石。両極石核を素材に、その内湾する厚い側辺に微細で深い剝離で加工して通常のスクレイバーエッジを形成している。
- 51：器種不明。黒い縞のある黒曜石。自然破砕による小形の原石を素材に、その縁辺に急角度の剝離をしている。剝離は小形石器にめざらしく直接打撃の急角度剝離。
- 52：削器？。素材は両極剥片。素材の薄い縁辺に大きな直仔の剝離具で丁寧な押圧剝離。素材の薄さのため縁辺は伸びている。石錐の未製品の可能性が高い。
- 53：削器？。頁岩。横長剥片の打面部と側辺を折り取り、鋭い辺の一部に間接打撃で加工を加えている。石錐の未製品の可能性も高い。
- 54：二次加工剥片(R,F)。黒色の縞のある黒曜石。背面に自然面を残す分厚い剥片を素材にする。打面は深い急角度剝離に加工されている。図の右側辺に不規則で潰れた剝離底がある。鋭い縁辺を硬い対象物にあてた使用痕と思われる。
- 55：二次加工剥片。透明な黒曜石。小形の剥片の打面部に押圧剝離で加工した石器。石錐の未製品の可能性が高い。
- 56：使用痕のある剥片。黒色の縞のある黒曜石。フリーフレイキングの剥片を素材にする。素材打面は一枚の剝離面打面。素材の鋭い縁辺の背面側に主に潰れた不規則な剝離面が連続している。
- 57：使用痕のある剥片。黒色の縞のある黒曜石。57と同じ石器。素材の打面は潰れた複数剝離面打面。
- 58：二次加工のある剥片。不透明な黒曜石。素材は両極剥片。図の裏面の上部からの剝離は大きなボジ面。本体に大きなボジ面の残るのは両極剝離の特徴である。このボジ面を切るように両側辺から押圧剝離がなされている。石錐の未製品の可能性もある。
- 59：削器？。透明な黒曜石。フリーフレイキングの剥片を素材。素材の打面は自然面打面。素材の薄い縁辺に裏面から丁寧な押圧剝離。石錐の未製品の可能性が高い。
- 60：使用痕のある剥片。透明な黒曜石。剥片の鋭い辺に潰れた不規則な剝離がある。

④ 61~66：チャート・頁岩製の石器

- 61：横形石器。縦長剥片を素材にした石匙。図は横長に位置して配置させてあるが、摘みが側辺に飛び出しているので横形石匙としてある。石器の対象軸からは縦型石匙である。刀部は図の下面でやや急角度の丁寧な押圧剝離。摘みのつくりは間接打撃で背面と裏面に加工をしている。チャート製。
- 62：削器。バルブの発達する剥片を素材にする。打面と剥片の末端を折り取り、右側の鋭い辺を刃部にして裏面側に押圧剝離で刃部を形成している。頁岩製。
- 63：搔器。バルブのやや発達する剥片を素材にする。素材の末端辺の厚みを利用して、丁寧な押圧剝離で急角度の刃部を形成している。打面は一枚の剝離面打面。チャート製。
- 64：搔器。バルブの発達する剥片を素材にして、両側辺に、その厚みを利用して丁寧な押圧剝離で刃部を形成している。加工は主要剝離面側に形成され、刃部が凸レンズ状の厚みを必要として作られたことがよくわかる資料。珪質頁岩。
- 65：石核断片。ハードハンマーで急角度剝離をしてる際に、石核の断片が吹き飛んだ資料。小形の剥片を剥

離するハンマーの使い方がよく理解できる資料である。珪質岩製。

66：縦型石匙。厚い縦長剝片を素材に、打面近辺に刃溝し加工で鋭い抉りを形成している。刃部は鋭い両側刃で、付いている剝離はおそらく使用痕。この石器のみ打製石斧類の製作技法の整形加工をなされている。

(2) 中形石器

① 石器の名称とその分類基準

中形石器にいたる石器は、従来の打製石斧・石匙などである。石匙などは珪岩製で押圧剝離で成形する小形のものも少量あるが、打製石斧と同じボソボソの石材を用いたものが多いのが特徴である。

打製石斧のなかで抉りのあるものが多い。また石匙にも抉りのあるものと摘みをつくるものがある。ここでは、抉りと摘みを便宜的に分けるために、次のような区別をしておくことにする。「摘み」というのは横形の石匙にみられるように器体から飛び出ている部分をいうが、特に縦型石匙などは加工で抉ってあるため、「摘み」と「抉り」の区別があいまいである。そこでこのような場合は、加工部分の抉りから向こうにかけて特に器体の幅と違う場合は、抉りの部分で器体から飛び出しているとして、それを「摘み」とする。一方抉りの加工から向こうも手前も同じ器体幅となるものは、「抉り」とした。

また、打製石斧と石匙の区別はおおむね慣習にしたがって記述した。以下住居ごとに個別の石器の説明を行ふ。

② SB1の石器

SB1には削器と打製石斧がある。削器は剝片の鋭い辺に1類に近い3類の剝離で刃部をつくられている。打製石斧は刃先の厚いものと刃先の薄いものがある。刃先のあつい打製石斧はやや大形で重量感がある。刃先の薄い打製石斧は扁平な素材の鋭い辺をそのまま利用した刃部をつくっている。成形の剝離はいずれも1類の剝離による。

1：使用痕のある剝片である。打面は自然面で右側刃手前に使用痕が観察できる。剝離技術は1類である。

安山岩。

2：削器。左側刃は刃溝し加工。上面と下面是1類に近い3類の剝離で刃部を形成している。安山岩。

3：削器。礫端片を素材に、1類に近い3類で刃部を形成している。安山岩。

4：打製石斧。薄く扁平な剝片を素材に両側刃に1類の剝離で成形している。

5：打製石斧。薄く扁平な横長剝片を素材に、素材の鋭い辺が斜めに付いている。左側刃の真中から向こう、そして右側刃は1類の剝離で成形されている。また左側刃手前に斜めに刃部がある。

6：打製石斧。破損が著しい。左側刃は丁寧に滑されて滑らかになっている抉りがある。右側刃は1類の成形加工。

7：打製石斧。横長剝片素材で素材の鋭い辺を刃部にしている。両側刃は1類の成形加工。pit 2から出土している。

8：打製石斧。7と同じつくりの打製石斧。安山岩。

9：打製石斧。やや厚い刃部をもち、両側刃は1類で成形加工をされている打製石斧。安山岩。

10：打製石斧。やや厚い刃部をもち、両側刃は1類で成形されている。また刃先から数cm向こうはやや鋸歯状の側刃となり、これは直接打撃の刃溝し加工の結果である。

11：打製石斧。刃先の折れている打製石斧。両側刃は1類の剝離で成形されている。硬質砂岩。

- 12：打製石斧。背面に自然面を残し、その自然面の滑らかな部分と主要剥離面のなす鋭い刃で刃部をつくっている。両側刃は鋭い刃を1類の剝で加工しており、打点が明瞭でやや鋸歯状になっている。硬質砂岩。
- 13：打製石斧。12と同じ作り方の打製石斧。刃先は使用により折れている。

③ SB 2 の石器

- SB 2 には14のような特徴的な尖頭石器がある。石匙の形態変異とも考えられるが、有茎尖頭器の変種として東北地方の貞岩の石器に類例を求めるべきと考えている。なお後述するが、この住居からは大形の翡翠の大珠と回転穿孔用のドリルも出土している。
- 14：尖頭石器？。基部と抉りは丁寧な刃済し加工。成形加工は1類の剥離。安山岩。
- 15：削器。左側刃は1類の剥離で3類の剥離でやや鋸歯状の刃部を形成。右側刃は1類の剥離で整形。頁岩。
- 16：打製石斧。右側刃に丁寧な刃済し加工による抉り。成形加工は1類の剥離。
- 17：打製石斧刃部。左側刃に丁寧な刃済し加工で抉り。成形加工は1類の剥離。安山岩。
- 18：打製石斧。成形加工は2類の剥離。ホルンフェルス。
- 19：打製石斧刃部。成形加工は1類の剥離。硬質砂岩。
- 20：打製石斧。成形加工は2類の剥離。安山岩。
- 21：打製石斧。成形加工は2類の剥離。硬質砂岩。
- 22：打製石斧。成形加工は1類の剥離。両側刃は丁寧な刃済し加工。pit 5 出土。安山岩。
- 23~25：打製石斧基部。成形加工はいずれも1類の剥離。石材は安山岩。
- 26：打製石斧未製品。左側刃は刃済し加工。安山岩。
- 27：打製石斧。成形加工は1類の剥離。バチ形。ホルンフェルス。
- 28：打製石斧。成形加工は1類の剥離。バチ形。27と同一母岩。
- 29：打製石斧。成形加工は1類の剥離。pit 4 出土。ホルンフェルス。
- 30~31：打製石斧の製作剝片。1類の剥離による剝片。安山岩。

④ SB 3 の石器

この住居の石器で特徴なのは、かなり変形された石匙(32)と大形で平坦剥離(2類)の打製石斧？(41)が出土していることである。打製石斧類も2類の剥離で成形されるものが多い。41のような石器は南東北の前期から中期の土器群に組成する「ヘラ状石器」の一部に同様の石器がある。

- 32：石匙。剥離技術1で成形加工。
- 33：横形石匙。摘みは丁寧な刃済し加工。
- 34：石鍬。剝片の一部を剥離3で整形加工している。
- 35：打製石斧？、削器？。成形加工は剥離2なされている。
- 36：削器？。両側刃の基部に刃済し加工で抉り。手前の刃は3類の剥離で刃部形成。
- 37：打製石斧の製作剝片。左側刃に丁寧な刃済し加工痕がみられる。
- 38：基部に丁寧な刃済し加工で抉り。成形加工は1類の剥離。
- 39：削器。右側刃に3類の剥離で刃部形成。
- 40：剝片。貞岩。
- 41：打製石斧？。成形加工は2類の剥離。刃部は薄く尖銳。pit 6 で出土。

- 42：打製石斧。成形加工は 1 類の剥離。刃部欠損。
- 43：尖頭器？。成形加工は 2 類の剥離。風化の激しいホルンフェルス。
- 44：削器。成形加工は 3 類の剥離。頁岩。
- 45：削器。周囲は 3 類の剥離。
- 46：打製石斧。成形加工は 1 類の剥離。硬質砂岩。pit 5 から出土。
- 47：打製石斧。成形加工は 2 類の剥離。
- 48：打製石斧。成形加工は 1 類の剥離。硬質頁岩。
- 49：打製石斧。成形加工は 1 類の剥離。硬質砂岩。
- 50：打製石斧。成形加工はない。整形加工は周囲に丁寧な刃潰し加工。
- 51：打製石斧。成形加工は 2 類の剥離。頁岩。
- 52：打製石斧。成形加工は 3 類の剥離。ゴロゴロした棒状の素材に薄い刃部がついた石器。ホルンフェルス製。
- 53：打製石斧？、尖頭器？。きわめて薄手で均質な厚みの器体。器体周囲を 3 類の剥離で整形加工。ホルンフェルス製。
- 54：打製石斧。均一で薄い器体と刃部。成形加工は 2 類の剥離。ホルンフェルス製。pit 6 出土。
- 55：打製石斧。基部先端は欠損。基部に丁寧な刃潰し加工で抉りがある。成形加工は 2 類の剥離。硬質砂岩製。
- 56：打製石斧。側部から基部にかけて丁寧な刃潰し加工。刃部は 3 類の剥離。成形加工は 1 類の剥離。硬質砂岩製。
- 57：打製石斧。均一で薄い器体。成形加工は 2 類の剥離。ホルンフェルス製。
- 58：打製石斧。均一で薄い器体。成形加工は 2 類の剥離。ホルンフェルス製。
- 59：打製石斧。均一で薄い器体。成形加工は 2 類の剥離。炉内出土。ホルンフェルス製。
- 60：打製石斧。成形加工は 3 類の剥離。頁岩製。
- 61：打製石斧脇部。成形加工は 1 類の剥離。硬質砂岩製。
- 62：打製石斧基部。成形加工は 1 類の剥離。硬質砂岩製。
- 63：打製石斧基部。成形加工は 2 類の剥離。風化の激しいホルンフェルス製。
- 64：打製石斧刃部。成形加工は 1 類の剥離。硬質砂岩製。
- 65：打製石斧刃部先端。ホルンフェルス製。

⑤ SB 4 の石器

SB 4 の石器で特徴的なものはPIT 6 から出土している石匙類（66・67・68）である。いずれも縦形石匙の形態変異である。さらに76のように磨製石斧の断片を利用して石匙状の削器なども出土している。

- 66：縦形石匙。摘みを丁寧な刃潰し加工で整形。左側辺は刃潰し加工、右側辺は 3 類の剥離で刃部を形成。
- 67：石匙。摘みが斜めにつく横形石匙。刃部は 3 類の剥離で左側辺に形成。摘みも 1 類の剥離で形成。緑色凝灰岩製。pit 6 出土。
- 68：縦形石匙。1 類の剥離で脇部と摘みを形成。両側辺真中から手前にかけて 3 類の剥離で薄い刃部をつくる。安山岩製。pit 6 出土。
- 69：石匙未製品。成形加工は 1 類の剥離。頁岩製。pit 6 の出土。
- 70：打製石斧。均質な薄い素材を 2 類に近い 3 類の剥離で成形加工している。安山岩製。被熱資料。pit 6 出

土資料。

- 71：打製石斧。やや厚い素材を1類の剥離で成形加工。ホルンフェルス製。pit 6 出土資料。
- 72：打製石斧？。真中に丁寧な刃済し加工で抉り。抉りから手前は1類の剥離で成形加工、抉りより向こうは3類の剥離でやや鋸歯線の整形をしている。pit 7 の出土資料。硬質砂岩製。
- 73：打製石斧。2類の剥離で成形加工氏、刃部には磨耗痕がみられる。硬質砂岩製。pit 7 の出土資料。同じ石器が78にもある。
- 74：打製石斧？、削器？。薄い素材を1類の剥離で成形加工している。pit 7 の出土資料。硬質砂岩製。
- 75：石匙。摘みは丁寧な刃済し加工。成形加工はほとんどなされていない。剥片の形状をいかしている。硬質砂岩製。
- 76：削器？。磨製石斧の断片を利用して2類の剥離で成形加工をしている。基部は摘み状となり丁寧な刃済し加工。綠泥片岩製。
- 77：器種不明。基部は刃済し加工で整形され、臍部以下は1類の剥離で成形されている。硬質砂岩製。
- 78：打製石斧。成形加工は2類の剥離。良質の泥灰岩製。全く同じ石器がSB 3 の60である。
- 79：打製石斧。成形加工は2類の剥離。基部には丁寧な刃済し加工。安山岩。
- 80：打製石斧。成形加工は2類の剥離。風化が激しいホルンフェルス製。
- 81：打製石斧。成形加工は1類の剥離。風化が激しいホルンフェルス製。
- 82：打製石斧。成形加工は2類の剥離。硬質砂岩製。
- 83：打製石斧。成形加工は2類の剥離、整形加工は刃済し加工。特に左側刃手前に丁寧な刃済し加工で抉りがある。硬質砂岩製。
- 84：打製石斧？。右側刃1類の剥離と丁寧な刃済し加工で2カ所の抉りをいれてある。右側刃は節理による素材の折れ。硬質砂岩製。
- 85：打製石斧。礫素材。2類の剥離で成形加工。バチ形。風化の激しいホルンフェルス。
- 86：打製石斧刃部。成形加工は1類の剥離。風化の激しいホルンフェルス製。
- 87：打製石斧。成形加工は1類の剥離。ホルンフェルス。
- 88：打製石斧。成形加工は2類の剥離。ホルンフェルス。
- 89：打製石斧。成形加工は2類の剥離。ホルンフェルス。
- 90：打製石斧。成形加工は2類の剥離。ホルンフェルス。pit23出土。
- 91：打製石斧。成形加工は1類の剥離。ホルンフェルス。
- 92：打製石斧。成形加工は1類の剥離。硬質砂岩製。

⑥ SB 5 の石器

- SB 5 の石器は削器と打製石斧で構成される。遺物数が少ないのでSB 4 と重複関係にあるからであろう。
- 93：削器。横長剥片の鋭い側刃に直接打擊で刃部を形成している。安山岩。pit 5 出土。
- 94：打製石斧？。薄く剥がれる片岩の剥片に粗い刃済し加工のみをしている。全体の形態は不明。pit 5 出土。
- 95：打製石斧？。薄い安山岩の剥片に粗い刃済し加工のみをしている。刃部は手前の鋭い刃。pit 5 出土。
- 96：打製石斧。硬質砂岩。両側刃刃に刃済し加工。整形加工はみられない。
- 97：打製石斧基部。成形加工は2類。安山岩。

98：打製石斧。成形加工はおそらく 2 類。左側辺向こうの素材の厚い部分に粗い刃溝し加工も観察できる。風化のはげしいホルンフェルス製。

99：打製石斧。成形加工は 1 類。右側辺の真中向こうに刃溝し加工による抉りがある。硬質砂岩。

⑦ SB 6 の石器

SB 6 の石器は形態の整った横形石匙と縦型石匙の出土しているのが特徴である。石器類の成形加工は 2 類に偏っている。

100：横形石匙。成形加工と刃部は剥離 2。摘みは丁寧な刃溝し加工。安山岩製。

101：横形石匙。硬質砂岩の剥片に直接打撃で裏面に刃部加工をしている。摘みは刃溝し加工。

102：縦型石匙？。成形加工は 2 類。抉りの部分に丁寧な刃溝し加工をしている。安山岩製。

103：搔器。打製石斧の転用であろう。打製石斧の刃部に剥離 2 で搔器刃部をつくっている。期待の上辺は折り取られている。

104：打製石斧。緑色凝灰岩。成形加工は剥離技術 2。左側辺には刃溝し加工、右側辺は丁寧な刃溝し加工。

105：打製石斧。ホルンフェルス。成形加工は剥離技術 2。両側辺とともに刃溝し加工。

106：打製石斧？。安山岩製。薄い尖頭状の刃部を剥離 2 でつくるのが特徴。全体の成形剥離は剥離 2 で行い、そのあとに刃溝し加工を行っている。

⑧ SB 7 の石器

SB 7 の石器は削器に特徴がある。磨製石斧の断片を素材にした削器や 107 の剥片なども刃器の可能性がある。

107：中形剥片。硬質砂岩製。自然面打面で剥離角 90 度前後。側辺は鋭い。

108：縦型石匙？。磨製石斧の断片を素材に利用。右側辺の基部に丁寧な刃溝し加工。左側辺基部は剥離 1 で成形加工。右側辺は剥離 1 で成形加工。刃部は左側辺で、裏面に剥離 3 で刃部を形成している。緑色凝灰岩。

109：削器？。ホルンフェルス製。成形加工は剥離 2。左側辺は丁寧な刃溝し加工。右側辺は裏面に規則的な剥離 3 がみられるので、右側辺が刃部であろう。

110：打製石斧。ホルンフェルス製。成形加工は剥離 2、側辺の一部に整形加工があり、剥離 3 で辺をつくっている。風化が激しい。

111：打製石斧。安山岩製。成形加工は剥離 2、側辺の一部に整形加工があり、剥離 3 で辺をつくっている。

112：打製石斧。尖頭状の刃部をもつ形態。成形加工は剥離 3。頁岩製。刃部の一部は欠損。

⑨ SB 8 の石器

SB 8 の石器は刃部磨製石斧の出土に特徴がある。また打製石斧の刃部背面に自然面が残るのも時期の指標になる可能性がある。

113：打製石斧。短圓形。成形加工は剥離 1。刃部は刃先方向からの剥離で損傷している。

114：打製石斧。短圓形。成形加工は剥離 1。側辺に刃溝し加工もしている。

115：横形石匙？。三角形の頂点に剥離 3 で摘み状の突起をつくっている。刃部は下辺で、裏面に剥離 3 の加工でつくっている。安山岩製。

116：部分磨製石斧。緑色岩製。成形加工は剥離 1、整形加工は剥離 1 と剥離 3 の中間様相。胸部から刃部に

かけて丁寧な磨痕が観察できる。

117：打製石斧。短圓形。成形加工は剥離 1。脇部から向こうに刃溝し加工。硬質砂岩。

118：打製石斧。平面は短圓形だが、刃部周辺は片刀のカマボコ状の断面、側辺は反っている。成形加工は剥離 2、整形加工は剥離 3。ホルンフェルス製。

119：打製石斧。成形加工は剥離 1。刃部に鋭い刃の自然面を残し、片刀をつくっている。ホルンフェルス製。

120：打製石斧。成形加工は剥離 2、整形加工は剥離 3。背面に自然面を残す。硬質砂岩製。

121：打製石斧未製品。左側辺に丁寧な刃溝し加工がある。

122：打製石斧。成形加工は剥離 2、整形加工は刃溝し加工。基部を折り取りで尖らせている。硬質砂岩製。

123：打製石斧基部。成形加工は剥離 2、整形加工は剥離 3。安山岩製。

⑩ SB 9 の石器

SB 9 の石器は成形加工で剥離 2 が優勢である削器・打製石斧とともに遺物量が多い。打製石斧の形態はバチ形が優勢で、その剥離技術は剥離 2 による。

124：横形石匙。つまみの部分は剥片が剥がれたときの素材の打面の辺。その辺を利用して微細な刃溝し加工で摘みをつくっている。安山岩製。

125～127：打製石斧の接合資料。短圓形の打製石斧。成形加工は剥離 2。頁岩製。基部(125)は折れ面に再加工がなされ、刃部をもつような製作のされかたをしている。基部は打製石斧欠損のうちに再加工されて削器に作り替えられた可能性が高い。基部(125)はPIT16の出土。

128：花崗岩の原石。土器の混和材の可能性のある原石。

129：縦形石匙：中形の剥片を素材に 3 類の剥離で摘みをつくり、裏面を 2 類の剥離で成形している。

130：横形石匙。打製石斧と同じ素材を用いて、長辺に抉りをいれて小さな摘みをつくっている。摘みは丁寧な刃溝し加工がなされている。刃部は 3 類の剥離でつくられている。

131：削器。1 類の剥離で成形されている三角形の削器。緑色凝灰岩製。

132：横形石匙。ホルンフェルス製。抉りを 3 類の剥離で、成形加工を 2 類の剥離でなす。刃部は欠損。

133：削器。2 類の剥離で成形加工、3 類の剥離で整形加工をしている三角形の石器。

134：削器。左側辺に急角度の 3 類の剥離、右側辺に 1 類の剥離で成形。刃部は下面で不規則剥離。

135：器種不明。打製石斧の転用。折れた打製石斧の刃部を再加工。基部に微細な 3 類の剥離で小さな突起をつくっている。

136：削器。上辺は刃溝し加工。右側辺と下辺に 3 類の小さな剥離で鋸齒状の刃部をつくっている。安山岩製。

137：削器。扁平な角礫を素材に、溝しで柄をつくり、刃部を剥離 2 で成形加工している。溝しは正面右側辺の手前に岡化した。

138：削器。右側辺に刃部。刃部は 1 類の剥離で薄く成形したあと、3 類の剥離で刃先をつくっている。ホルンフェルス製。

140：削器。上辺の成形加工は剥離 1。下辺の刃部は 2 類の剥離で刃部を形成。硬質砂岩。

141：削器。打製石斧の素材を利用し、長辺に剥離 3 でやや鋸齒状の刃部をつくっている。上辺は刃溝し加工。

142：打製石斧？。槍先形尖頭器の可能性もあり。薄く扁平な素材に 2 類の剥離で成形加工。

- 143：打製石斧。成形加工は剥離 1。形態はおそらくバチ形。基部に若干の抉りがあり刃済し加工をしている。
- 144：打製石斧。薄く扁平な素材。成形加工は 2 類の剥離。
- 145：打製石斧。バチ形。成形加工は 2 類の剥離。剥離面が伸びないのは石質の影響と思われる。硬質砂岩。
- 146：打製石斧。成形加工は剥離 2。背面に自然面を残し、刃先は欠損している。バチ形。
- 147：打製石斧。成形加工は剥離 2。バチ形で基部を平坦剥離で成形している。
- 148：打製石斧。短冊形。成形加工は剥離 1。成形加工の剥離が大きく剝がれて裏面を形成している。硬質砂岩製。
- 149：打製石斧。成形加工は 2 類、左側辺に整形加工でさらに刃済し加工。硬質砂岩製。
- 150：打製石斧。バチ形。成形加工は 2 類。右側辺に整形加工で刃済し加工。硬質砂岩製。
- 151：打製石斧。ホルンフェルス製で風化が激しい。成形加工は 2 類。
- 152：打製石斧。短冊形。成形加工は剥離 2。刃部は剥離 3 でつくっている。扁平。
- 153：打製石斧基部。バチ形。成形加工は剥離 2。
- 154：打製石斧。バチ形。風化の激しいホルンフェルス製。成形加工は剥離 2。
- 155：打製石斧。バチ形。成形剥離は 2 類。硬質砂岩製。
- 156：打製石斧基部。成形加工は 2 類。
- 157：打製石斧。バチ形。成形加工は主に 2 類。整形加工は 1 類と丁寧な刃済し加工が両側辺になされている。硬質砂岩製。
- 158：打製石斧。バチ形。背面に大きな自然面を残し、両側辺を 2 類の剥離で成形している。背面の剥離はやや 1 類に近い 2 類の剥離である。
- 159：打製石斧。風化の激しいホルンフェルス製。成形加工は 2 類。
- 160：打製石斧。159と石質・剥離技術ともに同じ石器。

⑪ SB10の石器

SB10の石器は摘みのやや斜めについた縦形石匙とやや大形の打製石斧(163)が特徴である。この打製石斧は基部が折れているが、本遺跡にある大形品3点のうちの1点である。大形品は土坑と遺構外から出土している。

- 161：縦形石匙：ホルンフェルス製。摘みは 1 類の剥離。成形加工も 1 類の剥離。刃部は右側辺で、素材の鋸い辺を利用し、使用痕と思われる不規則剥離が観察できる。
- 162：縦形石匙：片岩製。右側辺を 1 類の剥離で成形、つまみを済しでつくっている。刃部は薄く、使用痕が観察できる。
- 163：打製石斧。両側辺を 1 類で成形。安山岩製。
- 164：打製石斧。左側辺と右側辺真中向こうは 1 類で成形。右側辺手前は規則正しい鋸歯状の刃部。
- 165：両側辺を 2 類の剥離で成形。刃部は破損。基部は尖基。硬質砂岩。
- 166：打製石斧。両側辺を 2 類の剥離で成形。バチ形。
- 167：打製石斧。両側辺を 1 類の剥離で成形。短冊形。
- 168：打製石斧。両側辺の成形加工は 2 類の剥離。左側辺に顕著な磨耗痕がある。

② SB11の石器

169：尖頭石器？。通常は横形石匙に分類されるが、意図的に尖頭部を残していること、基部は有茎尖頭器状であることから尖頭石器に分類した。基部は丁寧な漬しによって加工されている。背面に大きく自然面を残す。刃部は不規則剝離。頁岩製。

170：打製石斧。緑色凝灰岩製。両側刃は2類の剝離で成形される。基部は破損。

③ SB12佐の石器

171：凝形石匙？。基部に刃漬し加工で抉りが入り、摘みがつくられている。左側刃と右側刃は3類の剝離が行われる。刃部は右側刃。安山岩製。

172：横形石匙。摘みは漬しで形成。風化が激しく剝離面は不明だが、成形加工は1類の剝離と思われる。ホルンフェルス製。

173：打製石斧。両側刃を2類の剝離で成形してゐる石器。

174：打製石斧。両側刃を1類の剝離で成形してゐる石器。頁岩製。

175：打製石斧基部。基部の両側刃に抉りをつくる。抉りは1類の剝離と丁寧な刃漬し加工。

176：打製石斧。背面に大きな自然面を残し、基部に緩やかな抉りをいれている。ホルンフェルス。

177：打製石斧。両側刃を2類の剝離で成形している。バチ形。

178：打製石斧。両側刃を2類の剝離で成形している。バチ形。170と同じ石器。硬質砂岩。この石質で2類の剝離が規則的に行われ、剝離がうまく進行すると、右側刃の向こうのようにやや鋸歯状の側刃になる。

179：打製石斧。両側刃は丁寧な刃漬し加工。成形加工は2類。左側刃にやや鋸歯状の側刃が残っている。

④ SB13の石器

この住居の石器はおもに2類の剝離で石器が製作されている。また器種に槍先形尖頭器があることも特徴である。打製石斧はバチ形が優勢で2類の剝離でつくられ、短冊形は1点で1類の剝離で成形加工がなされている。

180：槍先形尖頭器？、打製石斧？。成形加工は2類とそれに近い3類である。尖頭部が2類の剝離でよくつくれられている。素材はやや厚く、石材は硬質砂岩である。尖頭器としてよいか打製石斧としてなのか分類不能の石器である。

181：槍先形尖頭器。硬質安山岩製。成形加工は規則正しい2類の剝離で、石質の影響で側刃がやや鋸歯状になる。器体は7mm前後と均質に薄く仕上げられている。

182：削器。成形加工は2類。左側刃はさらに刃漬し加工で仕上げられている。刃部は右側刃の手前から真中にかけて3類の剝離でやや鋸歯状になっている。

183：打製石斧。本住居で単独の短冊形打製石斧。成形加工は剝離1。右側刃むこうに刃漬し加工。

184：打製石斧。バチ形。成形加工は2類に近い3類。硬質砂岩製。

185：打製石斧。バチ形。成形加工は丁寧な3類。縁刃が鋸歯状になる。

186：打製石斧。バチ形。成形加工は丁寧な2類。平坦剝離がよく発達する。刃部も2類の剝離で薄く仕上げている。

187：大形の打製石斧。ホルンフェルス製。分厚い素材を2類の剝離で丁寧に成形している。刃部も2類で薄くしあげている。

⑩ SB14の石器

成形加工の剥離技術で2類が優勢である。石匙1点、槍先形尖頭器1点、有茎尖頭器1点、削器4点、打製石斧5点、不明1点となっている。

188：横形石匙。緑色凝灰岩。摘みは丁寧は刃溝し加工で、刃部は1類に近い3類の加工で刃部を形成している。

189：尖頭器。横長の剥片を素材に、側辺を1類の剥離で成形加工をし、尖頭部を3類の剥離で整形している。

190：縦形石匙。左側辺と右側辺の真中から向こうは3類の剥離で成形加工をし、右側辺手前に鋸歯状の刃部を形成している。

191：削器。横長剥片を素材に成形加工は2類で、素材の鋭い側辺に3類の剥離で刃部を形成する削器。ホルンフェルス製。SB1にも同じ削器がある。

192：尖頭石器。薄く剥がれる片岩製。基の部分は小さなハンマーをつかった刃溝し加工。尖頭部は3類の加工。

193：削器。横長剥片素材。右側辺は丁寧な刃溝し加工。左側辺は素材の鋭い辺に4類で鋸歯状の刃部を形成している。

194：削器。右側辺は丁寧な刃溝し加工。右側辺は小さくて規則的な鋸歯状の刃部。刃部は押圧剥離の可能性もある。硬質砂岩製。

195：削器。右側辺に2類の剥離で加工。右側辺が刃部と考えられる。

196：打製石斧。右側辺は1類の剥離で成形のあと、丁寧な刃溝し加工をしている。左側辺は1類の剥離で成形している。

197：打製石斧。バチ形。両側辺は2類の剥離で成形されている。硬質砂岩製。

198：打製石斧。右側辺は丁寧な刃溝し加工。左側辺は2類の剥離で成形。硬質砂岩のため、2類の剥離が伸びない。

199：打製石斧。左側辺と右側辺向こうに丁寧な刃溝し加工。右側辺はおおむね3類の剥離で成形されている。

200：打製石斧。綾やかなバチ形。両側辺は2類の剥離で成形されている。背面に大きな自然面を残し、刃部は使用による剥離で階段状剥離となっている。pit3から出土。

⑪ SB16の石器

SB16は本遺跡で最大の住居である。遺物も最も多い。図化した遺物も86点となり全体の2割強をしめる。石器の形態のバリエイションも多く、大形品も混じっている。

201：縦形石匙。ホルンフェルス製。風化が激しく剥離がとろけている。摘みの部分は刃溝し加工。

202：縦形石匙。頁岩。成形加工は剥離1。

203：縦形石匙。ホルンフェルス製。風化が激しく剥離がとろけている。摘みの部分は3類の剥離で加工。

204：削器？打製石斧？。成形加工は1類。基部に抉りのつくりかけ。風化の激しいホルンフェルス製。

205：削器。右側辺の真中に丁寧な刃溝し加工による抉り。左側辺は鋸歯状の刃部。

206：削器。片岩。右側辺は鋸歯状の刃部。

207：削器。上面から左側辺にかけて1類の剥離で成形加工。右側辺は3類の剥離で刃部を形成。

- 208：削器？、打製石斧？。成形加工は1類の剥離。右側刃基部に剥離1で成形加工。刃部は末端にあるが、抉りが鋸歯なので、器種認定が不明な石器。
- 209：削器。右辺に3類の剥離で刃部を形成。左辺は自然面。硬質砂岩製。
- 210：削器。刃部は右側辺。刃部の加工は幅広の3類の剥離。
- 211：削器。硬質砂岩製。成形加工は1類の剥離。形態は包丁形。
- 212：打製石斧？、削器？。成形加工は1類の剥離。左側辺に3類の剥離で刃部を形成している。
- 213：二次加工剥片。横長剥片を素材に、素材の縁辺に刃部の加工、打面部を切り取る加工。形態は石匙に似る。
- 214：横形石匙。硬質砂岩製。成形加工は1類の剥離。
- 215：削器・安山岩製。垂直打ちではがされた剥片を素材に、その縁辺に平らで小さな剥離3で刃部を形成している。左側辺向こうに打痕が観察できる。
- 216：削器。安山岩製。下辺に3類の剥離で刃部を形成している。上辺は丁寧な刃潰し加工。
- 217：削器。刃部は剥離3で形成される。
- 218：打製石斧？。成形加工は1類の剥離。抉りは丁寧な刃潰し加工。
- 219～221：打製石斧の接合資料。成形加工は2類の剥離。製作途上の折れ。
- 222～224：打製石斧の接合資料。緑色凝灰岩製。216と217は単品。217は折れたのち、基部を再加工して一個の打製石斧に仕上げられている。
- 225：打製石斧。成形加工は1類の剥離。短冊形。硬質砂岩製。
- 226：打製石斧。成形加工は1類の剥離。短冊形。硬質砂岩製。
- 227：打製石斧。成形加工は3類に近い1類。短冊形。風化の激しいホルンフェルス製。
- 228：打製石斧。成形加工は2類の剥離。基部は折り取りにより尖銳に加工。硬質砂岩製。
- 229：打製石斧。成形加工は1類の剥離。整形加工は刃潰し加工。
- 230：打製石斧。成形加工は2類の剥離。安山岩製。
- 231：打製石斧。成形加工は2類の剥離、整形加工は刃潰し加工。刃部は腐耗。硬質砂岩製。
- 232：打製石斧。成形加工はほとんどみられず、素材の形状を生かしている。整形加工は刃潰し加工。硬質砂岩製。
- 233：打製石斧。成形加工は2類の剥離。分厚い刃部。硬質砂岩製。
- 234：打製石斧。成形加工は2類に近い3類の剥離。頁岩製。風化が激しく剥離面はとろけている。
- 235：打製石斧。成形加工は2類の剥離。硬質砂岩製。
- 236：打製石斧。成形剥離は2類の剥離。硬質砂岩製。
- 237：打製石斧。成形加工は2類の剥離。硬質砂岩製。
- 238：打製石斧。成形加工は2類。整形加工は刃潰し加工。硬質砂岩製。
- 239：打製石斧。成形加工は1類。硬質砂岩製。
- 240：打製石斧。磨製石斧の破損品を転用して、側辺に刃潰し加工で整形加工で形状を整えている。
- 241：打製石斧。成形加工は1類。基部に丁寧な刃潰し加工で抉り。硬質砂岩製。
- 242：打製石斧。成形加工は1類。基部は尖る。左側辺は素材の節理で面を形成している。
- 243：打製石斧。成形加工は1類。硬質砂岩製。
- 244：打製石斧の基部。成形加工は1類。
- 245：打製石斧基部。成形加工は3類に近い2類。基部は尖らせている。硬質砂岩製。

- 246：打製石斧側部。成形加工は 1 類。硬質砂岩製。
- 247：打製石斧：成形加工は 2 類。整形加工は刃済し加工。
- 248：打製石斧？真中に抉り、基部は尖頭形。成形加工は 2 類の剝離、整形は 3 類の剝離。刃部欠損。
- 249：打製石斧。成形加工は 1 類の剝離。
- 250：打製石斧？。成形加工は 3 類の剝離。平面形状は打製石斧なので、ここに掲載したが、尖頭部をもつ削器の可能性もある。
- 251：打製石斧。全体に均一な薄さ。成形加工は 1 類の剝離。
- 252：打製石斧。全体に均一な薄さ。成形加工は 2 類の剝離。
- 253：打製石斧。全体に均一な薄さ。成形加工は 1 類の剝離。安山岩製。
- 254：打製石斧。成形加工は 2 類の剝離。
- 255：打製石斧。基部に刃済し加工。成形加工は 1 類の剝離。ホルンフェルス製。
- 256：打製石斧。成形加工は 2 類の剝離。風化の激しいホルンフェルス製。
- 257：打製石斧。均質な薄さ。成形加工は 2 類の剝離。ホルンフェルス製。
- 258：打製石斧。成形加工は 1 類の剝離。かなり小形の打製石斧。
- 259：打製石斧。成形加工は 2 類の剝離。刃部は厚い。ホルンフェルス製。
- 260：打製石斧。成形加工は 1 類の剝離。基部に 1 類の剝離で抉りがある。
- 261：打製石斧。成形加工は 1 類の剝離。形態は短円形。安山岩製。
- 262：打製石斧。成形加工は 2 類の剝離。形態はバチ形。硬質砂岩製。pit 3 出土。
- 263：打製石斧。成形加工は 1 類の剝離。安山岩製。
- 264：打製石斧。成形剝離は 1 類。硬質砂岩製。
- 265：打製石斧。成形加工は 2 類、整形加工は 3 類の剝離。刃部は薄く、磨耗している。
- 266：打製石斧。均質に薄い。成形剝離は 2 類。石材は片状に剥がれる堆積岩。
- 267：打製石斧。成形加工は 2 類の剝離。刃部に磨耗痕あり。硬質砂岩製。
- 268：打製石斧。成形加工は 2 類。形態はバチ形。安山岩製。
- 269：打製石斧未製品。成形加工は 2 類。硬質砂岩製。
- 270：打製石斧。かなり薄い器體と刃部。成形加工は 2 類。頁岩製。
- 271：打製石斧。薄く均質な器體。成形加工は 2 類の剝離。整形加工は刃済し加工。硬質砂岩製。
- 272：打製石斧の側部。成形加工は 2 類。
- 273：打製石斧？。成形加工は 1 類。
- 274：打製石斧。成形加工は 2 類の剝離。石材の質で奥にまで剝離が伸びていない。硬質砂岩製。
- 275：打製石斧。成形加工は 2 類の剝離。石材は片状に剥がれる堆積岩。
- 276：打製石斧の刃部。成形加工は 1 類。
- 277：打製石斧未製品。成形加工は 2 類の剝離。風化の激しいホルンフェルス。
- 278：打製石斧の刃部。成形加工は 1 類の剝離。風化の激しいホルンフェルス。
- 279：打製石斧の未製品。成形加工は 2 類。緑色凝灰岩。
- 280：花崗岩の剥片。土器の混和材？
- 281：軽石製石製品。裏面を平らに削っている。正面は凸レンズ状。
- 282：剥片。打製石斧の素材。ホルンフェルス製。pit 7 出土。

283：剥片。打製石斧の素材。頁岩製。

284：剥片。頁岩製。垂直打ちの剥片。刃器の可能性もある。

285：剥片。頁岩製。剝離時に打面部も欠落。刃器の可能性もある。

⑦ SB17の石器

286：削器。硬質砂岩。横長剥片の肉側辺に3類の剝離で鋸齒状の刃部を形成している。

⑧ SB18の石器

287：打製石斧。硬質砂岩。成形加工は1類の剝離。刃部を1類で形成。右側辺に連続する刀漬し加工。

288：打製石斧。硬質砂岩。成形加工は1類に剝離。側辺は粗い刀漬し加工でやや鋸齒状になる。

⑨ SB19の石器

289：横形石匙。摘みは丁寧な刀漬し加工。成形加工・刃部加工とともに1類の剝離。安山岩。

290：横形石匙/ドリル。摘みは丁寧な刀漬し加工。成形加工は1類の剝離。尖頭部はつくり直されている。

先端に磨耗痕が観察できるので、ドリルに転用している。安山岩。

291：削器。刃部は押圧剝離の鋸齒状の刃部で、両面加工である。良質の淡い黄褐色頁岩。この石材は遺跡内ではこの石器だけである。

292：石匙。摘みは丁寧な刀漬し加工。刃部は1類の剝離で加工。ホルンフェルス。

293：石匙。摘みは1類の剝離。刃部に顕著な磨耗痕。その磨耗痕は、柔らかい対象物に向かって、刃部を立て動かすときにできる使用痕である。石材は柔らかい乳白色の凝灰岩。

294：石匙。摘みは3類の剝離。刃部も3類の剝離で形成。安山岩。

295：削器。成形加工は1類の剝離。ホルンフェルス。

296：打製石斧。成形加工は1類の剝離。安山岩。pit 6 出土。

297：削器。刃部は1類の剝離。基部は丁寧な刀漬し加工。安山岩。

298：燧石製品。

298：打製石斧。成形加工は1類の剝離。ホルンフェルス。

299：打製石斧。成形加工は1類の剝離。ホルンフェルス。

300：打製石斧刃部。成形加工は1類の剝離。硬質砂岩。

301：打製石斧刃部。成形加工は2類の剝離。ホルンフェルス。

302：打製石斧刃部。成形加工は1類の剝離。安山岩。

303：打製石斧。成形加工は1類の剝離。硬質砂岩。

304：打製石斧。成形加工は1類の剝離。ホルンフェルス。

305：打製石斧。成形加工は1類の剝離。硬質砂岩。

306：打製石斧。成形加工は2類の剝離。硬質砂岩。

307：打製石斧。成形加工は1類の剝離。硬質砂岩。

308：打製石斧。成形加工は2類の剝離。ホルンフェルス。

309：打製石斧。左辺は3類の剝離。右辺は刀漬し加工。ホルンフェルス。

310：打製石斧。成形加工は2類、整形加工は両側辺に丁寧な刃漬し加工。

- 311：打製石斧。成形加工は1類の剥離。安山岩。
- 312：打製石斧。成形加工は1類の剥離。安山岩。
- 313：打製石斧。成形加工は2類の剥離。ホルンフェルス。
- 314：打製石斧。成形加工は1類の剥離。安山岩。
- 315～319：尖頭器？。315・318は2類の剥離で成形加工。317・319は1類の剥離で成形加工。石材はすべてホルンフェルス。

◎ 土坑の石器

土坑の石器は、器種別にまず図版をくみ、さらに土坑番号順におおむね準じて図版を作成した。土坑出土の石器には次のような傾向がある。

- ・石器の素材と完成品及び破損品の3種類がある。
- ・完成品には、使用痕の付くものと、全く未使用のものがある。

土坑の性格は不明だが、土坑内出土の遺物は土坑墓の副葬品としての可能性をもつ。特に328の大形優品や333の特殊磨石など注意されよう。

土坑の石器は住居内の石器の種類とほぼ対応しており、古林遺跡の石器の種類のカタログ的様相を示しているのも重要な点である。

- 320：103土坑出土。石匙。成形加工は1類の剥離。良質頁岩。
- 321：97土坑出土。石匙。横長の剝片に抉りをいれただけの石匙。薄い剝片をそのまま利用。ホルンフェルス。
- 322：72土坑出土。石匙。摘みは丁寧な刃溝し加工。成形加工は1類の剥離。頁岩。
- 323：125土坑出土。石匙。成形加工は2類。良質頁岩。
- 324：157土坑出土。石匙。風化が激しく剥離がとろけている。ホルンフェルス。
- 325：72土坑出土。石匙。摘みは3類の剥離で整形。刃部は鋭い刃に不規則剥離と潰れや磨耗がみられる。刃部の傷は使用痕。刃部は素材の鋭い刃を利用したものであろう。頁岩。
- 326：171土坑上層。石匙。摘みは3類の剥離で整形。刃部は不規則剥離がついている。325と同じ技法の石器。ホルンフェルス。
- 327：165土坑出土。磨製石斧。緑色凝灰岩。磨製石斧7と石材も技法も同一の石器。
- 328：器種不明。74土坑出土。長さ26cmの超大型品。石材は安山岩。大形の横長剥片を素材にしている。抉りの部分は丁寧な刃溝し加工。成形加工は1類の剥離。側辺はやや急角度の3類の剥離で刃部を形成している。本遺跡の石器製作技術の頂点をきわめる優品である。
- 329：59土坑出土。削器もしくは石匙の素材になる横長剝片。風化の激しいホルンフェルス。
- 330：剥片。切子打面で剥離角約90度。凝灰岩。横形石匙の素材剥片であろう。
- 331：115土坑山上。削器両側辺に微細で規則的な剥離痕。
- 332：使用痕のある剥片。149土坑出土。切子打面で剥離角90度。かなり薄い剥片で、右側辺の渋曲部分に不規則な微細剥離痕。
- 333：特殊磨石。安山岩。断面が三角形になり、それぞれの前に凹石の穿孔がある。穿孔は磨面以前に形成されているので、全面研磨の石器である。圓化した面にススが付着し、被熱の痕跡をもつ。
- 334：170土坑出土。打製石斧もしくは石匙の素材になる横長剝片。ホルンフェルス。

- 335 : 1號穴出土。打製石斧。側刃を粗い刃溝し加工で成形。刃部は手前の短刃で裏面に磨耗痕がみられる。砂岩。
- 336 : 51上坑出土。打製石斧断片。右側刃は丁寧な刃溝し加工。左側刃は粗い刃溝し加工。裏面左側刃の真中向こうにあるノッチは事故剥離の可能性あり。形態不明。硬質砂岩。
- 337 : 22土坑出土。打製石斧断片。かなり分厚い断片。成形加工は3類の剥離。磨製石斧のプランクと同じ形態だが、石材が打製石斧の安山岩である。全体の形態が不明なので尖頭部を下に向かたが、尖頭部が基部の可能性がある。
- 338 : 51上坑出土。削器。右側刃は刃溝し加工で整形して外反する刃を形成。左側刃は3類の剥離でやや直線状の鋭い刃部を形成。硬質砂岩。
- 339 : 65土坑出土。削器。左側刃は刃溝し加工。右側刃は3類の剥離で刃部を形成。刃部はかなり磨耗している。ホルンフェルス。340、338と同じ技法の石器。
- 340 : 65土坑出土。削器。右側刃は丁寧な刃溝し加工。左側刃は素材の刃に3類の剥離でやや直線状の鋭い刃部を形成。338、339と同じ技法の石器。良質な黒色緻密安山岩。
- 341 : 58上坑出土。側刃は2類の剥離と丁寧な刃溝し加工。刃部は手前の鋭い短刃。硬質砂岩。
- 342 : 88七坑出土。打製石斧。側刃を2類の剥離で形成。刃部は手前の短刃で2類の剥離で形成される。薄い器。体。安山岩。
- 343 : 打製石斧。成形加工は1類の剥離。基部を尖らせるとうに左側刃を折りとっている。硬質砂岩。
- 344 : 96上坑出土。打製石斧。1類の成形加工。風化が激しいホルンフェルス。
- 345 : 145土坑出土。打製石斧?。薄い器体の基部に刃溝し加工で抉りを入れる。側刃は2類の剥離で成形加工される。刃部は手前の鋭い素材の刃。石底の形態で打製石斧の刃部の位置を意図する石器。
- 346 : 127土坑出土。打製石斧?。背面は自然面に磨耗痕がのる。左側刃は刃溝し加工で整形。右側刃は2類の剥離で鋭い刃を形成。手前の刃が欠損しているので刃部形態が不明。右側刃刃部の削器の可能性もある。
- 347 : 139土坑出土。打製石斧。成形加工は幅広の3類の剥離。硬質砂岩。
- 348 : 147土坑出土。打製石斧断片。右側刃は丁寧な刃溝し加工。左側刃は1類の剥離で成形。形態不明。ホルンフェルス。
- 349 : 162上坑出土。打製石斧。成形加工は2類の剥離。器体がかなり薄い。刃部は磨耗。硬質砂岩。
- 350 : 164上坑出土。打製石斧。成形加工は1類の剥離。安山岩。
- 351 : 165土坑出土。打製石斧。成形加工は3類に近い1類の剥離。刃部は手前の短刃の鋭い刃。頁岩。
- 352 : 165土坑出土。打製石斧?。側刃を1類の剥離で成形。抉りで基部を形成しているように見えるが、加工では側刃から連続している。器体が薄いので削器かもしれない。硬質砂岩。
- 353 : 169土坑出土。打製石斧断片。左側刃は丁寧な刃溝し加工。右側刃は粗い刃溝し加工。上刃は1類の剥離で加工されている。裏面は基部としたが、刃部の可能性もある。いずれにしろ断片なので形態不明。
- 354 : 167土坑上層。打製石斧。成形加工は1類の剥離。ホルンフェルス。
- 355 : 167上坑上層。打製石斧。両側刃真中に丁寧な刃溝し加工で抉りをいれる。成形加工は1類の剥離。硬質砂岩。
- 356 : 167土坑上層出土。尖頭器?。成形加工は1類、整形加工は刃溝し加工。硬質砂岩。
- 357 : 116上坑出土。打製石斧。右側刃は丁寧な刃溝し加工。右側刃に3類の剥離。包丁形。硬質砂岩。

- 358 : 170土坑出土。打製石斧。成形加工は2類。斧部は刃潰し加工で整形。基部以外の側辺は3類の剥離で整形している。硬質砂岩。
- 359 : 171土坑上層。打製石斧。成形加工は2類。真中から向こうの側辺（基部）は丁寧な刃潰し加工。真中から手前にかけての側辺は粗い刃潰し加工で右側辺にやや鋸歯状の辺が形成されている。刃部は手前の短辺で、磨耗痕がみられる。
- 360 : 182土坑出土。打製石斧。側辺は幅広の3類の剥離で成形加工。刃部は手前の短辺で、かなり磨耗している。砂岩。

② 溝出土の石器

溝は近世のものと思われる。グリッド出土とはほぼ同じ扱いであるが、近世の溝が縄文の土坑群を削平しているので、この中には本米は土坑にともなう石器も混在している。

361 : 大形削器。ホルンフェルス。大形の横長削片を素材に、左側辺向こうに敲打による整形加工、右側辺向こうに2類の剥離で挟りをつくる。D-5G出土。土坑墓石器の可能性あり。

- 362 : 石匙。摘みを丁寧な刃潰し加工。刃部は不規則剥離で、刃部中央は磨耗がはげしい。凝灰岩。D-6G出土。
- 363・365 : 白色凝灰岩の亜角礫。柔らかい石材のためにバティナが剥がれ落ちている。ともに7溝出土。遺物の帰属時期が不明なため、縄文時代の石器に掲載した。
- 364 : 削器。上面は折れ面で、丁寧な刃潰し加工が残っており摘みの折れた可能性がある。側辺と下面は3類の剥離。硬質砂岩。B-7G出土。
- 366 : 石匙木製品。摘みは3類の剥離。右側辺は自然面が残る。1溝C-6G。
- 367 : 石匙。摘みは丁寧な刃潰し加工。両側辺に3類の剥離で刃部を形成。両側辺とも磨耗がはげしい。2溝。
- 368 : 特殊磨製品。ホルンフェルス。端部に角をだすような形態の磨製品。全面研磨でところどころ成形痕や素材の剥離面が残る。かなり特徴的な形態の石器。東北地方の大形住居にともなう磨製品に形態が類似する。同じ技法のものかは現時点では判断できないが、重要資料である。E-9G出土。
- 369 : 石匙。摘みは刃潰し加工で整形。刃部は3類の剥離で形成。安山岩。1溝C-6G出土。
- 370 : 小形打製石斧。器体は薄い。緑色岩で磨製石斧の素材の石材。成形加工は2類。E-3G出土。
- 371 : 打製石斧。器体は薄い。成形加工は1類の剥離。硬質砂岩。1溝出土。
- 372 : 削器？。側辺を1類の剥離で成形。刃部はおそらく手前の鋭い凸辺。安山岩。1溝C-6G出土。
- 373 : 打製石斧。3類の剥離と刃潰し加工で整形。2溝出土。安山岩。
- 374 : 打製石斧。整形加工は粗い刃潰し加工。硬質砂岩。1溝C-6G出土。
- 375 : 打製石斧。成形加工は粗い刃潰し加工。硬質砂岩。2溝出土。
- 376 : 打製石斧断片。2類の剥離で成形加工。刃部は欠損。砂岩。6溝出土。
- 377 : 打製石斧。3類の剥離で成形加工。ホルンフェルス。B-6G出土。
- 378 : 打製石斧。2類の剥離で成形加工。ホルンフェルス。B-8G出土。
- 379 : 打製石斧。粗い刃潰し加工で整形。ホルンフェルス。C-1G出土。
- 380 : 打製石斧。1類の剥離で成形加工。全体に磨耗が激しい。安山岩。1溝C-5G出土。
- 381 : 打製石斧。1類の剥離で成形加工し、丁寧な刃潰し加工で整形加工。硬質砂岩。D-3G。
- 382 : 打製石斧。2類の成形加工。硬質砂岩。D-4G出土。

- 383：削器。左側辺は刃溝し加工。右側辺は鋸歯状の刃部。頁岩。土坑出土の340と同じ石器。D-8 G出土。
- 384：打製石斧の断片。縁辺に丁寧な刃溝し加工。硬質砂岩。D-8 G出土。
- 385：削23。左側辺は粗い刃溝し加工。右側辺は3類の剥離で刃部を形成。安山岩。E-2 G出土。
- 386：打製石斧刃部。典型的な包丁形。右側辺は丁寧な刃溝し加工で抉りをいれながら整形。手前の辺から左側辺にかけて薄い素材の辺で刃部を形成。砂岩。E-3 G出土。
- 387：削器。削片の鋭い側辺に3類の剥離で刃部を形成。ホルンフェルス。E-3 G出土。
- 388：打製石斧。成形加工は2類の剥離。石質で剥離面は伸びない。硬質砂岩。E-3 G出土。
- 389：打製石斧。成形加工は1類の剥離。安山岩。E-3 G出土。
- 390：打製石斧。成形加工は予前の短辺で、裏面に3類の剥離。ホルンフェルス。E-9 G出土。
- 391：打製石斧。成形加工は粗い刃溝し加工。刃部は手前の短辺で、裏面に3類の剥離。ホルンフェルス。E-9 G出土。
- 392：打製石斧。成形加工は2類。刃部は手前の鋭い辺。刃部加工は主要剥離面側。ホルンフェルス。E-3 G出土。
- 393：打製石斧断片。右側辺は丁寧な刃溝し加工。左側辺は1類の剥離。安山岩。F-2 G出土。
- 394：打製石斧。粗い刃溝し加工で側辺を整形。成形加工はほとんどない。背面に大きな自然面。硬質砂岩。F-3 Gの出土。
- 395：打製石斧断片。側辺を粗い刃溝し加工。ホルンフェルス。393と石材の質感や加工は同じ。II-8 G出土。
- 396：打製石斧断片。成形加工は1類。硬質砂岩。F-9 G出土。
- 397：削器。薄い削片を素材に右側辺に3類の剥離で刃部を形成。土坑出土の332と同じ剥離技術の削片。
- 398：打製石斧。丁寧な刃溝し加工で側辺を整形。硬質砂岩。E-3 G出土。
- 399：削器。背の高い縦長削片を素材にする。右側辺は3類の剥離で鋭い刃部を形成。右側辺の手前には整形の刃溝し加工。左側辺は丁寧な刃溝し加工。緻密な安山岩。F-7 G出土。
- 400：打製石斧。両側辺とも丁寧な刃溝し加工。硬質砂岩。H-8 G出土。
- 401：打製石斧断片。成形加工は2類の剥離。刃部は手前の短辺。刃部のエッジは潰れており、おそらく使用痕。硬質砂岩。II-8 G出土。
- 402：打製石斧？薄い素材に2類の成形加工。緻密黒色安山岩。D-9 G出土。
- 403：打製石斧。成形加工は1類の剥離。安山岩。表面採集。
- 404：石匙。摘みは丁寧な刃溝し加工。刃部は素材の辺で、使用痕が両面に付く。安山岩。

(3) 磨製石斧

① 磨製石斧類の概要

古林遺跡の磨製石斧は、その色調に石材の選択性がある。主に深い緑色の岩石を好んで用いている。この傾向は縄文時代中期全般を通じての傾向でもある。古林遺跡には後述するように磨製石斧の基本形態に2種類あり、それは磨製石斧の所属する文化の差であろうと思われる。しかし地域の石器文化の個性を超えて、磨製石斧に緑色の石材が用いられるることは、SB2出土の翡翠の大珠とも関連のある現象であろう。

磨製石斧の形態は大きく分けて2種類ある。断面が紡錘形になり、共部が尖る両刃の磨製石斧と、定角式磨製石斧の2種類である。前者は古林遺跡に本来ともなう磨製石斧である。刃部は鋭くやや扁平になる。石材は緑色で硬質の凝灰岩かまれに綠泥片岩である。被熱資料が多く、被熱の場合石材の同定は難しい。また

磨製石斧の刃部は破損したあとに数回研ぎ直され、作り替えられている例が多い。基部が破損すると廃棄されるようである。このことより古林遺跡内で磨製石斧を生産しているとは考えにくい。同じ文化の中で磨製石斧を供給している遺跡の存在も考慮する必要があろう。

一方の定角式磨製石斧はきっちりとした角をとり、表面は鏡のように研磨された蛇紋岩を用いている。量も少なく、大きな破損品はない。量や使用の程度、さらに石材特性も考慮すると、定角式磨製石斧は異文化からの搬入品であろう。

② 図の説明

磨製石斧は遺構ごとに掲載した。

1：定角式磨製石斧。蛇紋岩。研磨がゆきとどき、鏡面のような表面を呈す。北陸地域からの搬入品の可能性がある。

2：刃部再生の磨製石斧。大形の磨製石斧の刃部が斜めに折れ、その折れ面を再度磨いて刃部にしている。緑色硬質凝灰岩。

3：完形の磨製石斧。被熱資料で全体に赤化している。

4：磨製石斧の断片。大きな力によって磨製石斧が破壊されたときの断片で、主要剥離面には打点もバルブも残っていない。被熱資料のため石材は不明。

5：縁泥片岩。左側邊に折れ面を残しており、その折れ面も磨かれている。再生されてリサイズされた可能性がある。

6：刃部が折れた後に、基部と先端に丁寧に敲打痕で加工され、石槌のような形態にされている。緑色硬質凝灰岩。

7：小形磨製石斧。本末の刃部は折れにより破損。その後に刃部は敲打により刀漬しされている。基部が鏡く研磨されていて、刃部をなっている。本来は小形の磨製石斧が、刃部折損のため、基部を新たに刃部にして再生されたと思われる。緑色硬質凝灰岩。なおこの磨製石斧は上坑出土の327の磨製石斧と製作技法、石材ともに全く同じである。

8：刃部破損の磨製石斧。被熱資料。

9：基部破損の磨製石斧を、さらに複に転用している資料。上面の折れ面はそのまま敲打痕が残る。刃部は上部からの衝撃により、その事故剥離と潰れ痕が観察できる。

10：磨製石斧の刃部。被熱資料。

11：小形磨製石斧。緑色硬質凝灰岩。刃部は破損している。

12：大形の磨製石斧の破損後、複に転用している資料。上面の折れ面に叩き痕、刃部に衝撃剥離と潰れ痕が観察できる。硬質緑色凝灰岩。

13：大形磨製石斧の基部欠損品。

14：刃部破損の磨製石斧。24の磨製石斧と石材、形態ともに同じ。

15：完形の磨製石斧。刃部はその刃先角から再生された可能性をもつ。基部は一旦折れているが、器体に充分な大きさを残していたためか、折れ面に敲打で加工をして基部も再生している。

16：断面が鉛錐形の両刃磨製石斧。緑色硬質凝灰岩。

17：大形磨製石斧の基部欠損品。刃部は比較的急斜で、再生された可能性がある。被熱資料。

18：磨製石斧の基部破損品。刃部がかなり急斜であり、大きな刃部破損の事故からさらに再生された可能性

のある資料。

- 19：刃部が破損している磨製石斧。被熱により赤化している。3と同じ石器。
- 20：磨製石斧頭部。図示していないが右側辺に被熱によるススが付着。おそらく緑色硬質凝灰岩。
- 21：磨製石斧頭部。上部から衝撃剝離痕、胸部以下はそれによる同時割れの折れ。緑色硬質凝灰岩。
- 22：磨製石斧の断片。接合はしないが明らかに同一個体。刃先が先端と基部に作られており、壊れた後も数回磨き直されて再生されている。緑泥片岩。
- 23：再生された磨製石斧の断片。大形の磨製石斧が半分に破損したのち、その割れ口を敲打によって整形している。さらに折れ面を研磨して刃部に再生し（図の下面）、そこが衝撃剝離で破損している。
- 24：扁平で锐い刃部の磨製石斧。側辺に敲打痕が良く残る。素材はおそらく剝片。緑色硬質凝灰岩。
- 25：定角式磨製石斧。きわめて良質の蛇紋岩。翡翠に近い。表面は鏡面のような光沢。D 9 G出土。
- 26：磨製石斧刃部。扁平で大形の磨製石斧。緑色硬質凝灰岩。
- 27：定角式磨製石斧刃部。緑褐色の泥岩。よく研磨されている。

(4) 石製品（珠類とその工具）

- 28：回転穿孔痕をもつドリル。被熱資料のため石材の同定は難しいが、おそらく磨製石斧と同じ硬質緑色凝灰岩。刃部には明瞭に回転穿孔痕が残り、先端はかなり磨滅している。SB2出土。
- 29：緑色の玉錐の白玉。2cm・2cmの円形。鏡面のような滑らかな表面をもつ。28のドリルと穿孔痕がかなりの一致をみるSB16出土。
- 30：緑色のヒスイの大珠？、岩笛？。長さ7.5cm、幅5cmの大形優品。下面に穿孔されたかなり深い穴が開いている。穴の断面はハリマコで圓化した結果穴の底は平らであった。穿孔痕は滑らかであり、硬い工具が予想される。岩笛として実用可能か、実験を試みた。その結果図の裏面の左側に唇をあてて孔に強く息を吹き込むと、ピーッという锐い警笛音ができることがわかった。音はでるもの、この遺物が何物かはまだ今後の課題である。SB 2出土。

4 まとめ

古林第4遺跡の石器を分類し、その製作技法を明らかにする記述を行ってきた。ここで簡単に古林第4遺跡の石器製作技法を振り返りながら、その石器の語る問題点を以下に記述することにしよう。

まず古林第4遺跡内で主に残されされた遺物に、石錐・石錐・打製石斧類・磨製石斧類・凹石・石皿がある。

これらの石器類には製作技法で特徴がみられた。

石錐は2種類の製作技法がある。石錐の製作技法は1種類である。石錐や石錐の素材となる岩石は黒曜石にはば限定され、原石が持ち込まれて遺跡内で製作されている。

打製石斧類は2種類の製作技法があり、形態が多様である。2種類の製作技法と形態の規則性を明らかにすることが今後の課題である。磨製石斧は2種類の製作技法があり、それは在地石材と蛇紋岩の遠隔地石材に対応している。凹石類が多いがその細分類はできなかった。石皿は大形品が多く、遺跡内で製作された痕跡をもつ。

第一表 遺傳別有器皿成表

機械位置	石頭	石塊	石些	不定形	R.t.	U.t.	原石	石塊	圓底	圓	圓刷	打油鑽	磨光	小形磨石頭	大型磨石頭	石地	特殊		大型計		合計	
																	圓頭	鑽頭	圓刷	圓頭	圓刷	圓頭
S B 1	2				3	1	4		3	1	1	4	19	13	3	11	7		2	34	53	IV
S B 2	1				1	2	2	1	2	2	1	2	9	18	8	4	3		2	42	65	V
S B 3	4				2	2	6	1	1	4	3	23	34	1	4	3		2	31	54	III	
S B 4	1				1				1			3	27	2	2			1		17	31	IV
S B 5												0	7			1			8	8	1	
S B 6												3	7			7			14	17	IV	
S B 7	1											9	6	1		2			9	18	IV	
S B 8	1											14	11	2		5			18	32	I	
S B 9	1											17	34	1	13	2		1	54	68	II	
S B 10												3	8	4	4	2			14	17	IV	
S B 11												0	2		1	1	1	1	5	5	IV	
S B 12	1	1			1	1	1	1	1	1	1	17	9		1			10	27	I		
S B 13	1				2		2	1	1	1	1	3	7	8	3	6	1		18	25	IV	
S B 14	3				1	3		2				3	12	13	3	1			17	29	IV	
S B 15												0				4			4	4	II	
S B 16	5	1			4	3	10	2	3	16	7	51	84	7	5	4		2	102	153	II	
S B 17												1	2	3	1	3			4	4	VI	
S B 18												0	2		2			1	3	3	IV	
S B 19	2				2	3	1	2				5	15	30	1	2		2	35	50	IV	
1 土塊												0	1		1				1	1	IV	
5 土塊												0	1		1				1	1	IV	
7 土塊												0	1		1				2	2	IV	
22 土塊												0	1		1				1	1	IV	
39 土塊												0	1		1				1	1	IV	
58 土塊												0	1		1				1	1	IV	
59 土塊												0	1		1				2	2	IV	
65 土塊												0	2		1				1	1	IV	
72 土塊												0	2		1				2	2	IV	
78 土塊												0	1		1				2	2	IV	
88 土塊												0	1		1				1	1	IV	
96 土塊												0	2		1				2	2	IV	
97 土塊												0	1		1				1	1	IV	
103 土塊												3	1	4	2	1			3	7	IV	
115 土塊												0	1		1				1	1	IV	
116 土塊												0	1		1				2	2	IV	
125 土塊												0	1		1				1	1	IV	
127 土塊												0	1		1				2	2	IV	
139 土塊												0	1		1				1	1	IV	
145 土塊												0	1		1				1	1	IV	
147 土塊												1	1		1				1	1	IV	
149 土塊												0	1		1				1	1	IV	
157 土塊												0	1		1				1	1	IV	
61 土塊												0	1		1				2	2	IV	
162 土塊												0	1		1				3	3	IV	
164 土塊												0	1		1				2	2	IV	

検出位置	石塙	石鏡	石鏡	石鏡	原石	石核	圓核	楕	圓劍	小形計	打斧頭	磨斧頭	小形磨石頭	大型磨石頭	石標	特殊	大形計	合計
65土塙										0	3						4	IV
67土塙										0	3						3	IV
169土塙										0	1						1	1
170土塙										0	2						2	中朝米
71土塙										0	2						2	V
182土塙										0	1						1	IV
A - 5 Gr.	1									0	1						1	
B - 1 Gr.	1									1	1						1	
B - 2 Gr.										1	1						0	1
B - 4 Gr.	2									1	1						1	
B - 5 Gr.										1	1						1	
C - 6 Gr.										0	1						1	
B - 7 Gr.										0	1						1	
B - 8 Gr.										2	2						4	
C - 1 Gr.										0	1						10	
C - 2 Gr.										0	1						1	
C - 3 Gr.	1									0	1						1	
C - 5 Gr.										1	1						0	
C - 6 Gr.										0	5	3	4				12	
C - 7 Gr.										1	2	4					12	
C - 8 Gr.										1	1						0	4
D - 3 Gr.										0	1						0	1
D - 4 Gr.										0	1						1	1
D - 5 Gr.										0	1						1	1
D - 6 Gr.										0	1						1	1
D - 8 Gr.										0	1						1	1
D - 9 Gr.										0	2						3	3
E - 2 Gr.										0	1	1	1				2	
E - 3 Gr.										1	1	6	1	1			2	8
E - 9 Gr.										2	1	1	5	8	1		9	14
F - 2 Gr.										0	2						2	2
F - 3 Gr.	1									1	1	1	1				2	3
F - 7 Gr.										1	1						1	2
F - 9 Gr.										0	1						1	1
G - 3 Gr.										0	1						1	1
G - 8 Gr.	1									1	1						0	0
H - 7 Gr.										1	1	2					2	
H - 8 Gr.	1									0	1	1					2	2
1 漢										0	3						3	
2 漢										0	3						3	
3 漢										0	4						4	
5 漢										2	4	6	1	1			2	
6 漢										1	1	2					0	
7 漢										0	1	1	1				1	
8 漢										0	3						3	
一 漢	1									1	1	2	5				2	
地點不明										2	5						0	5
合計	26	7	1	24	29	42	4	27	11	47	41	259	409	30	115	39	1	7
																	601	850

第2表 小形石器属性表(1)

回収No	横出遺構	器種	石材	形態	要素	材/調整	備考
1	S B16	ナイフ					
2	S B3	U.f.					
1	S B1	石鏃	黒曜石	無茎凹基			肉厚・尖端欠損
2	S B1	石鏃	黒曜石	両面調査			尖端右器・肉厚
3	S B2	石鏃	黒曜石	無茎凹基			
4	S B3	石鏃	黒曜石	無茎凹基			
5	S B3	石鏃	黒曜石	無茎凹基	細身・抉り深め		大型鏃・右側鋸齒線
6	S B3	石鏃	黒曜石	無茎凹基	抉り深め		
7	S B3	石鏃	黒曜石	無茎凹基			右脚部欠損
8	S B4	石鏃	黒曜石	無茎凹基			右脚部欠損
9	S B9	石鏃	黒曜石	無茎凹基	細身		両脚部欠損
10	S B12	石鏃	チャート	無茎凹基			未製品?
11	S B13	石鏃	黒曜石	無茎凹基			
12	S B14 P23	石鏃	チャート	無茎凹基	細身・抉り浅め		
13	S B14	石鏃	真岩				左脚部欠損
14	S B14	石鏃	黒曜石	無茎凹基	幅広・抉り深め		尖端両側削
15	S B16	石鏃	黒曜石	無茎凹基			両脚部欠損
16	S B16	石鏃	黒曜石	無茎凹基			未製品?
17	S B16	石鏃	黒曜石	無茎凹基	抉り深め		左脚部欠損
18	S B16	石鏃	黒曜石	無茎凹基	細身・抉り深め		鋸齒線・左脚部欠損
19	S B16	石鏃	黒曜石	無茎凹基	細身・抉り深め		鋸齒線・右脚部欠損
20	S B19	石鏃	黒曜石	無茎凹基	細身・抉り深め		左脚部欠損
21	S B19	石鏃	黒曜石	無茎凹基	抉り深め		
22	C - 3 Gr	石鏃	黒曜石	無茎凹基	抉り深め		尖端・両脚部欠損
23	B - 4 Gr	石鏃	黒曜石	無茎凹基	抉り深め		
24	A - 5 Gr	石鏃	黒曜石	無茎凹基	抉り深め		左右脚長違い
25	B - 1 Gr	石鏃	黒曜石	無茎凹基	抉り深め		
26	B - 4 Gr	石鏃	黒曜石	無茎凹基	細身・抉り浅め		右脚部欠損
27	S B7	石錐	黒曜石				
28	S B8	石錐	黒曜石	尖端作出			
29	S B12	石錐	黒曜石	棒状	側刃調整削片		
30	F - 3 Gr	石錐	黒曜石	尖端作出			
31	G - 8 Gr	石錐	黒曜石	尖端作出			
32	S B16	石錐	黒曜石	棒状			
33	一括	石錐	黒曜石	つまみ			
61	F - 2 Gr	石匙	チャート	横型			
34	S B1	不定形石器	黒曜石	両面調整			破片
35	S B1	不定形石器	黒曜石	両面調査			破片・石鎚未製品?
62	S B1	不定形石器	真岩	スクレイバー?			
S B2 P 4	不定形石器	真岩	スクレイバー?				時期不明
64	S B3	不定形石器	真岩	削器	縦長削片		
S B3	不定形石器	黒曜石	側縫溝削				
37	S B4 P 7	不定形石器	チャート	片縫調整	両刃		破片
S B6	不定形石器	黒曜石	石核再加工	石核			
38	S B7	不定形石器	黒曜石	スクレイバー?	両極削片		
S B9	不定形石器	真岩	スクレイバー				
S B8	不定形石器	黒曜石	柱状	小形塊(板状?) 素材			時期不明
S B12	不定形石器	黒曜石	両面調査	つまみ? 作り出し			スクレイバー状
40	S B12	不定形石器	黒曜石	無縫調整	ウーチールバッセ		打点部を切断整形
S B12	不定形石器	安山岩	両縫調査	片刃			
S B14	不定形石器	黒曜石	スクレイバー?	楔形石器			
S B16	不定形石器	チャート		大形削片			頭部両縫に浅い抉り

第3表 小形石器属性表(2)

回数	検出機	器種	石材	形態	業材/調整	備考
44	S B16	不定形石器	黒曜石	片縁全刃	両刃	破片
45	S B16	不定形石器	黒曜石	片縁調整	両刃	破片・側面鋸波形
42	S B16	不定形石器	黒曜石	周縁調整	楔形石器に急斜度	
46	S B19	不定形石器	黒曜石	両刃調整	楔形石器	
51	S B19 P 3	不定形石器	黒曜石	周縁調整	片面調整	
43	E - 2Gr	不定形石器	黒曜石	周縁調整	急斜度+スクレイバー	
41	E - 2Gr	不定形石器	黒曜石	周縁調整	綫長状制片下部	片面加工+ノッチ状成形
5清		不定形石器	黒曜石	石核再加工	石核	
47	S B 1	R.f.	黒曜石		打面・打点除去	
48	S B 3	R.f.	黒曜石	鋸齒状縁	片刃	
65	S B 3	R.f.	真岩	歯齒状		打面調整と打面除去重複
49	S B 8	R.f.	黒曜石		板状素材・片刃	
52	S B 9	R.f.	黒曜石	急斜度調整	楔形石器	
53	S B 9	R.f.	珪質頁岩	平凹剥離	片刃	
54	S B 9 P 25	R.f.	黒曜石	片縁調整	肉厚剝片の打点除去	スクレイバー状刃部
S B 9	R.f.	黒曜石	急斜度調整			
S B 9	R.f.	黒曜石	平坦剥離			
S B 9	R.f.	真岩				
S B 10	R.f.?	黒曜石	端刃		ヒンジ剥片にワット状剥離	時期不明
55	S B 12	R.f.	黒曜石	両面平坦剥離	内側剝片?	
S B 12	R.f.	黒曜石	片面平坦剥離		調整剝片折損品	折損部を打面に腹面
S B 12	R.f.	黒曜石	片縁調整			折れ
S B 12	R.f.	黒曜石	片面調整			
S B 14	R.f.	黒曜石	平坦剥離		ウートールバッセ	
S B 14	R.f.	黒曜石	片面平坦剥離		腹面に調整	
S B 14 P 12	R.f.	チャート	バブル除去		平凹剥離	
S B 16	R.f.	黒曜石	バブル除去			
S B 16	R.f.	黒曜石	急斜度調整			
S B 16	R.f.	黒曜石	側縁調整			
56	S B 19	R.f.	黒曜石	周縁調整	急斜度調整	
57	S B 19 P 2	R.f.	黒曜石	周縁調整	綫長状剝片	打面部形態不明
S B 19	R.f.	黒曜石	端刃・右側刃			
B - 4Gr	R.f.	黒曜石	両縁調整		打点堅浅いノッチ状	
59	B - 8Gr	R.f.	黒曜石	端部片面調整	ヒンジエンドにスクレイバー	
58	C - 7Gr	R.f.	黒曜石	両縁平坦調整	ウートールバッセ腹面に調整	尖頭状石器未製品?
C - 7Gr	R.f.	黒曜石	片面平坦剥離			
E - 3Gr	R.f.	黒曜石	片面急斜度調整			
G - 3Gr	R.f.	黒曜石	片面平坦剥離			
S B 1	U.f.	黒曜石			バブル除去剝片	
S B 1	U.f.	黒曜石			切断調整剝片	
S B 1	U.f.	黒曜石				
S B 1 P 19	U.f.	黒曜石				
S B 2	U.f.	黒曜石			内側剝片	
S B 2	U.f.	黒曜石	ノッチ状		礫皮付き剝片	
S B 3	U.f.	黒曜石	ノッチ状		綫長剝片	
S B 3	U.f.	黒曜石	端刃部		礫皮付き両極剝片	
S B 3	U.f.	黒曜石	側刃部			大きめの微細剝離痕
S B 3	U.f.	黒曜石	側刃部			
S B 3 P 86	U.f.	黒曜石				
S B 6	U.f.	黒曜石				折れ
S B 7	U.f.	黒曜石	打点脇・端部		ウートールバッセ	
S B 7	U.f.	黒曜石	両縁		綫長状剝片	

第4表 小形石器属性表(3)

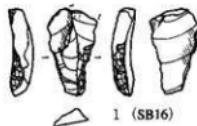
品目No	検出造構	器種	石材	形態	素材/調整	備考
S B 8	炉	黒曜石	打点脇・端部			衝撃剥離
S B 9	U.f.	黒曜石	全周	横長剥片		折れ
S B 9	U.f.	黒曜石	側縁		楔形石器(柱状)	
S B 9	U.f.	黒曜石	側縁		楔形石器	
S B 9	U.f.?	黒曜石				時期不明
S B 10	U.C.	黒曜石	側縁		小形軸鍛柔材の右枝	
S B 12	U.f.	黒曜石	両縁・端辺面	ウート・ルバッセ		
S B 12	U.f.	黒曜石	側辺	ウート・ルバッセ		折れ
S B 12	U.f.	黒曜石	側辺		ファシット状の剥離	
S B 12 P 3	U.f.	黒曜石	側辺	ウート・ルバッセ		
S B 13	U.f.	黒曜石	側辺		両端剥片	
S B 13	U.f.	黒曜石	片縁		右枝調整(接付)剥片	
S B 16	U.f.	黒曜石	尖端部		分割剥片	
S B 16	U.f.	黒曜石	全縁			折れ
S B 16	U.f.	黒曜石	両縁		両端剥片	
S B 16	U.f.	黒曜石	片縁・端辺			
S B 16	U.f.	黒曜石	両縁			
S B 16	U.f.	黒曜石	片縁・端辺			
S B 16	U.f.	黒曜石	内縁		両端剥片	
S B 16	U.f.	黒曜石	両縁		緩長状剥片	
S B 16	U.f.	貞岩	端辺			
S B 16 P 1	U.f.	黒曜石	片縁・端辺			
C - 8 Gr	U.f.	黒曜石	片縁・ノッチ状			
E - 2 Gr	U.f.	黒曜石	側縁		ウート・ルバッセ	
E - 2 Gr	U.f.	黒曜石	両縁			
E - 2 Gr	U.f.	黒曜石	片縁			
一括	U.f.	黒曜石	片縁両面			
S B 2	原石	黒曜石	裸皮付			
S B 3 P 3	原石	黒曜石				
S B 19	原石	黒曜石				
-括	原石	黒曜石				
S B 1	石核	黒曜石	自然割れ面打面			
S B 1	石核	黒曜石	自然面打面			残核
S B 1	両極石核	黒曜石				柱状
S B 1 P 3	剥片石核?	黒曜石	自然面打面	打面軸位		
S B 2	石核	黒曜石	剥離面打面	打面軸位		残核
S B 2	石核	黒曜石	自然面打面	板状素材		
S B 3	両極石核	黒曜石		通常石核より転化		
S B 4	両極石核	黒曜石		打面軸位		台石側破片
S B 8	石核	黒曜石	自然面打面	剥片状転換		
S B 8	両極石核?	黒曜石	自然面打面	打面軸位		
S B 8	石核	黒曜石	甲板状打面			
S B 9	石核	黒曜石	自然面打面			
S B 9	石核	黒曜石	自然面打面	大型の縦	素材原貌をとどめる	
S B 10	石核	黒曜石	剥離面打面	打面軸位		
S B 12	石核	黒曜石	自然面打面	打面軸位		
S B 12	両極石核	黒曜石				
S B 13	両極石核	黒曜石			碎片	
S B 14	石核	黒曜石	自然面打面	打面軸位	褐色黒曜石	
S B 14	石核	黒曜石	自然面打面	打面軸位	柱状	
S B 16	両極石核	黒曜石	自然面打面	通常石核より転化	大型	
S B 16	両極石核	黒曜石	自然面打面			
S B 16	石核	黒曜石	自然面打面	打面軸位	柱状	

第5表 小形石器属性表(4)

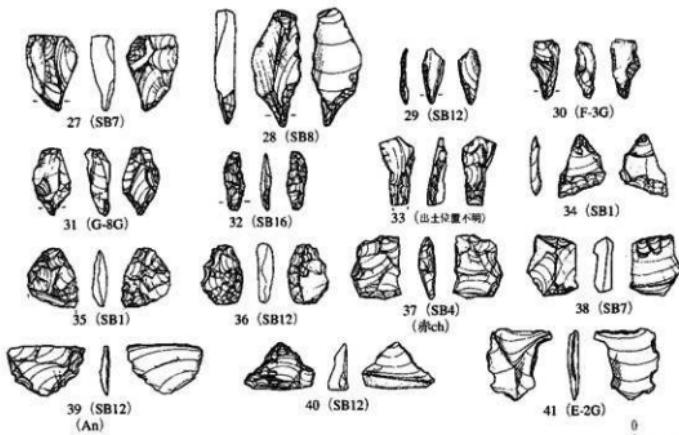
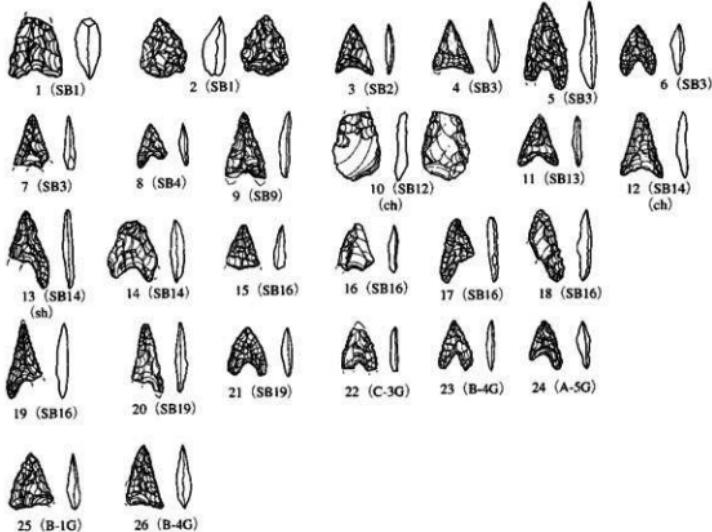
固源名	検出遺構	器種	石材	形態	業材/調整	備考
S B16		剥片石核	黒曜石			
S B16		両極石核	黒曜石			
S B17		両極石核	黒曜石			
S B19		石核	黒曜石	自然面打面	打面軋位	
S B19		石核	黒曜石	自然面打面	打面軋位	両極石核に船底
162土壤		石核	黒曜石	自然面打面	打面軋位	
103土壤		石核	黒曜石	剥離面打面	打面軋位	破片(ボジ)・褐色黒曜石
103土壤		剥片石核	黒曜石	剥離面打面	打面軋位	
103土壤		石核	黒曜石			
B-4Gr		両極石核	黒曜石	自然面打面	打面軋位	打面軋位後微細削離
B-8Gr		石核	黒曜石	自然面打面	小形縫・打面軋位	素材原型をとどめる
C-5Gr		石核	黒曜石	自然面打面	小形縫	素材縫の状態
E-3Gr		石核	黒曜石	自然面打面	打面軋位	
E-3Gr		石核	黒曜石			破片(ボジ)
3溝		石核	黒曜石	自然面打面	打面軋位	
3溝		石核	黒曜石	剥離面打面	打面軋位	
S B1		両極剥片?	黒曜石			
S B1		両極剥片?	黒曜石			
S B1		両極剥片	黒曜石			
S B1		両極剥片	黒曜石			
S B1		楔形石器	黒曜石			
S B2		楔形石器	黒曜石	柱状		
S B2		楔形石器	黒曜石	柱状		
S B3		楔形石器	黒曜石			
S B3		楔形石器	黒曜石			
S B3		両極剥片	黒曜石			
S B3		両極剥片	黒曜石			
S B3		調整剥片	黒曜石			
S B3		楔形石器	黒曜石			
S B3 P 3		両極剥片	黒曜石			
S B3 P 86		楔形石器	黒曜石			
S B6		楔形石器?	黒曜石			不定形石器?
S B7		楔形石器	黒曜石			
S B7		楔形石器	黒曜石			
S B7		楔形石器	黒曜石			
S B7		楔形石器	黒曜石			
S B7 炉		楔形石器	黒曜石			碎片
S B8		楔形石器	黒曜石			
S B8		楔形石器	黒曜石			
S B8		楔形石器	黒曜石			
S B8		楔形石器	黒曜石			
S B8		楔形石器	黒曜石			
S B8		楔形石器	黒曜石			
S B8		楔形石器	黒曜石			
S B8		楔形石器	黒曜石			
S B8		両極剥片	黒曜石			
S B9		楔形石器	黒曜石			
S B9		楔形石器	黒曜石			
S B9		楔形石器	黒曜石			
S B12		楔形石器	黒曜石			
S B12		両極剥片	黒曜石			
S B13		両極剥片	黒曜石			
S B13		両極剥片	黒曜石			
S B13		両極剥片	黒曜石			
S B14		両極剥片	黒曜石			

第6表 小形石器属性表(5)

旧石器

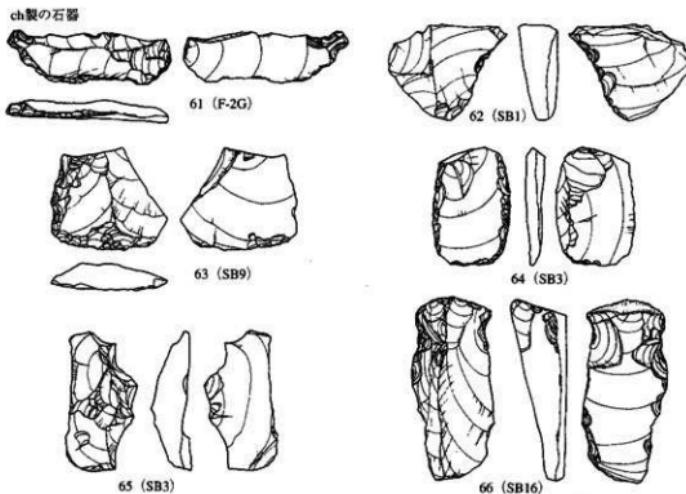
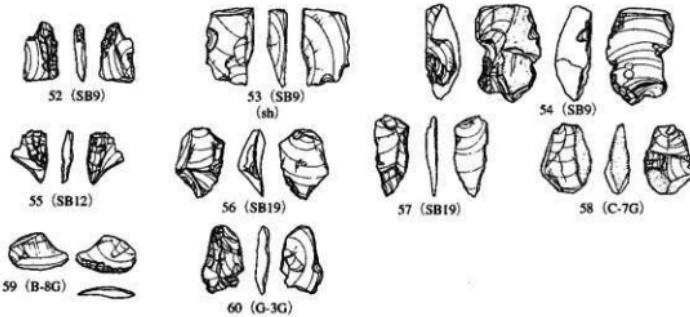
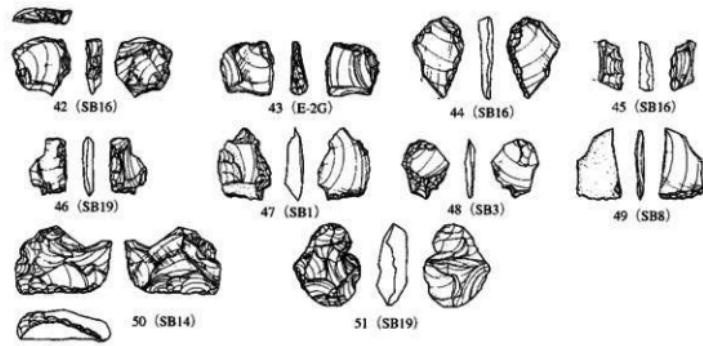


绳文



0 5 cm

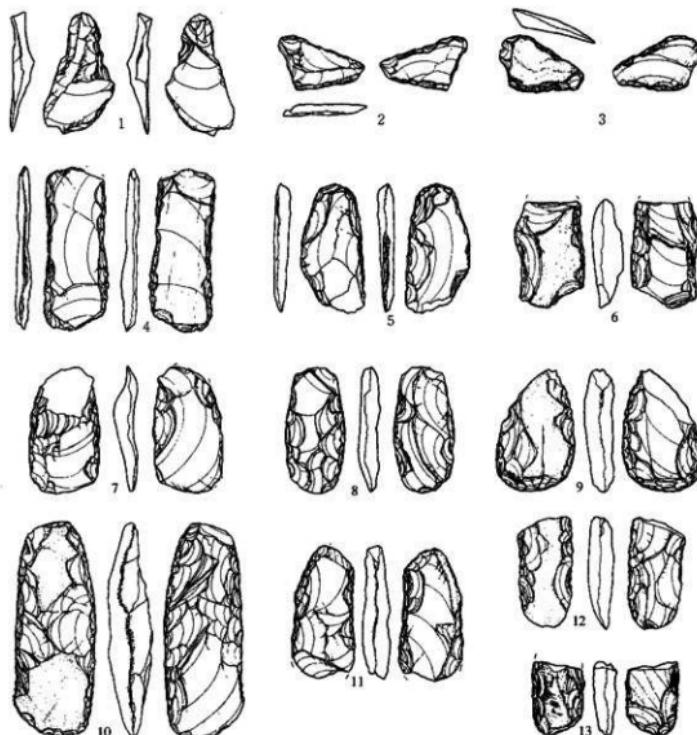
旧石器、绳文時代の小形剝片石器！



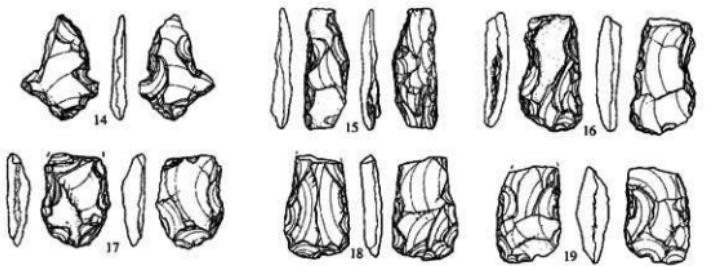
縄文時代の小形削片石器 2

0 5 cm

S B 1

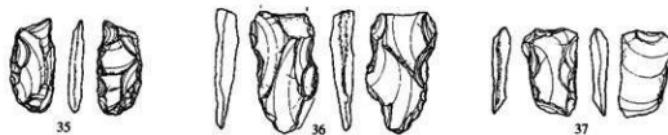
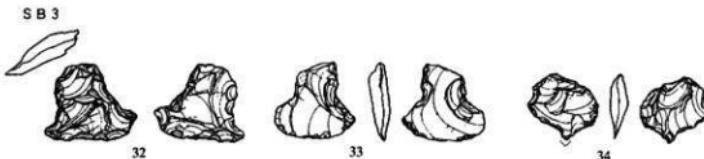
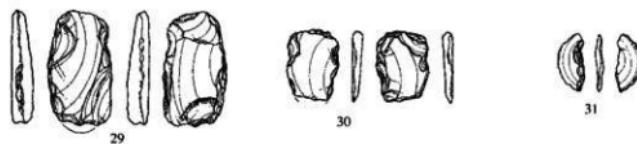
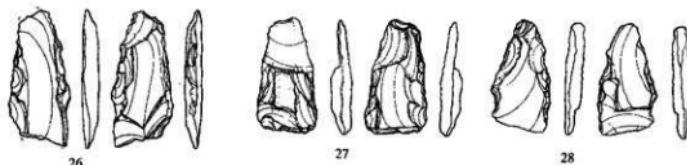
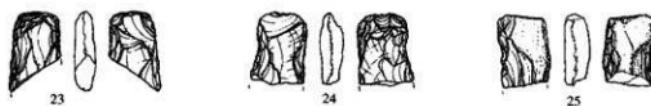
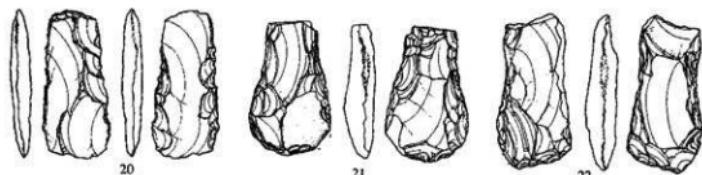


S B 2



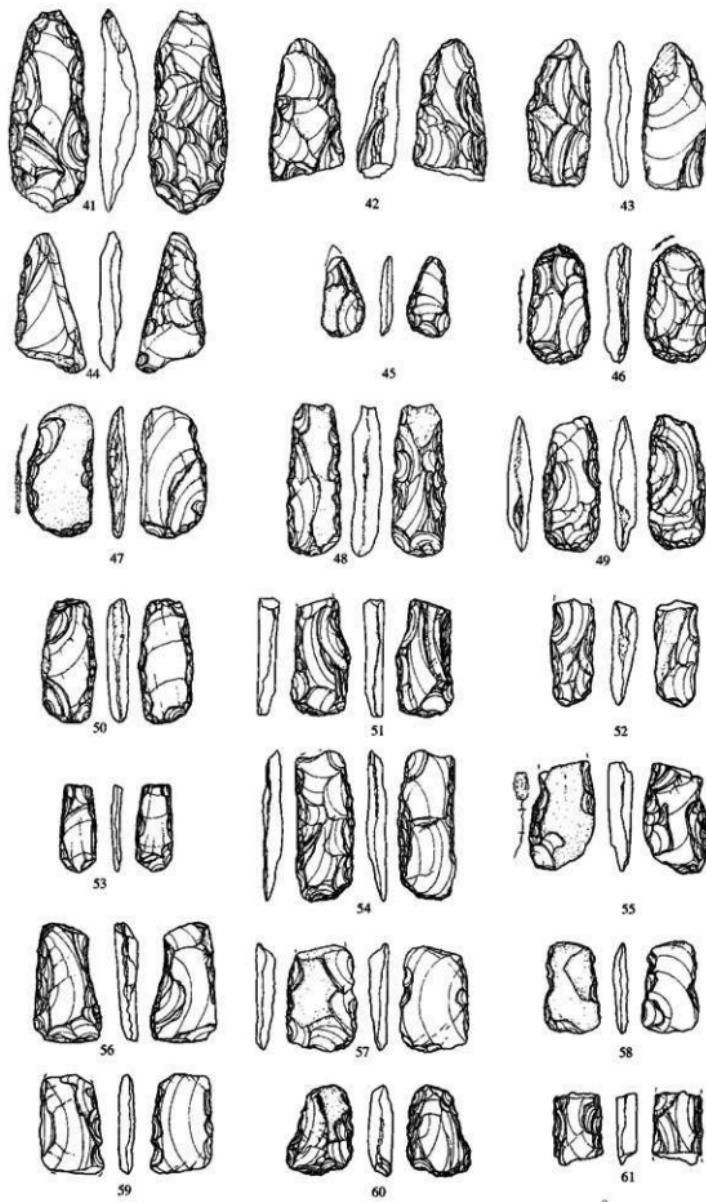
中形剥片石器 I

0 10cm

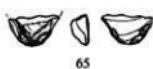


中形剥片石器 2

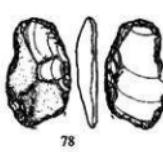
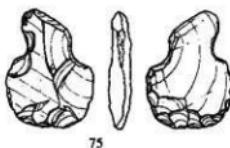
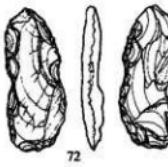
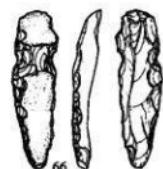
0 10cm



中形制片石器 3

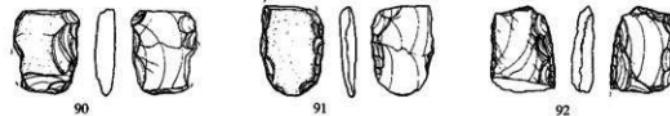
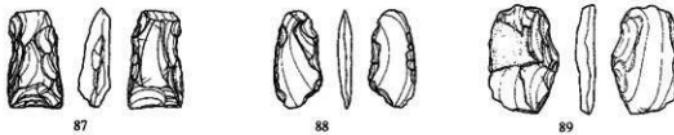
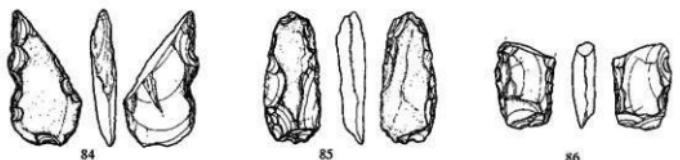
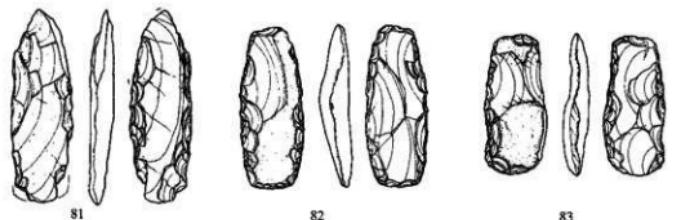


S B 4

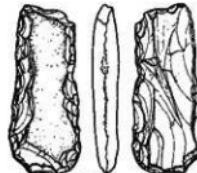
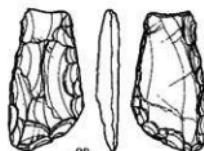
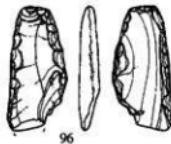
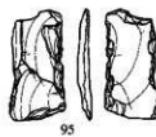
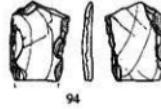


0 10cm

中形剥片石器 4



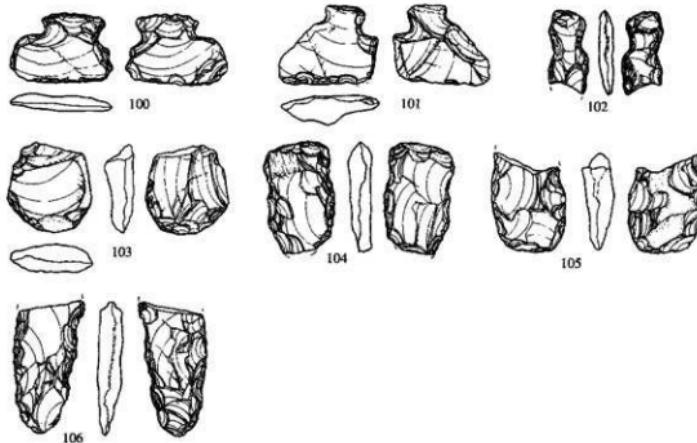
S B 5



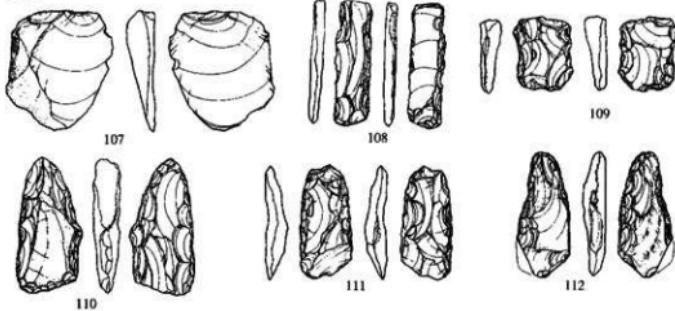
0 10cm

中形剥片石器 5

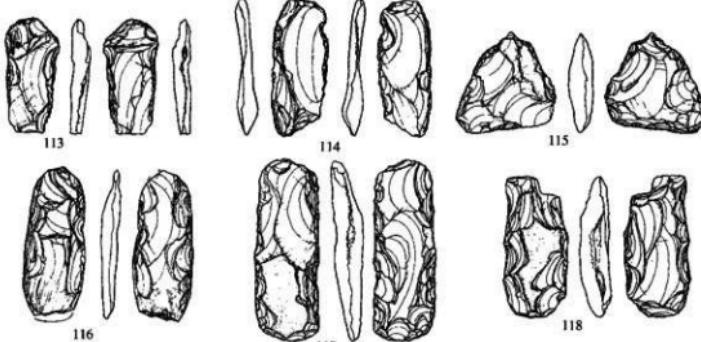
S B 6



S B 7

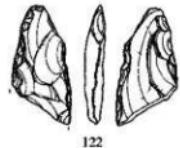
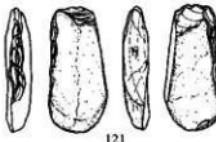
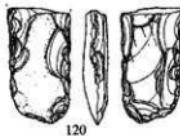
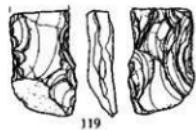


S B 8

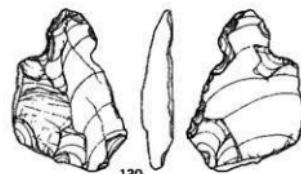
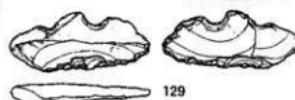
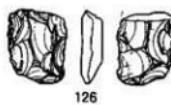
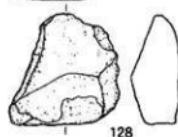
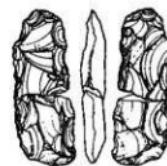
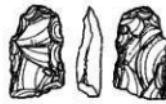


中形剥片石器 6

0 10cm

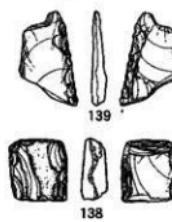
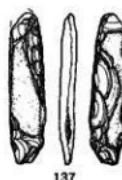
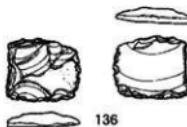
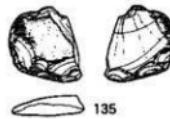
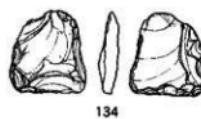
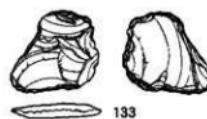


SB 9



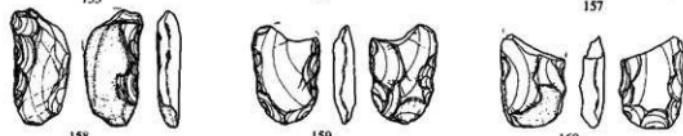
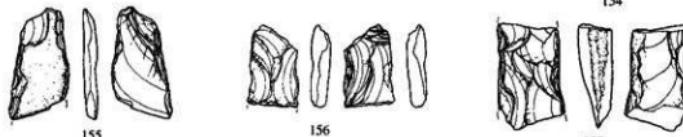
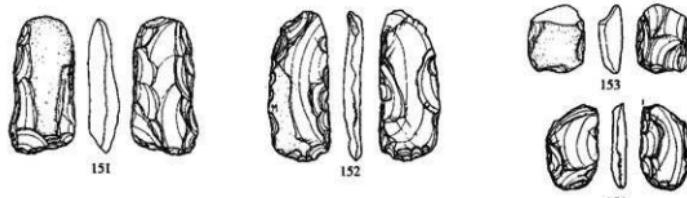
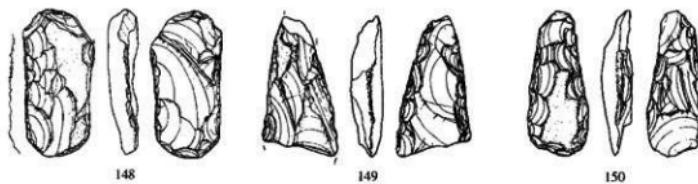
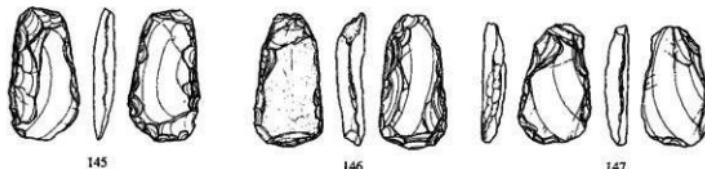
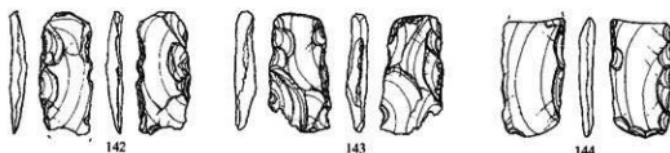
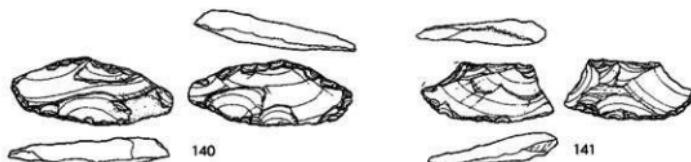
131

132



0 10cm

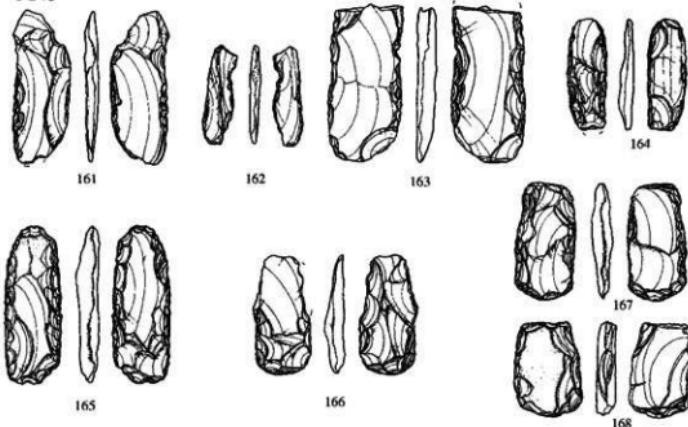
中形剥片石器 7



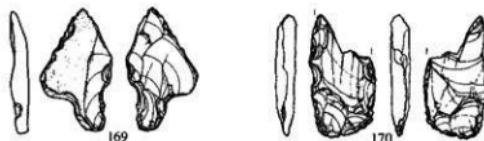
中形剥片石器 8

0 10cm

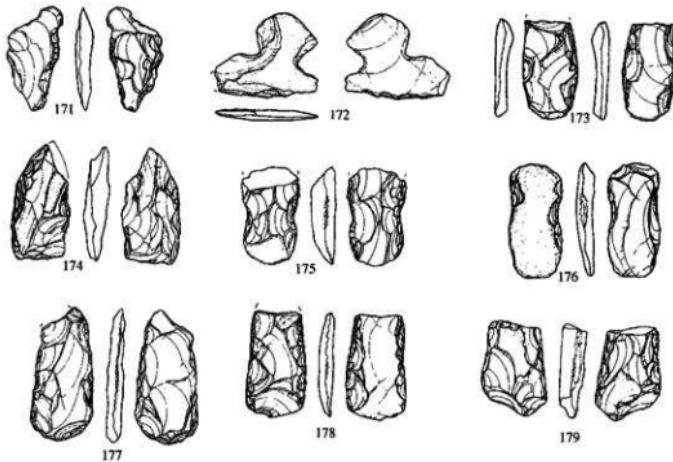
S B 10



S B 11



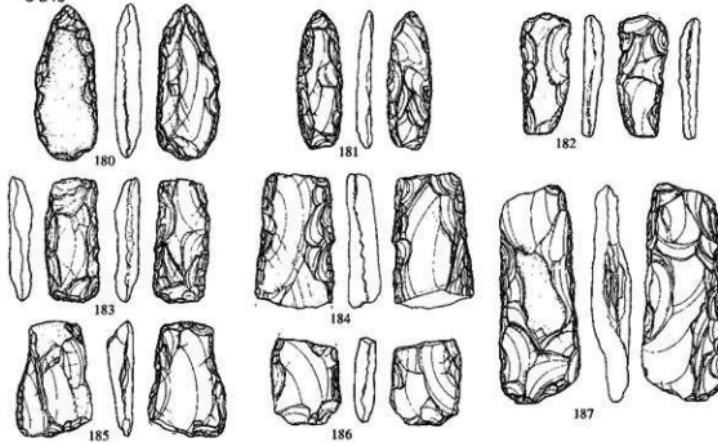
S B 12



0 10cm

中形剥片石器 9

S B 13



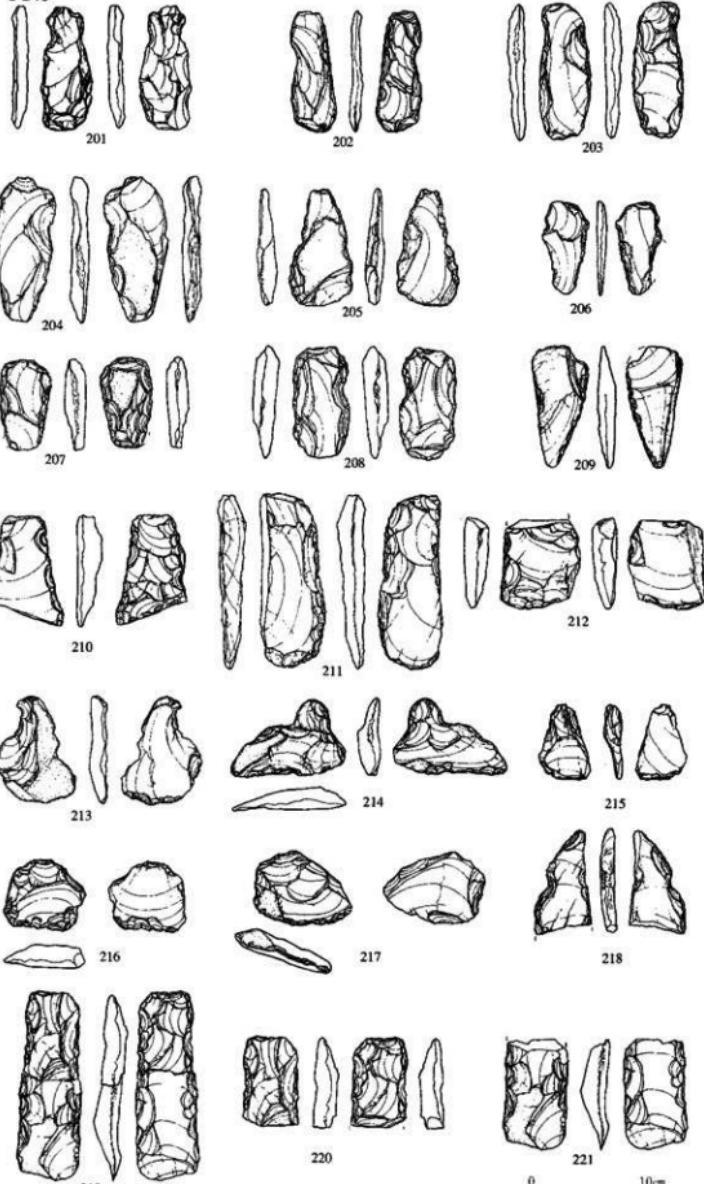
S B 14



0 10cm

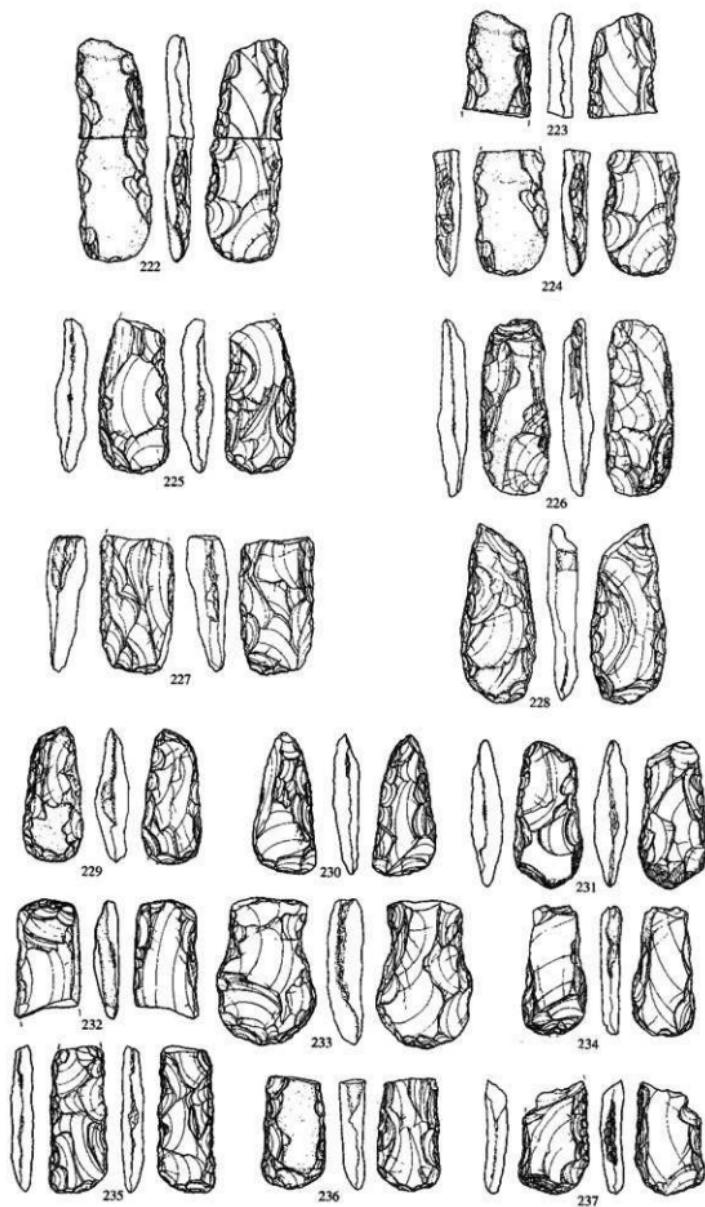
中形剥片石器10

S B 16



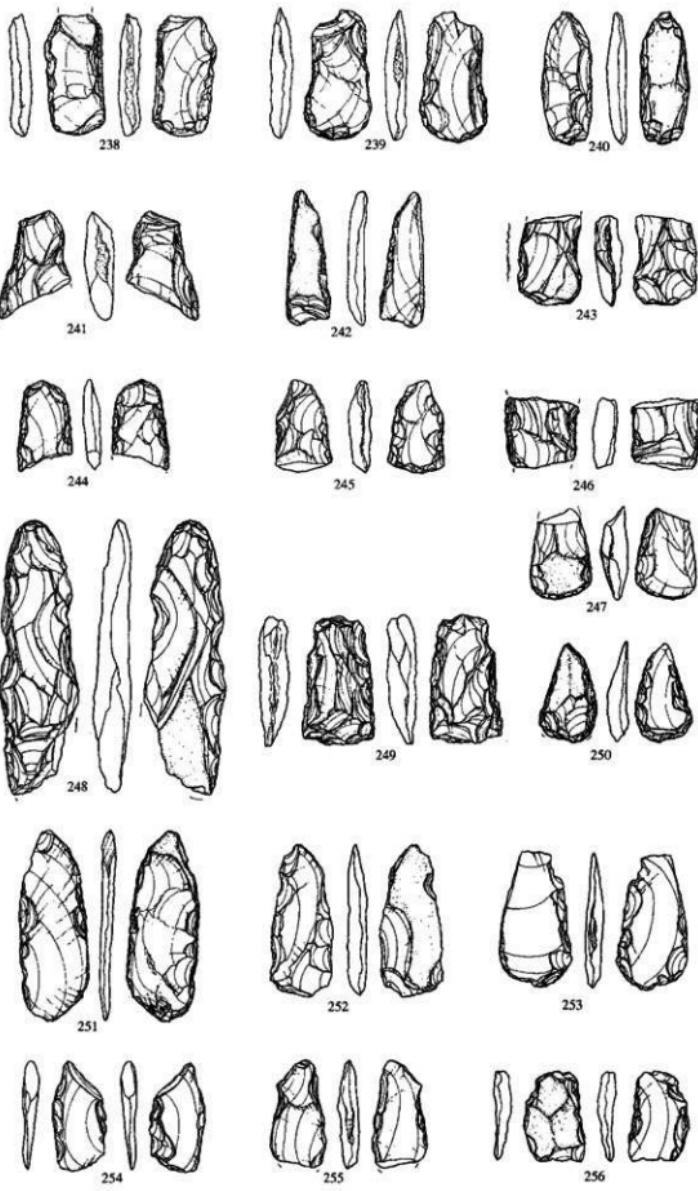
中形刮片石器II

0 10cm



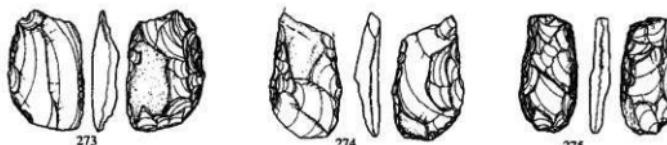
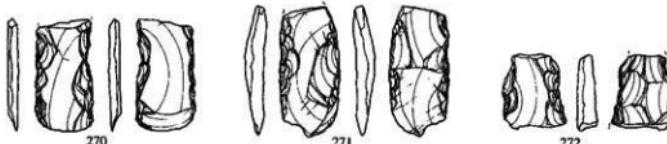
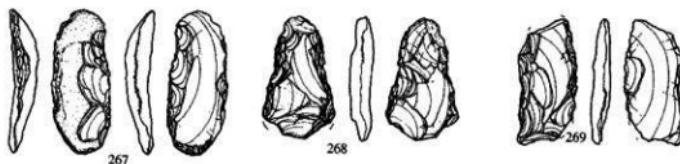
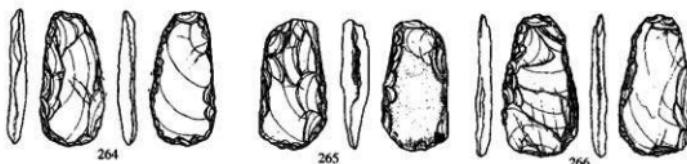
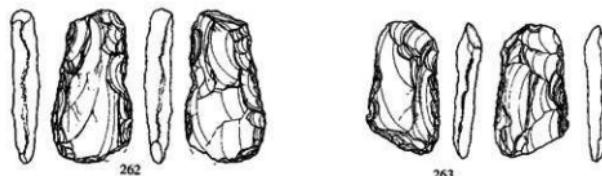
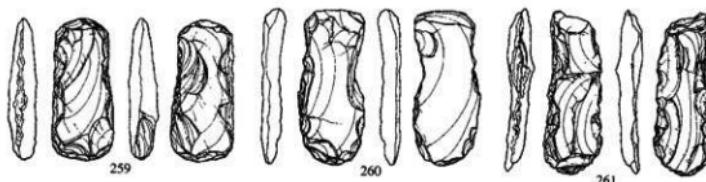
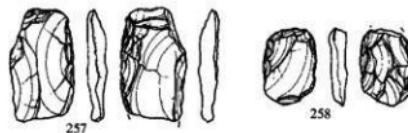
中形剥片石器 12

0 10cm



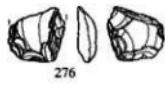
中形剥片石器 I3

0 10cm

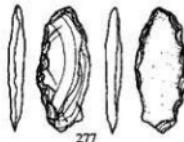


中形剥片石器 14

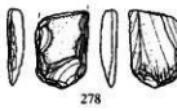
0 10cm



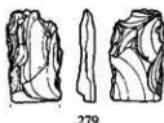
276



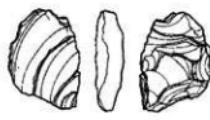
277



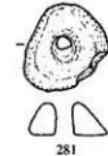
278



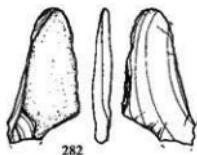
279



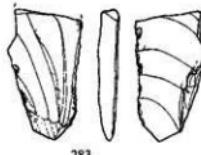
280



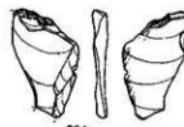
281



282



283

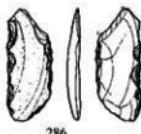


284



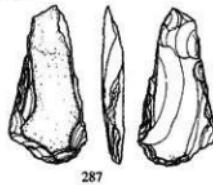
285

S B17

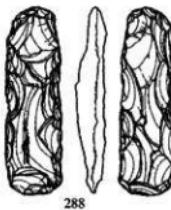


286

S B18



287

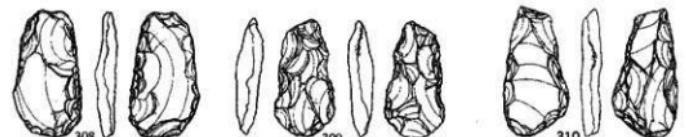
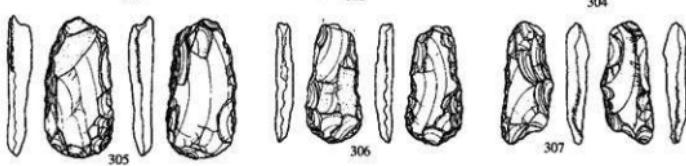
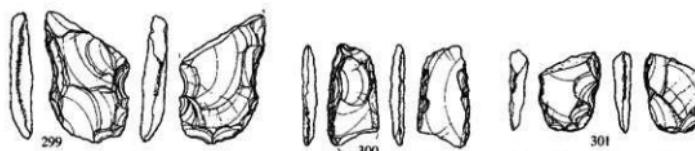
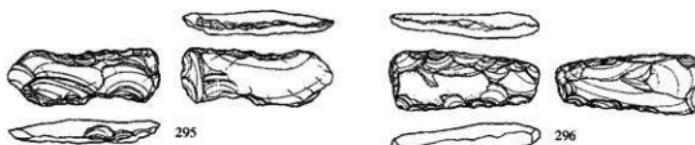
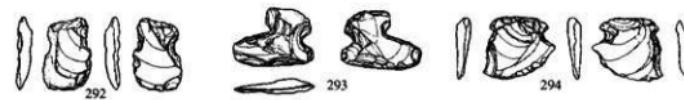
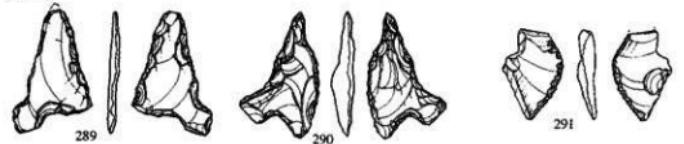


288



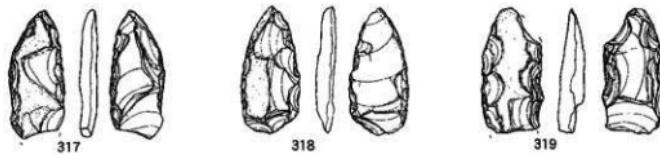
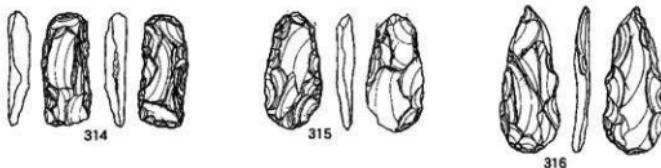
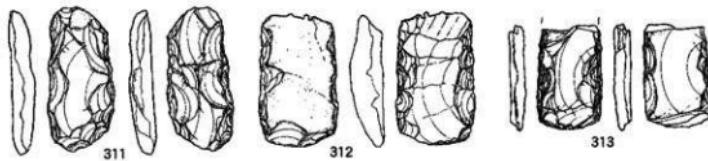
中形剥片石器 15

S B 1 9



中形剥片石器16

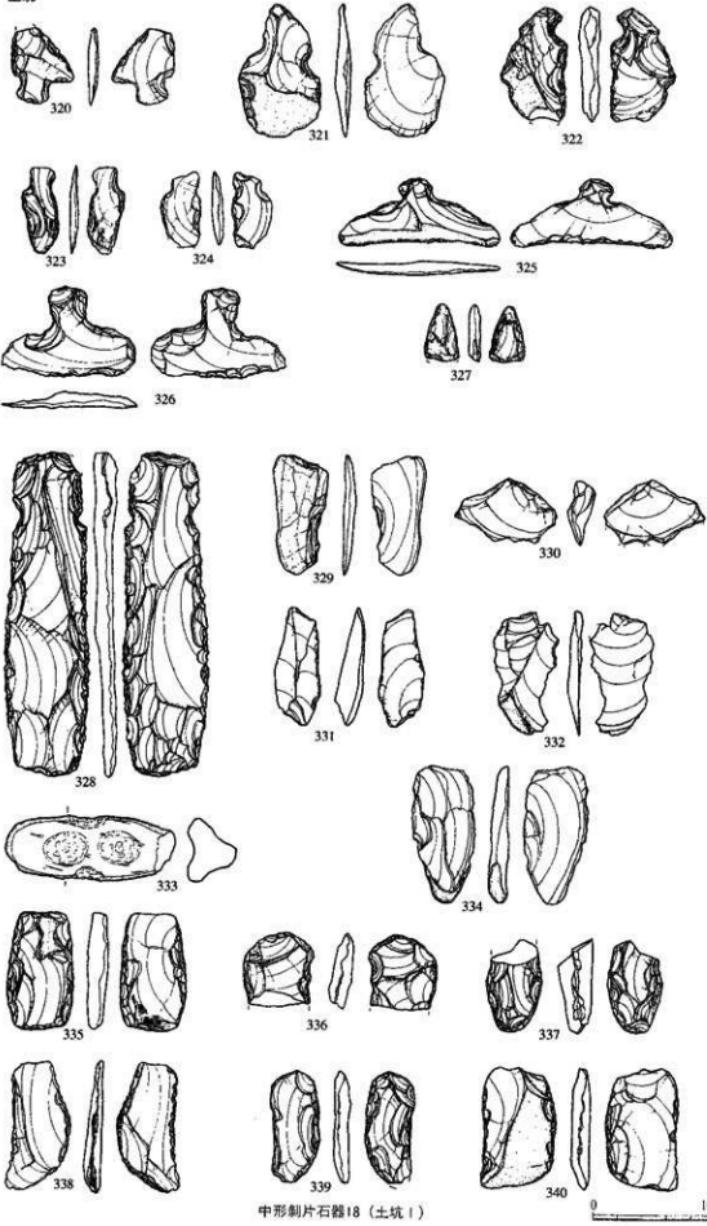




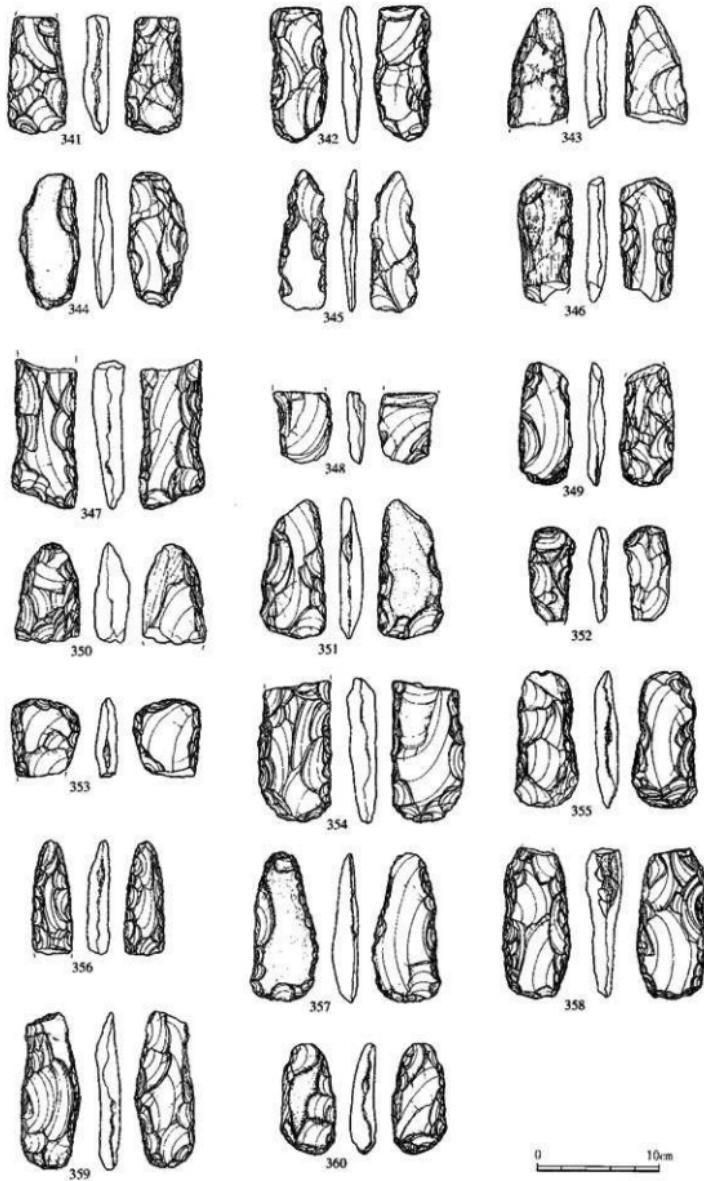
0 10cm

中形剥片石器17

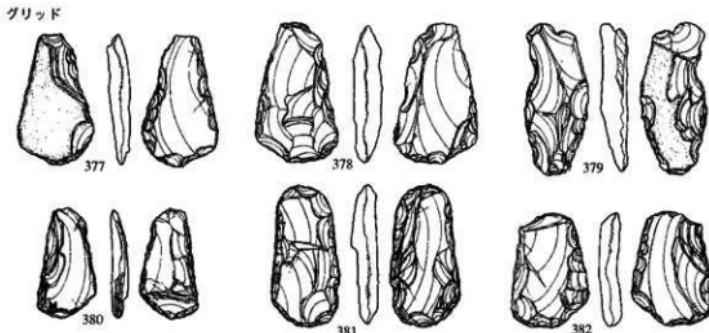
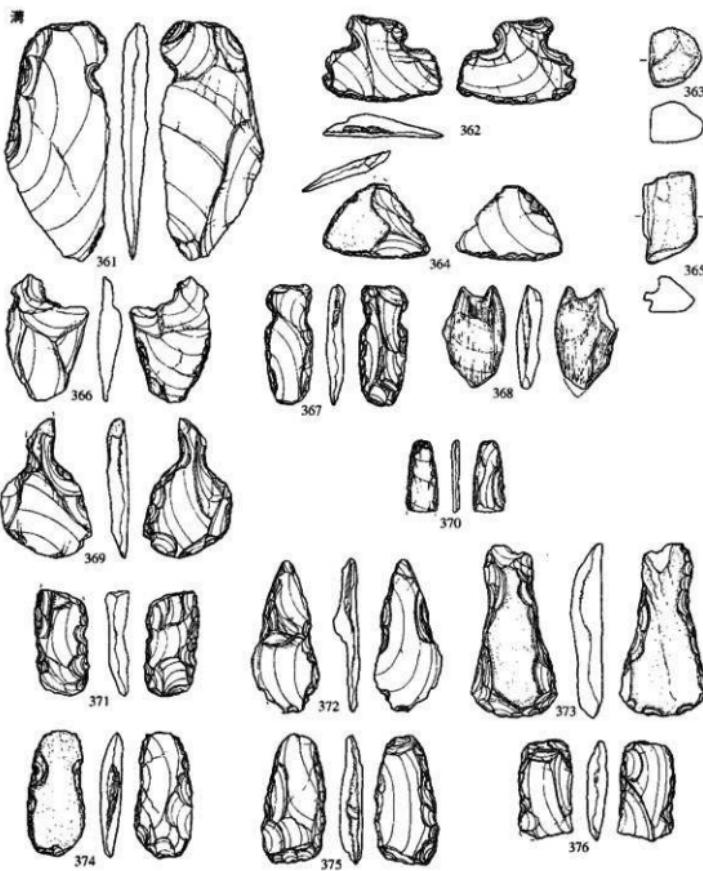
土坑



中形制片石器18(土坑1)

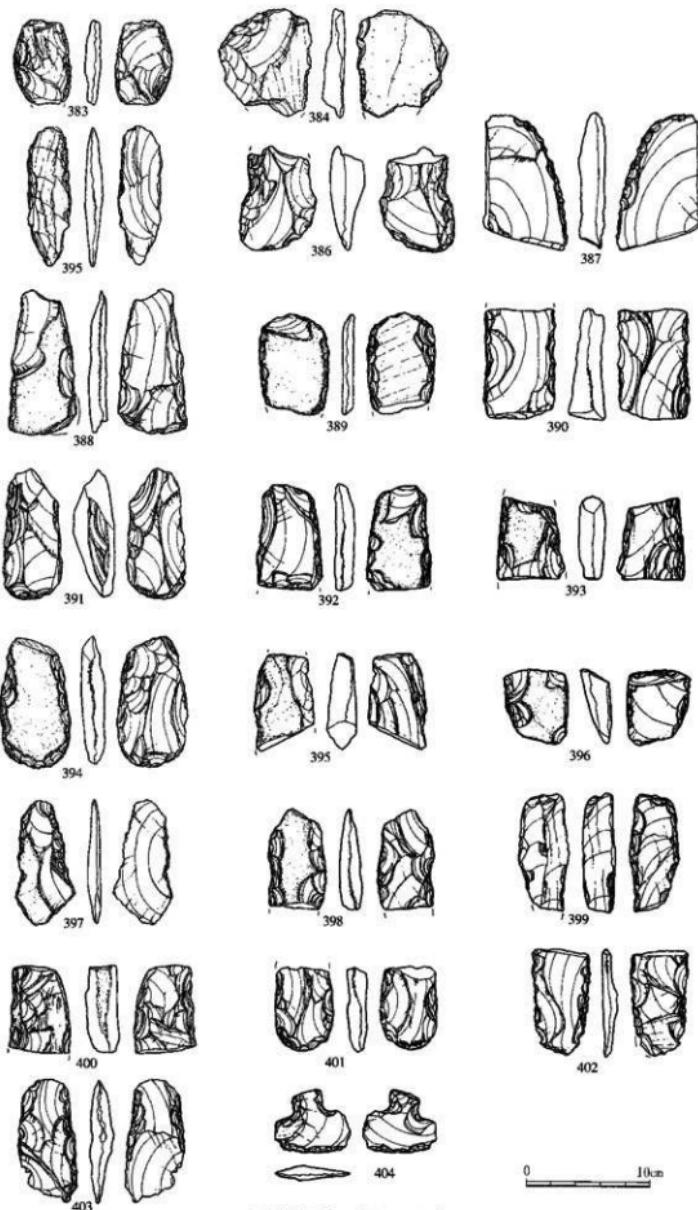


中形制片石器19（土坑2）

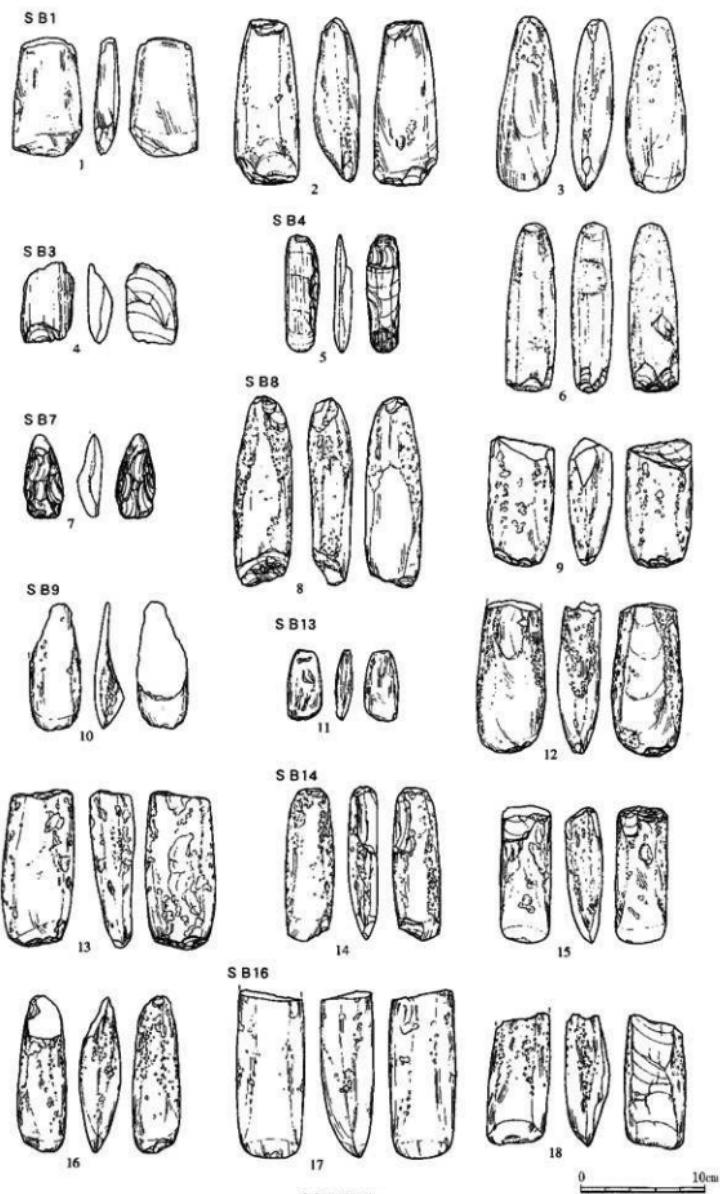


中形剥片石器20(薄、グリッド)

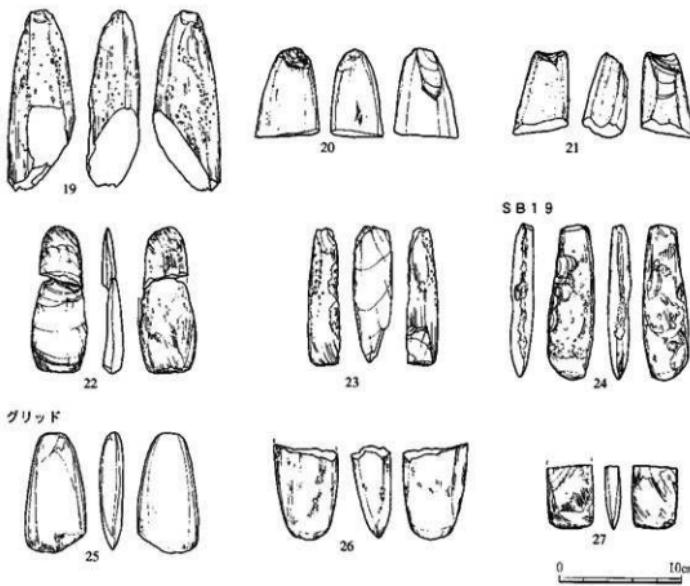
0 10cm



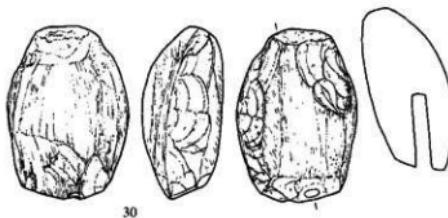
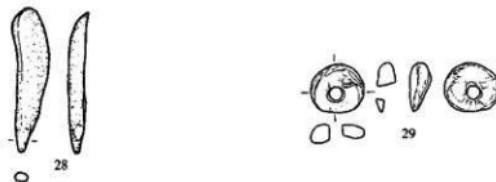
中形剥片石器21(グリッド2)



磨製石斧類 I

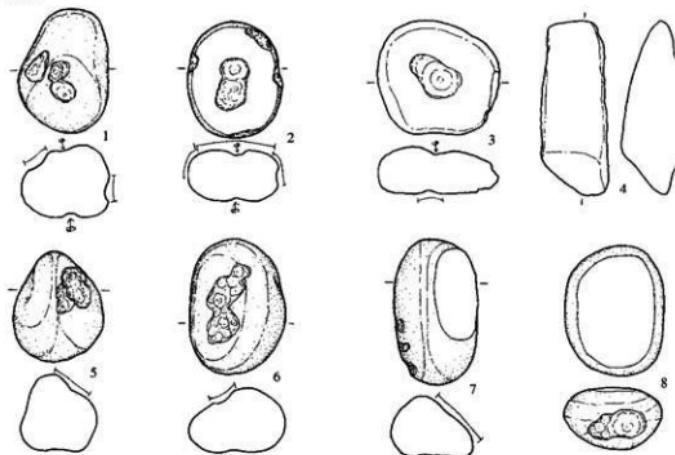


大珠類

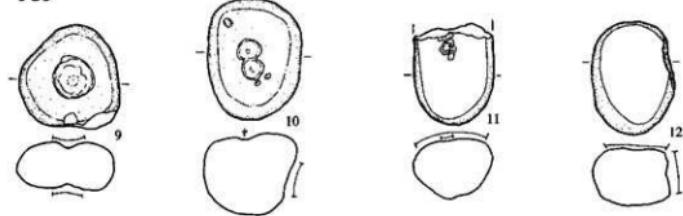


磨製石斧 2、磨製品

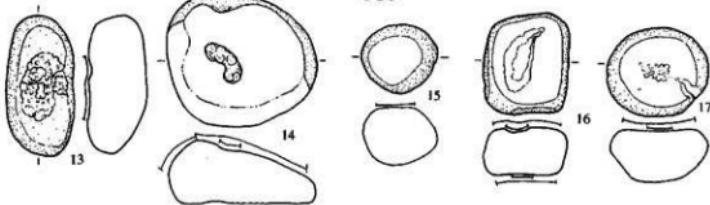
S B2



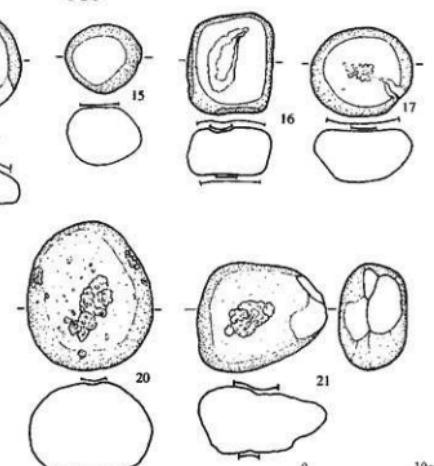
S B3



S B4



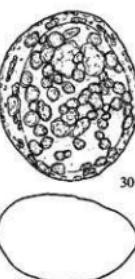
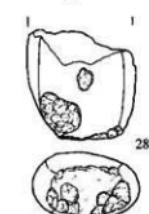
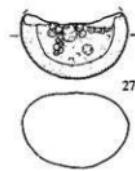
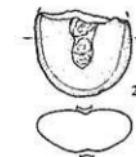
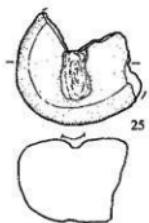
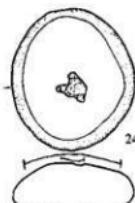
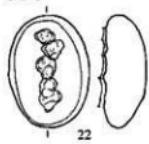
S B6



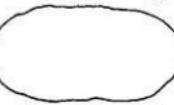
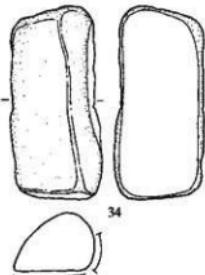
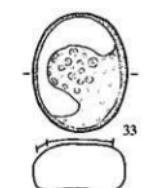
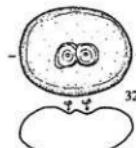
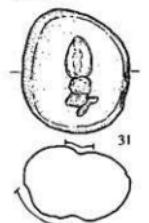
磨石類（小） 1

0 10cm

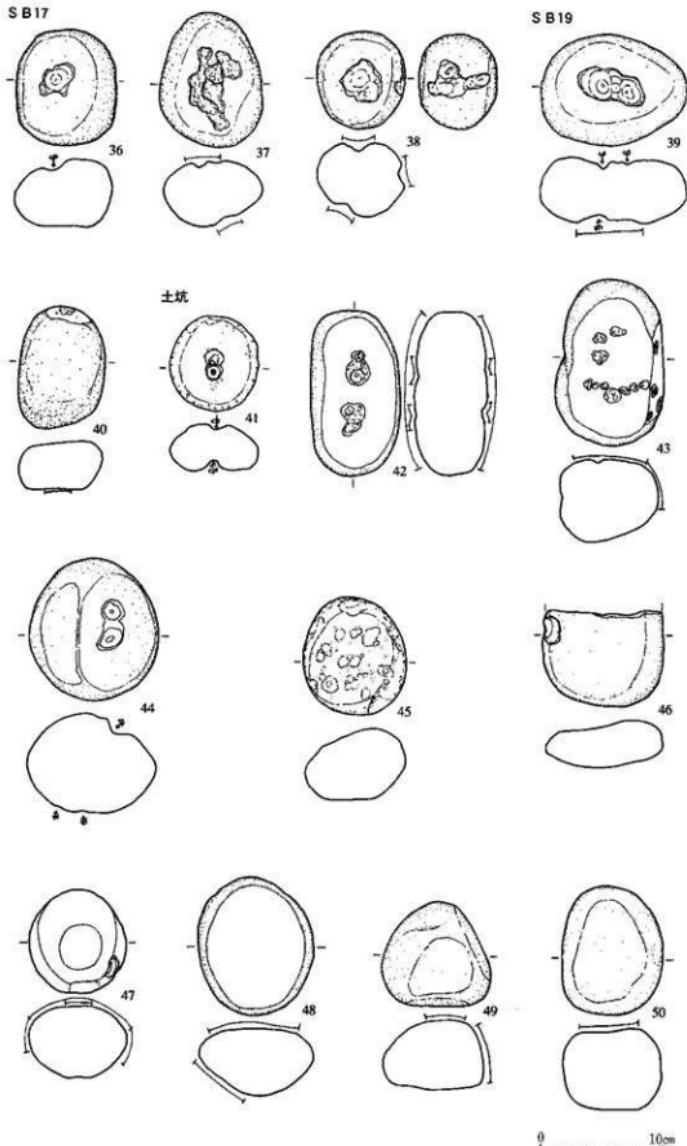
S B 9



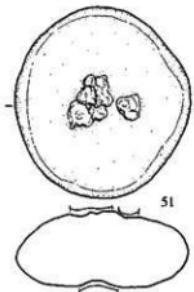
S B 16



磨石類（小）2

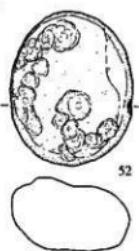


磨石類（小）3

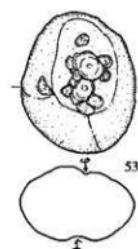


51

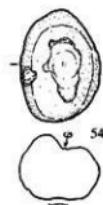
溝



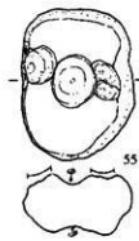
52



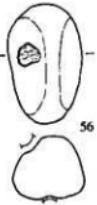
53



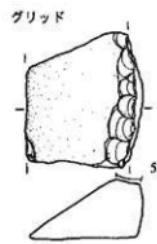
54



55



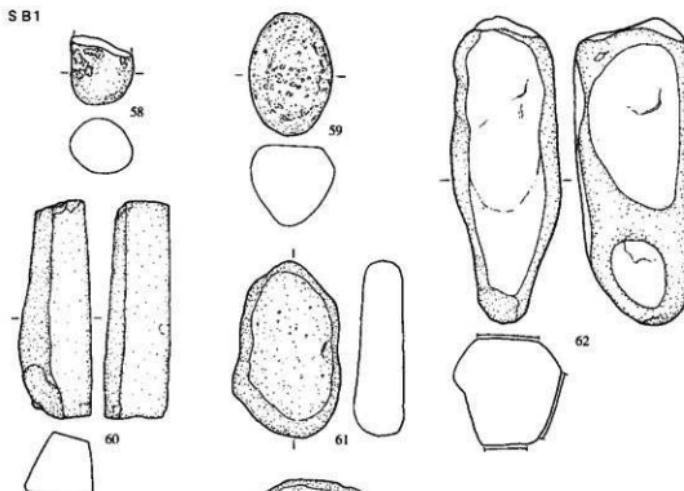
56



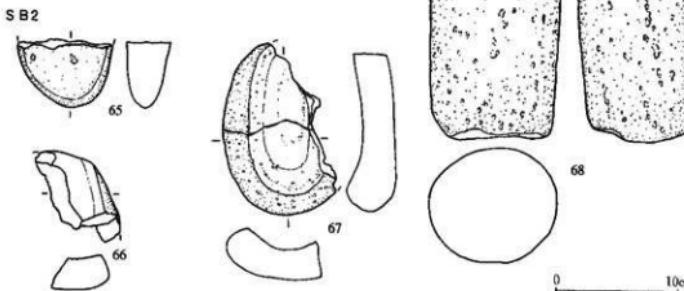
57

0 10cm

S B1

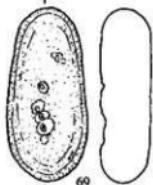


S B2

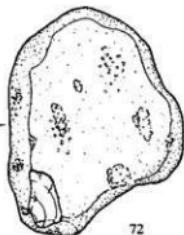


磨石類（大） I

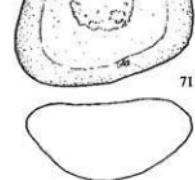
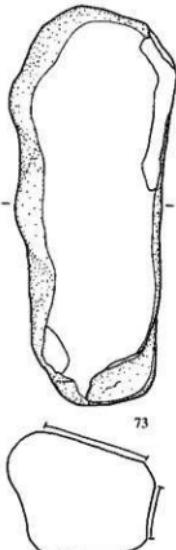
SB3



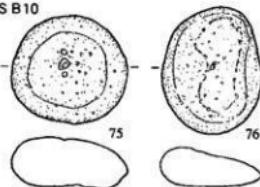
SB5



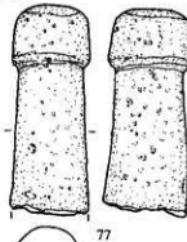
SB9



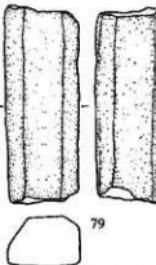
SB10



SB11



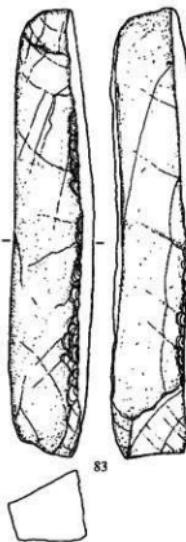
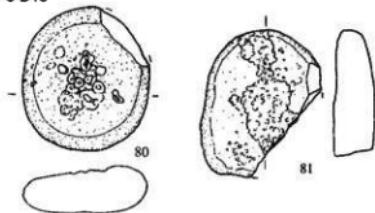
SB13



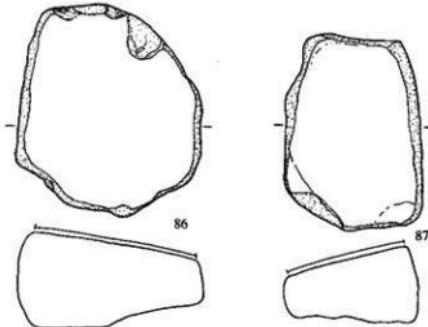
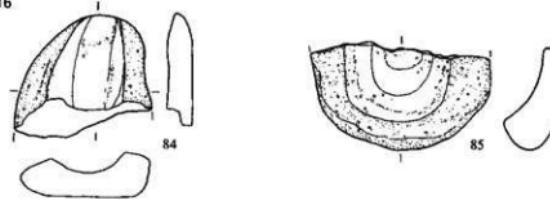
磨石類（大）2

0 20cm

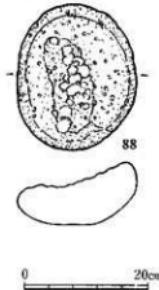
S B15



S B16

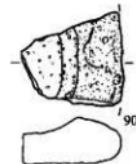
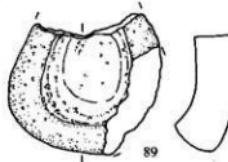


S B18

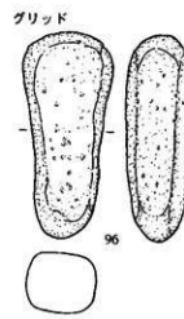
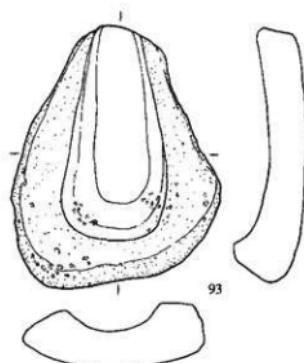
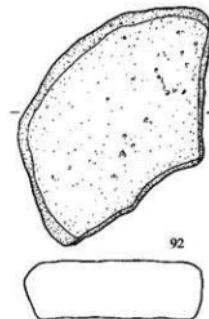
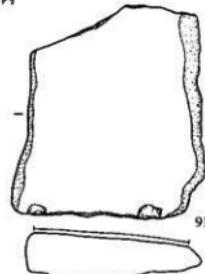


磨石類（大）3

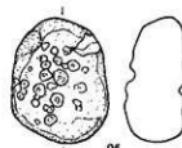
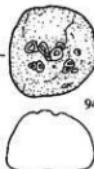
S B 19



住居内



ピット



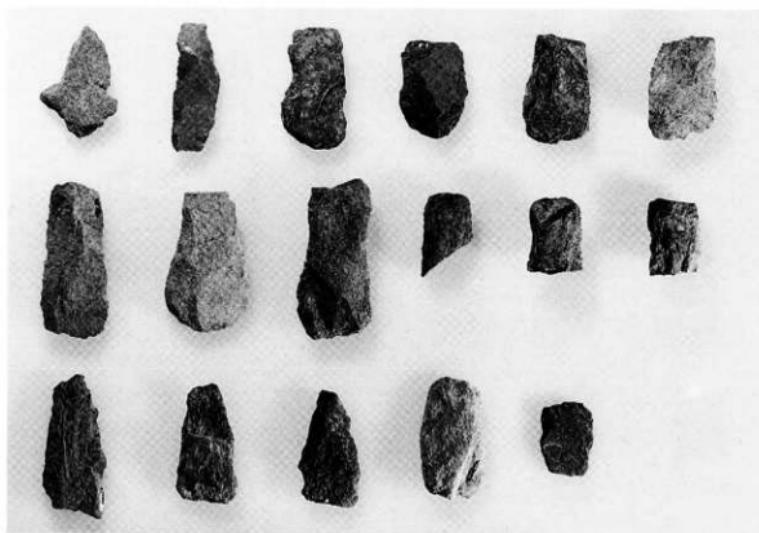
磨石類（大）4

0 20cm

写真図版

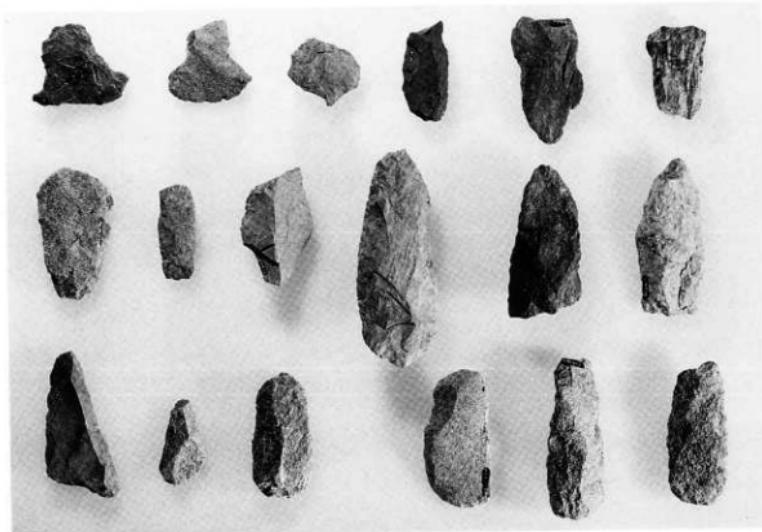


中形剥片石器 (1:4) SB-1

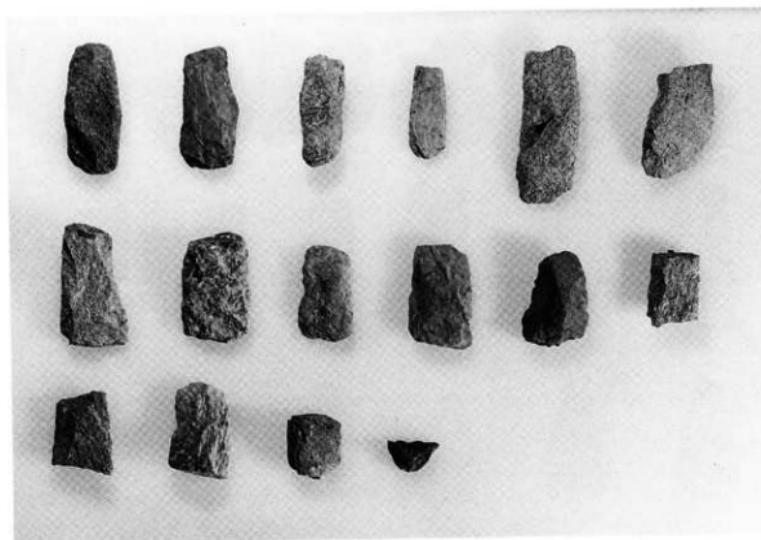


中形剥片石器 (1:4) SB-2

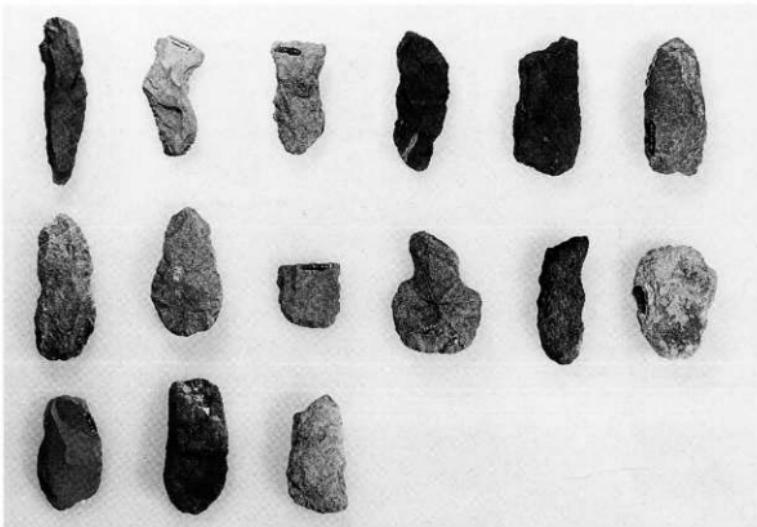
圖版2



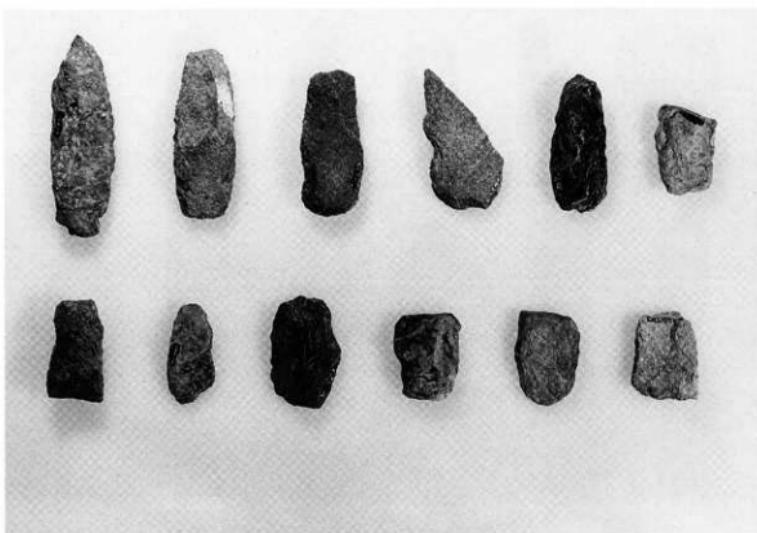
中形剥片石器 (1:4) SB-3



中形剥片石器 (1:4) SB-3

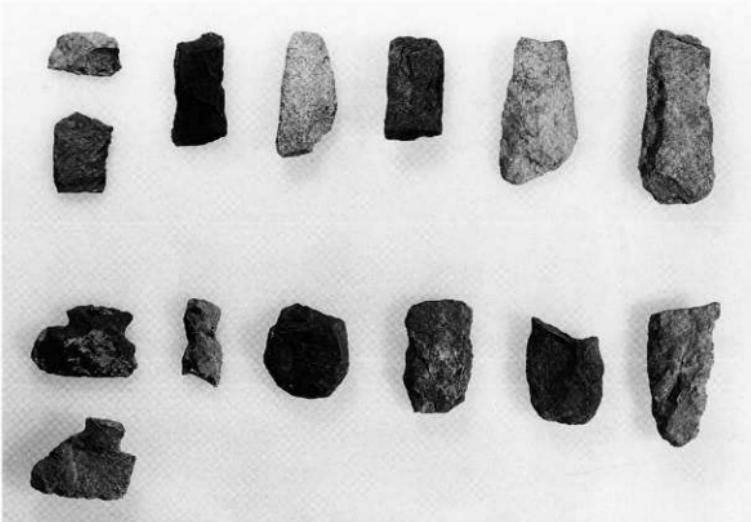


中形剥片石器 (1 : 4) SB-4

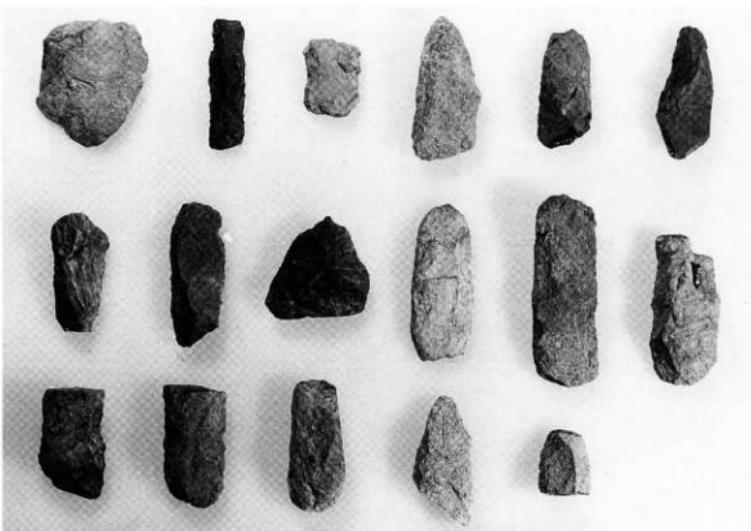


中形剥片石器 (1 : 4) SB-4

図版4



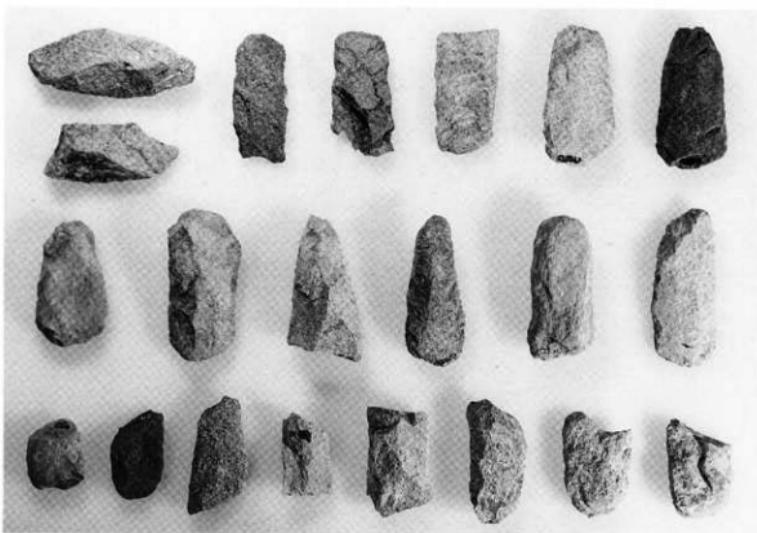
中形剥片石器 (1:4) SB-5・6



中形剥片石器 (1:4) SB-7・8

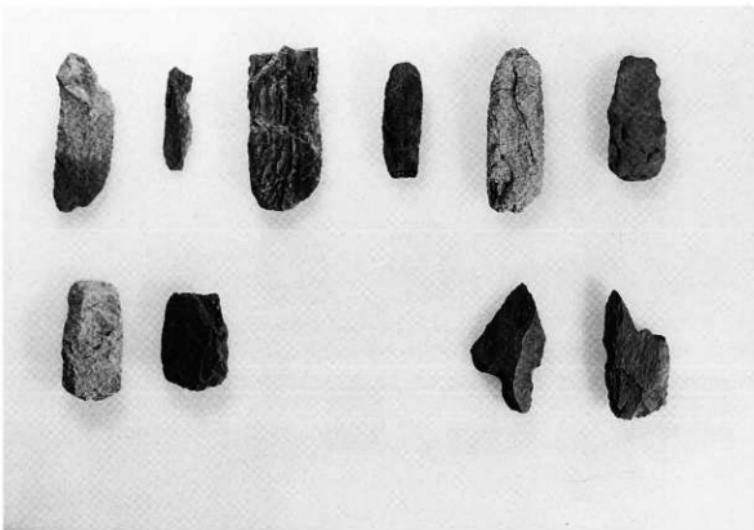


中形剥片石器 (1 : 4) SB-9

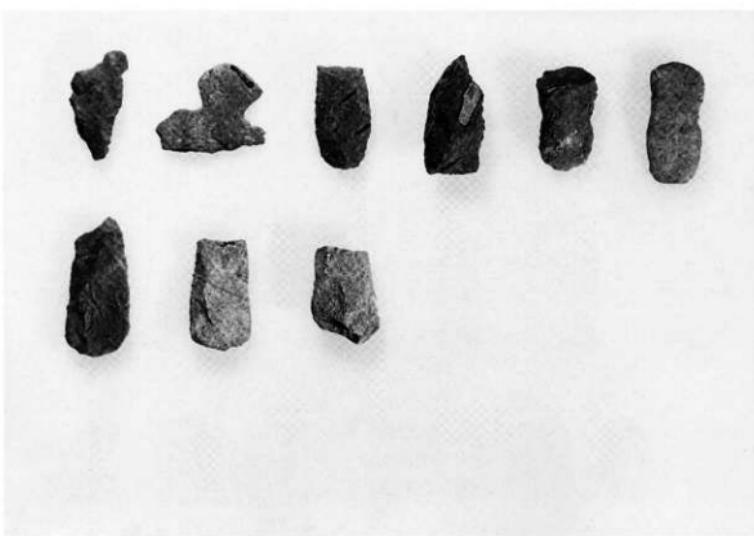


中形剥片石器 (1 : 4) SB-9

図版 6



中形剥片石器 (1 : 4) SB-10・11



中形剥片石器 (1 : 4) SB-12

图版 7



中形剥片石器 (1 : 4) SB-13



中形剥片石器 (1 : 4) SB-14

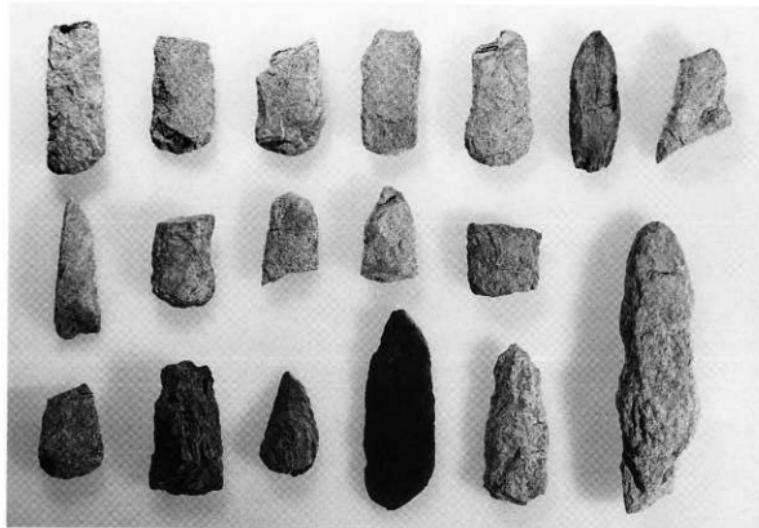
図版 8



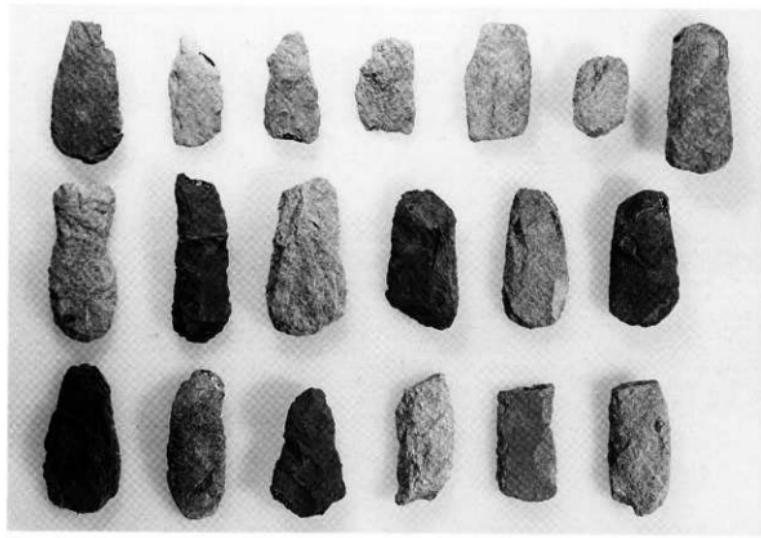
中形剥片石器 (1 : 4) SB-16



中形剥片石器 (1 : 4) SB-16

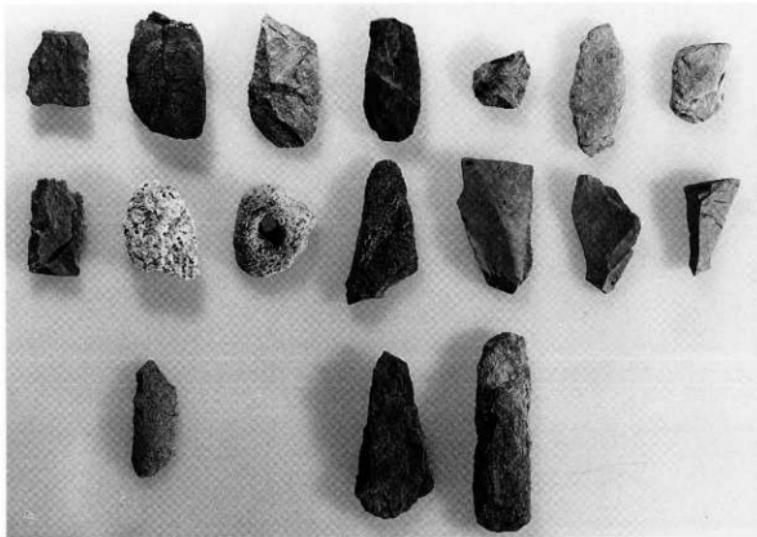


中形剥片石器 (1 : 4) SB-16



中形剥片石器 (1 : 4) SB-16

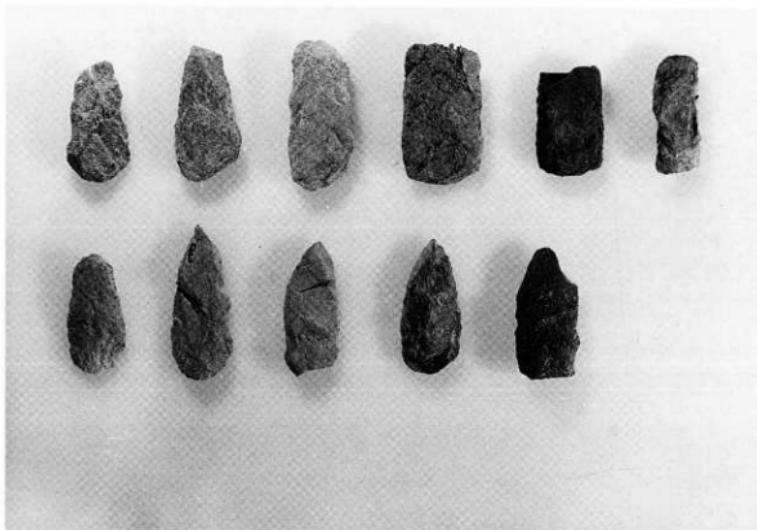
圖版10



中形剥片石器 (1 : 4) SB-16·17·18



中形剥片石器 (1 : 4) SB-19



中形剥片石器 (1 : 4) SB-19



中形剥片石器 (1 : 4) 土坑

圖版12



中形剥片石器（1：4）土坑



中形剥片石器（1：4）土坑·溝

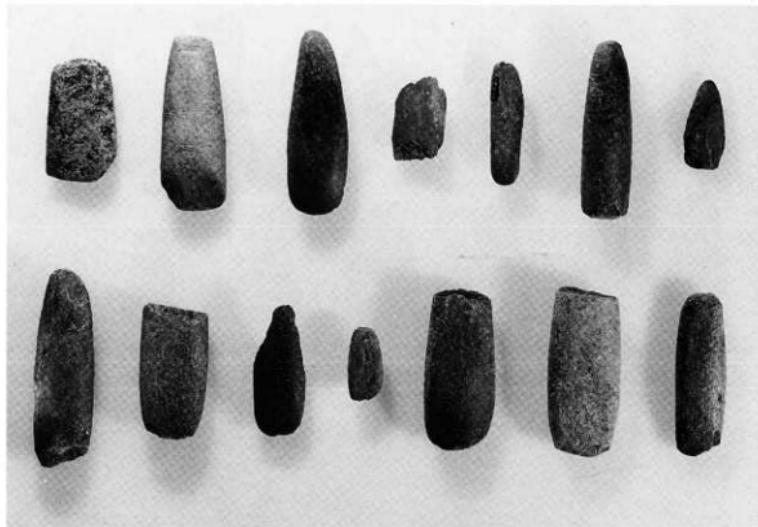


中形剥片石器（1：4）溝・グリッド

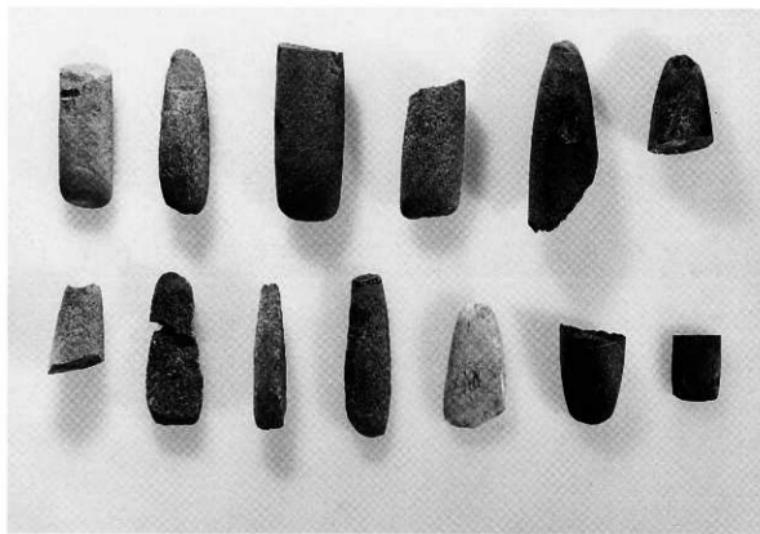


中形剥片石器（1：4）グリッド

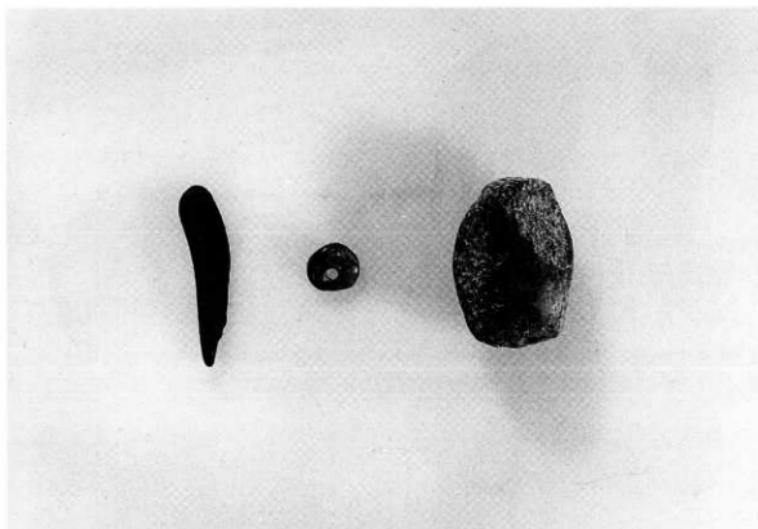
圖版14



磨製石斧 (1 : 4)



磨石石斧 (1 : 4)

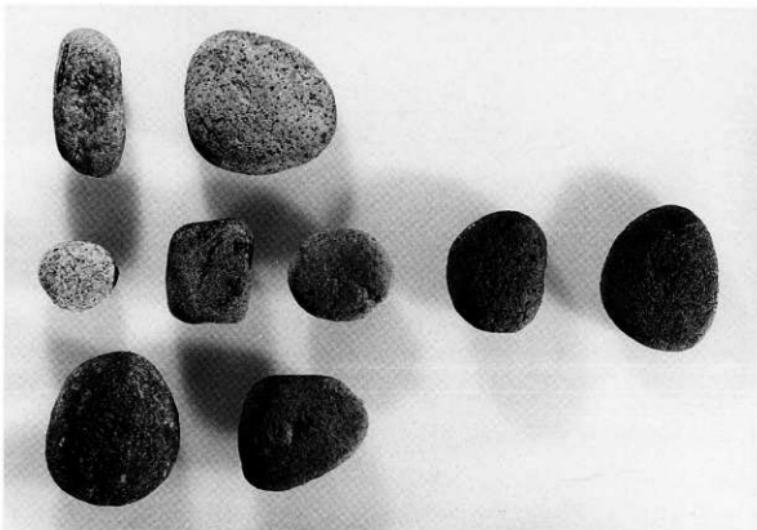


磨製品 (1 : 2)



磨石類 (1 : 4) SB-2・3

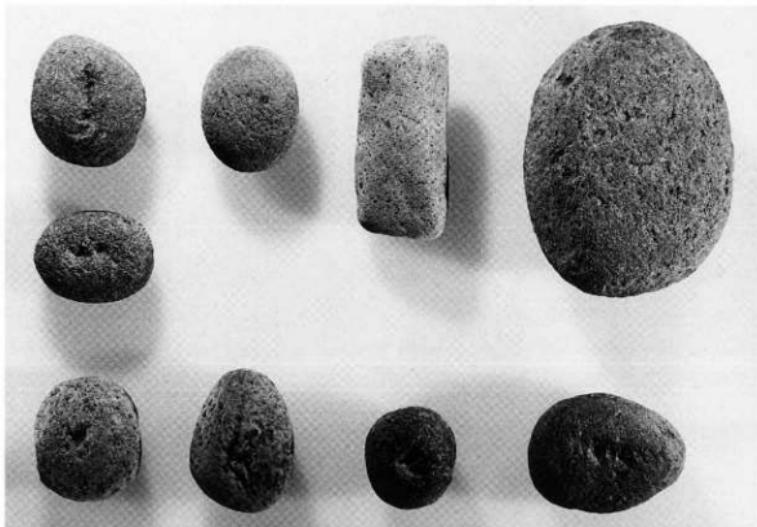
圖版16



磨石類 (1 : 4) SB-4・6



磨石類 (1 : 4) SB-9

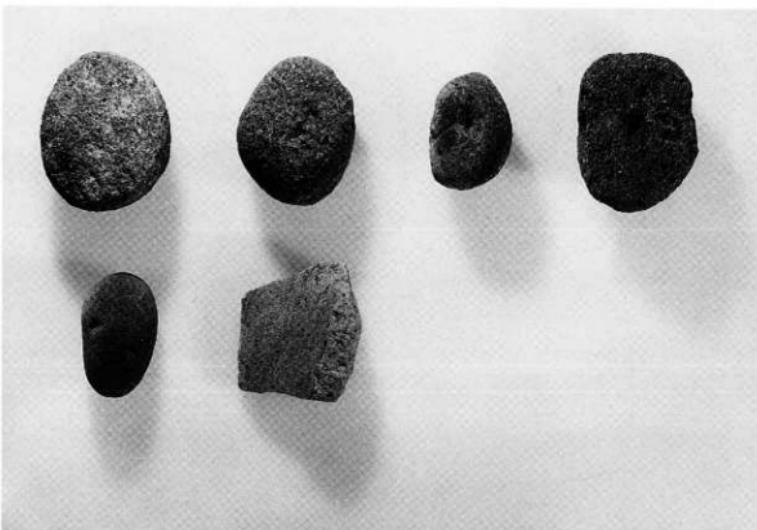


磨石類 (1:4) SB-16·17

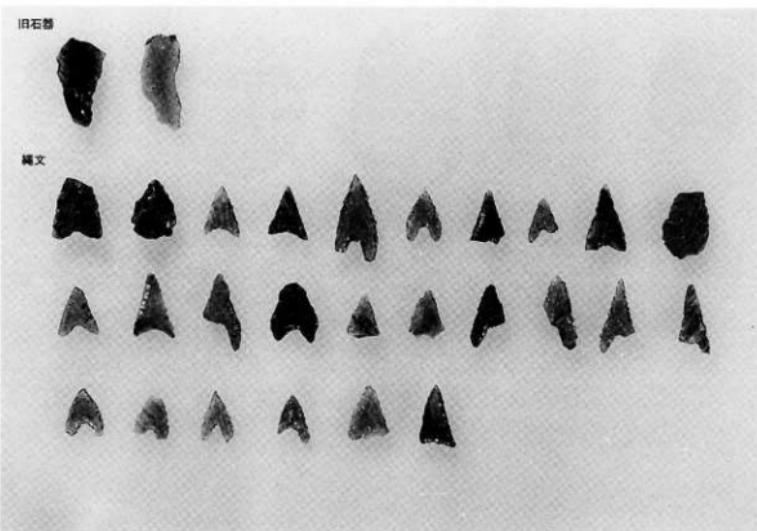


磨石類 (1:4) 土坑

図版18



磨石類 (1:4) 溝



旧石器・縄文時代の剥片石器 (1:2)



縄文時代の剥片石器（1：2）



縄文時代の剥片石器（1：2）

報告書抄録

ふりがな	こべいしだい 4 いせき I		
書名	古林第4遺跡 I (石器編)		
副書名	平成4年度埋蔵文化財発掘調査報告 I		
シリーズ	大泉村埋蔵文化財調査報告書 12集		
著者氏名	伊藤公明 角張淳一		
発行者	大泉村教育委員会		
編集機関	大泉村教育委員会		
所在地	〒409-1502 山梨県北巨摩郡大泉村谷戸3025 Tel0551 38-3115		
印刷所	ほおずき書籍舎		
発行日	平成11年3月31日		
古林第4遺跡	所在地	山梨県北巨摩郡大泉村西井出2466番地他	
	1/25,000地図名・位置・標高	谷戸	北緯35°51' 東経138°24' 標高870m
概要	調査面積	4,458m ²	
	調査期間	平成4年7月1日～平成4年9月27日	
	主要な時代	縄文時代中期中葉	
	主な遺構	縄文時代中期中葉住居跡20軒 土坑約200基 ピット数十基	
要旨	主な遺物	縄文土器 石器 土偶 石製垂飾 陶磁器 古銭	
	特記事項	縄文時代中期馬蹄形集落 ヒスイ製品	

大泉村埋蔵文化財調査報告書 12集

古林第4遺跡 I (石器編)

平成4年度埋蔵文化財発掘調査報告 I

平成11年3月31日 発行

発行 大泉村教育委員会

印刷 ほおずき書籍株式会社

〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5

電話 (026) 244-0235㈹

